

令 7 一 依 ・ 単 杉村 惇 美術 館 及 び

公 民 館 本 町 分 室 耐 震 補 強 工 事

塩 竈 市

図面リスト

番 号	図 面	番 号	図 面
A-01	特記仕様書 1	E-01	電気設備改修工事特記仕様書
A-02	特記仕様書 2	E-02	電灯・コンセント設備 2 階平面図（改修前）
A-03	特記仕様書 3	E-03	電灯・コンセント設備 2 階平面図（改修後）
A-04	特記仕様書 4		
A-05	特記仕様書 5		
A-06	特記仕様書 6	M-01	機械設備改修工事特記仕様書
A-07	案内図・配置図	M-02	機械設備 改修 1 階平面図
A-08	改修範囲図	M-03	機械設備 改修 2 階平面図
A-09	施工手順・工程（案）		
A-10	仮設参考図 1（配置図）		
A-11	仮設参考図 2（平面図）		
A-12	仮設参考図 3（大講堂）		
A-13	改修前（前回工事）仕上表 1		
A-14	改修前（前回工事）仕上表 2		
A-15	改修前 1 階平面図		
A-16	改修前 2 階平面図		
A-17	改修前 立面図 1		
A-18	改修前 立面図 2		
A-19	改修前 矩計図 1		
A-20	改修前 矩計図 2		
A-21	改修前 矩計図 3		
A-22	改修前 軸組図		
A-23	仕上表		
A-24	常設展示室 改修範囲図		
A-25	倉庫（構造用合板補強部） 改修範囲図		
A-26	ロビーギャラリー 改修範囲図		
A-27	企画展示室 1 ・廊下 改修範囲図		
A-28	企画展示室 2 改修範囲図		
A-29	改修部分詳細図 1（常設展示室側）		
A-30	改修部分詳細図 2（企画展示室側）		
A-31	改修部分詳細図 3（オイルダンパー取付部）		
A-32	オイルダンパー仕様書		
A-33	C B 壁・R C 構造部補強詳細図 1		
A-34	C B 壁・R C 構造部補強詳細図 2（倉庫）		
A-35	C B 壁・R C 構造部補強詳細図 3（大講堂）		
A-36	石綿含有建材分析調査 検体採取箇所		

[illegible]

5

建具改修工事

6

内装改修工事

7

外装改修工事

8

設備・電気工

9

その他

①. 改修範囲

既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
・壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
※図示による
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
・壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
※図示による
既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
・既存のまま
※図示による

<6. 1. 3>

②. 既存床の撤去及び下地補修

ビニル床シート等の除去
・仕上材のみ（接着剤とも）
・下地とも（※範囲は図示による 除く範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法
・機械的除去工法
・目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。

<6. 2. 2>

③. 既存壁の撤去及び下地補修

壁撤去に伴う他の構造体の補修
・改修標準仕様書4. 3. 10によるモルタル塗り（全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※図示による）

<6. 3. 2>

④. 施工一般

⑤. 製材

材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6. 5. 2(1) (イ) (b) による

<6. 5. 2>

⑥. 造作用集成材

・ JAS 1083-5 製材 - 第5部に基づく下地用製材
施工箇所 寸法 (mm) 等級 含水率 保存処理

		※2級	※A種	B種	
		※2級	※A種	B種	

・ JAS 1083-2 製材 - 第2部に基づく造作用製材
施工箇所 寸法 (mm) 等級 含水率 保存処理
見え掛り面 ※上小節 ※A種 B種
見え掛り面以外 ※小節以上 ※A種 B種

・ JAS 1083-6 製材 - 第6部に基づく広葉樹製材
施工箇所 寸法 (mm) 等級 含水率 保存処理

		※1等	※10%以下	A種 B種	
		※1等	※10%以下	A種 B種	

・ JAS 1083 (製材) 以外の製材
施工箇所 寸法 (mm) 材面の品質 防虫処理 含水率

	()	・適用する	※A種
	・造作材の場合 (※A種 B種)	・適用しない	B種
	()	・適用する	※A種
	・造作材の場合 (※A種 B種)	・適用しない	B種

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材
施工箇所 品名 樹種名 寸法 (mm) 見付け材面 見付け材面の品質

				※1等	・2等
				※1等	・2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材
施工箇所 品名 材種名 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面 見付け材面の品質

		化粧薄板：芯材：		※1等	・2等
		化粧薄板：芯材：		※1等	・2等

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材
施工箇所 材種名 寸法 (mm) 見付け材面の品質 含水率

				※15%以下
				※15%以下

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材
施工箇所 材種名 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面の品質 含水率

	化粧薄板：芯材：			※15%以下
	化粧薄板：芯材：			※15%以下

<6. 5. 2>

⑦. 造作用単板積層材

・ JAS 0701 に基づく造作用単板積層材
施工箇所 品名 寸法 (mm) 表面の品質 防虫処理

				・適用する
				・適用しない
				・適用する
				・適用しない

・ JAS 0701 以外の造作用単板積層材
施工箇所 寸法 (mm) 表面の品質 含水率 防虫処理

			※14%以下	・適用する
			※14%以下	・適用しない
			・	・適用する
			・	・適用しない

・ JAS 3079 に基づく直交集成板
施工箇所 品名 強度等級 種別 接着性能 (使用環境) 樹種名 寸法 (mm)

・「合板の日本農林規格」による普通合板
施工箇所 厚さ (mm) 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 防虫処理

	※5. 5		※1類	・2類	・適用する
	・		・	・	・適用しない

・「合板の日本農林規格」による構造用合板
施工箇所 等級 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 厚さ (mm) 防虫処理 強度等級

	※2級以上		※1類	・特類	※C-D以上	※12	・適用する	・適用しない
	・1級		・	・	・	・	・	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板
施工箇所 厚さ (mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理

			・1類	・特類	・適用する
					・適用しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板
施工箇所 化粧板に使用する単板の樹種名 厚さ (mm) 接着の程度 防虫処理

			・1類	・2類	・適用する
					・適用しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板
施工箇所 厚さ (mm) 接着の程度 単板の樹種名 化粧加工の方法 防虫処理

		・1類	・2類		・適用する
					・適用しない

・パーティクルボード
施工箇所 表裏面の状態による区分 曲げ強さによる区分 耐水性による区分 難燃性による区分 厚さ (mm)

	※13タイプ	※P又はM			※15
	・	・			・

・ JAS 0360 に基づく構造用パネル
施工箇所 寸法 (mm)

・ MDF
施工箇所 厚さ (mm) 表裏面の状態による区分 曲げ強さによる区分 接着剤による区分 難燃性による区分

造作材の化粧面の釘打ち
※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し
諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
(改修標準仕様書表6. 5. 3～5に示す程度の市販品 表8. 20. 1のF種程度)
・ (形状： 寸法： 材質：)
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理
適用部材 保存処理性能区分

	・ K2	・ K3	・ K4
	・ K2	・ K3	・ K4
	・ K2	・ K3	・ K4

<6. 5. 3>
<6. 5. 3, 4>
<6. 5. 5>

⑧. 合板等

⑨. 接合具等

⑩. 接着剤

11. 防腐・防蟻処理

20. ガラスブロック積み

・複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
・建具表による

断熱性による区分
・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・ G ・ S
乾燥気体の種類
・ 空気 ・ アルゴン
・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による

日射熱遮へい性による区分
・ 1種 ・ 2種 ・ 3種
耐久性による区分 (日射熱遮へい性が2種の場合)
・ A類 ・ B類
・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による

<5. 14. 5>

呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整目位置 (mm)	防火性能
・ 160×160	・ 95				
・ 200×200	・ 95				

壁用金属枠及び補強材
※図示による
骨格
材質
※ステンレス鋼(SUS304)
・
寸法
※径5. 5mm
形状
※はしご形状複筋及び単筋
・

[illegible]

7

塗装改修工事

⑤. 塗装

塗装の種類		塗装面		工程	
		塗替え	新規		
○合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 種類	木部屋外	※B種	・	※A種	・
	木部屋内	※B種	・	※B種	・
	鉄鋼面	※B種	・	※B種	・A種
	垂鉛めっき鋼面 (鋼製建具)	※A種	・	※B種	・
※1種 ・2種	垂鉛めっき鋼面 (鋼製建具以外)	※B種	・	※B種	・
○クリヤラッカー塗り (GL)		※B種	・A種	※B種	・A種
		種類:		種類:	
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)		※B種	・A種	※B種	・A種
・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	・		—	
	上塗り等級 () 級	・		—	
	垂鉛めっき鋼面	・		—	
・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・		・A-1種	・
				・B-1種	・
○合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)	コンクリート面等	※B種	・	※B種	・A種
	屋内の木部	※B種	・	※A種	・
	屋内の鉄鋼面	※B種	・	※B種	・A種
	屋内の垂鉛めっき面	※A種	・	※A種	・B種
○合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)		※B種	・	・A種	・B種
○ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		※B種	・	※B種	・A種
・ステイン塗り		・ビグメントステイン塗り		・オイルステイン塗り (OS)	
・木材保護塗料塗り (WP)		※B種	・A種	※B種	・A種
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面) の塗替えの場合のしみ止め ※B種又はC種の場合は、改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしめ止めシートとする					
合成樹脂エマルジョンペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め ※B種又はC種の場合は、改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしめ止めシートとする					
クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用 ・適用しない ・適用する (着色剤: ・溶剤系着色剤 ・油性染料着色剤)					
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用 ・適用する ・適用しない					
オイルステイン塗りの工程等 ・					

8

耐震改修工事 共通事項

①. 適用範囲

・改修標準仕様書 8章 耐震改修工事

・改修標準仕様書において8章耐震改修工事以外の改修工事で8章を引用している部分

・

工事内容

・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事

・鉄骨ブレースの設置工事

・柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)

・柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)

・連続繊維補強工事

・耐震スリット新設工事

・免震改修工事

・制振改修工事

・土工事及び地業工事

○図示による

<8.21.2、3><8.22.2、3><8.23.2、3><8.24.4><8.25.2><8.28.2>

既存構造体の撤去

撤去範囲

○図示による ()

はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置

・図示による ()

既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度

・既存柱、梁面

・打継ぎ面等の15～30%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸を、全体にわたってつける。

・

・既存壁

・打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸を、全体にわたってつける。

・

既存杭の撤去等

・撤去範囲及び撤去方法

・図示による ()

②. 既存部分の処理等

<8.21.2、3><8.22.2、3><8.23.2、3><8.24.4><8.25.2><8.28.2>

既存構造体の撤去

撤去範囲

○図示による ()

はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置

・図示による ()

既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度

・既存柱、梁面

・打継ぎ面等の15～30%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸を、全体にわたってつける。

・

・既存壁

・打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸を、全体にわたってつける。

・

既存杭の撤去等

・撤去範囲及び撤去方法

・図示による ()

9

鉄筋工事

1. 鉄筋

鉄筋の種類等

<8.2.1>

種類の記号

呼び径 (mm)

備考

※SD295

※SD345

・

・

鉄線の形状等

<8.2.2>

種類

種類の記号

鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)

使用部位

・溶接金網

・鉄筋格子

鉄筋の継手の方法等

<8.3.4><8.4.2、3>

部 位

継 手 方 法

呼 び 径 (mm)

柱、梁の主筋

※ガス圧接 ・機械式継手

・溶接継手

耐力壁の鉄筋

・重ね継手

その他の鉄筋 ()

・重ね継手

継手位置

・図示による

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ

・図示による

耐力壁の重ね継手の長さ

・図示による

鉄筋の定着

鉄筋の定着長さ

・図示による

機械式定着工法

・適用する

適用箇所

・図示による ()

・

種類

・摩擦圧接接合

・螺合グラウト固定

・嵌合グラウト固定

工法

※第三者機関の評定等を取得している工法とする

必要定着長さ

※評定等の評価内容による

補強筋形状

※評定等の評価内容による

8-1. 耐震改修工事 鉄筋工事

8-2. 耐震改修工事 コンクリート工事 該当項目なし

8-3. 耐震改修工事 鉄骨工事

2. 溶接金網

鉄筋の継手

鉄筋の定着

3. 鉄筋の継手

鉄筋の定着

4. 鉄筋の定着

5. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)

<8.3.5>

最小かぶり厚さ

・図示による

・軽量コンクリートを適用する場合

・あり 適用箇所 ()

・最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm

・耐久性上不利な箇所がある場合 (塩害等を受けるおそれのある部分等)

・あり 適用箇所 ()

・最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm

6. 圧接完了後の試験

<8.3.8>

超音波探傷試験

※行う (全圧接部)

7. 機械式継手

<8.4.2>

適用箇所

※図示による ()

H12建告第1463号に適合する性能

・A級

・

種類

・ねじ式鉄筋継手

・充填方式

・無機グラウト方式

・有機グラウト方式

・

・端部ねじ加工継手

・モルタル充填式継手

・

工法

※第三者機関の評定等を取得している工法とする

鉄筋相互のあき

※評定等の評価内容による

品質の確認

※評定等の評価内容による

検査

※評定等の評価内容による

施工完了後の継手部の試験

・外観試験

試験対象

※全数

試験項目

・評定等の評価内容による

試験方法

・評定等の評価内容による

・超音波測定試験

試験対象

・抜取り

ロット

・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度にする。

・

試験の箇所数

1ロットに対して () 箇所

・全数

8-2

コンクリート工事

1. コンクリートの種類

<8.1.3>

コンクリートの類別

※Ⅰ類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)

・Ⅱ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

2. コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

<8.1.3><8.1.4><8.2.5><8.9.2>

設計基準強度 (N/mm²)

スランブ (cm)

気乾単位容積質量 (t/m³)

適用箇所

・24

・

・2.3程度

・

・

・

構造体強度補正值 ※改修標準仕様書表8.2.4による

・

・軽量コンクリート

設計基準強度 (N/mm²)

スランブ (cm)

気乾単位容積質量 (t/m³)

種類

適用箇所

・

※21

・

・

・1種

・2種

・

・

・

構造体強度補正值 ※改修標準仕様書表8.2.4による

・

・

3. セメント

<8.2.5>

種類

※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された) 規定の他、水和熱が7日目で352 J/g 以下、かつ28日目402 J/g 以下のものとする)

適用箇所 ()

・高炉セメントB種

適用箇所 ()

・フライアッシュセメントB種

適用箇所 ()

・

アルカリシリカ反応性による区分

<8.2.5>

※A

・B

4. 骨材

<8.2.5>

5. 混和材料

<8.2.5>

・混和剤

混和剤の種類

※改修標準仕様書 8.2.5(4) (a) による

・

・混和材

混和材の種類

※改修標準仕様書 8.2.5(4) (b) による

・

6. 構造体用モルタル

<8.2.6>

構造体用モルタル

圧縮強度 ()

フロー値 ()

8. 溶接継手

<8.4.3>

適用箇所

・図示による ()

H12建告第1463号に適合する性能

・A級

溶接継手の工法

・図示による ()

施工完了後の継手部の試験

・外観試験

試験対象

※全数

試験項目

・評定等の評価内容による

試験方法

・評定等の評価内容による

・超音波探傷試験

試験対象

・抜取り

ロット

・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度にする。

・

試験の箇所数

1ロットに対して () 箇所

・全数

9. 割製補強筋

<8.21.6><8.22.7>

形状

・スパイラル筋

種類

・SR235またはSWM-P

呼び径、曲げ直径、ピッチ

・図示による

・

1. コンクリートの種類

<8.1.3>

コンクリートの類別

※Ⅰ類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)

・Ⅱ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

2. コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

<8.1.3><8.1.4><8.2.5><8.9.2>

設計基準強度 (N/mm²)

スランブ (cm)

気乾単位容積質量 (t/m³)

適用箇所

・24

・

・2.3程度

・

・

・

構造体強度補正值 ※改修標準仕様書表8.2.4による

・

・軽量コンクリート

設計基準強度 (N/mm²)

スランブ (cm)

気乾単位容積質量 (t/m³)

種類

適用箇所

・

※21

・

・

・1種

・2種

・

・

・

構造体強度補正值 ※改修標準仕様書表8.2.4による

・

・

3. セメント

<8.2.5>

種類

※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された) 規定の他、水和熱が7日目で352 J/g 以下、かつ28日目402 J/g 以下のものとする)

適用箇所 ()

・高炉セメントB種

適用箇所 ()

・フライアッシュセメントB種

適用箇所 ()

・

アルカリシリカ反応性による区分

<8.2.5>

※A

・B

4. 骨材

<8.2.5>

5. 混和材料

<8.2.5>

・混和剤

混和剤の種類

※改修標準仕様書 8.2.5(4) (a) による

・

・混和材

混和材の種類

※改修標準仕様書 8.2.5(4) (b) による

・

6. 構造体用モルタル

<8.2.6>

構造体用モルタル

圧縮強度 ()

フロー値 ()

7. 暑中コンクリート

<8.10.2>

構造体強度補正值

※6N/mm²

・

8. マスコンクリート

(6.13.1) (6.13.2)

適用箇所

・図示による ()

セメントの種類

※標準仕様書6.13.2(2) (7) による

・普通ポルトランドセメント

・中庸熱ポルトランドセメント

・低熱ポルトランドセメント

・高炉セメントB種

・フライアッシュセメントB種

・シリカセメント

・

混和材料

・混和剤

混和剤の種類

※標準仕様書6.13.2(2) (7) による

・

・混和材

混和材の種類

※標準仕様書6.13.2(2) (4) による

・

スランブ

※15cm

構造体強度補正值

※標準仕様書表6.13.1による

・

9. 無筋コンクリート

<8.11.1>

コンクリートの種類

※普通コンクリート

設計基準強度

※18N/mm²

・

スランブ

※15cm又は18cm

セメントの種類

※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種

・高炉セメントB種

・フライアッシュセメントB種

適用箇所

・図示による ()

・

10. 流動化コンクリート

(6.15.1)

適用箇所

・図示による ()

・

11. 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

(6.6.4) (6.8.1) (9.7.3) <3.7.3>

打継ぎの位置

・図示による ()

・

目地寸法

・標準仕様書 9.7.3(1) (7) による

・図示による ()

ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法

・図示による ()

・

12. 構造体コンクリートの仕上り

<8.1.4>

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種類

適用箇所

・A種

・B種

・C種

コンクリートの仕上りの平たんさ (柱・梁・壁)

種類

適用箇所

・a種

化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り

・b種

仕上塗材塗り

・c種

セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り

胴縁下地

コンクリートの仕上りの平たんさ (床)

種類

適用箇所

・a種

合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア (置敷式)

・b種

カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り

・c種

タイル張り、モルタル塗り、二重床

13. 打増し厚さ (打放し仕上部)

<8.7.8>

打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る)

・20mm

・

打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)

・10mm

・20mm

・

14. 型枠

(6.8.2) <8.2.7>

せき板の材料及び厚さ

・合板 (※12mm

・

・

・断熱材を兼用した型枠材

使用箇所

・図示による ()

・

・M C R工法用シート

適用箇所

・図示による ()

・

打増し厚さ

・20mm

・

打増し範囲

・図示による ()

・

スリーブの材質・規格等

・図示による ()

・

15. 型枠の加工及び組立

<8.7.8>

シアコネクタをセパレーターとして使用

使用箇所

・図示による ()

・

特記:

株式会社 伝統建築研究所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図:

設計:

担当:

工事名:

令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名:

特記仕様書 4

図面番号:

A-04

縮尺:

NON

設計年月日:

区分:

16. コンクリートの打込み工法等	コンクリートの打設工法の種類			アンカーボルト			耐火被覆			8-5 グラウト工事			8-5 1. 柱底均しモルタル及びグラウト材			8-5 1. 柱底均しモルタル ※無収縮モルタル ・グラウト材 無収縮グラウト材の材質等 ・セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。 セメント JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。 ・砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態は、規定しない。													
	補強工法 ・現場打ちコンクリート壁の増設工事 ・柱補強工事（溶接金網巻き及び溶接封鎖閉鎖フープ巻き工法） ・鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 柱頭及び柱脚の隙間の寸法 ・柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠 ・発泡プラスチック保温材等を埋込む ・既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ ・補強後の仕上げ			構造用アンカーボルト 種類 ・ABR400 ・ABR490 ・建方用アンカーボルト 種類 ・SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上りの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による ・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト適用箇所 ・図示による 種類 ・SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上りの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による 溶接材料 ・改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による 種類等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・16 ・19 ・22 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(2)による ・アンダーカットの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(3)による ・食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・仮組 仮組を行う範囲 ・図示による 試験の要領 ・図示による 開先の形状 ・図示による ・鋼製エンドタブの切断する部分 切断する箇所 切断範囲 ・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。 ・切断面の仕上げ ・改修標準仕様書8.15.7(1)(a)(b)②による ・スカラップの形状 ・図示による 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・図示による 適用箇所 ・図示による ・柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ・抜き取り検査① ※抜き取り検査② JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・JASS 6 10.4[受入検査]e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の抜取箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・工場溶接の場合 ※全数 ・工場現場溶接の場合 ※全数 塗料の範囲 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※改修標準仕様書8.17.2(1)による ・図示による 塗料の種類 ・下記以外の鉄鋼面は、7章[塗装改修工事]による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類			(7.2.4)(7.3.2)			17. 耐火被覆			(7.18.2)~(7.18.6)			(7.2.12)													
8-3 鉄骨工事	1. 鉄骨製作工場			鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 （ ）グレード以上 ・監督職員の承諾する工場			2. 鉄骨製作工場における施工管理技術者			※配置する			3. 鋼材			種類等 種類の記号 適用箇所（主要な部分） 規格 ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる													
	4. 高力ボルト			高力ボルトの種類 ※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による 摩擦面の処理方法 ・改修標準仕様書8.14.2(1)による。 ・すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。			5. 普通ボルト			ボルト及びナットの材料 ・標準仕様書 表7/2.3(JIS附属書品)又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180とする。 ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。 ナットの規格は、JIS B 1181とする。 ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。 座金 ※JIS B 1256による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による 母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による 摩擦面の処理方法 ・プラスト処理(表面粗度50μmRz以上) ・りん酸塩処理 ・すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.20.5(1)(7)又は(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。			(8.2.9)~(8.13.2)~(8.14.2)			(8.13.2)~(7.2.3)			(8.13.2)~(8.14.2)~(8.20.5)										
8-6 連続繊維補強工事	1. 連続繊維シート			連続繊維の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 ・引張強度(含浸硬化後) ・ヤング係数(含浸硬化後) ・下地処理 ・ひび割れ部改修			2. 仕上げ			※JIS A 6909(建築用仕上塗材)による ・試験数量 ・図示による 補強工事後の仕上げ ・図示による			8-7 耐震スリット新設工事			1. 耐震スリットの方式、幅及び深さ			方式 ・完全 ・部分 幅及び深さ ・図示による 設置箇所 ・図示による 既存撤去部の埋込み配管等の探索方法 ・鉄筋探査機(金属探知機)により探索し、鉄筋、配管類の位置に墨出しする ・はつりだしによる 2. 耐震スリットの施工前の埋込み配管等の探索 3. 耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等 ・耐火材 使用箇所及び仕様 ・図示による 遮音材 使用箇所及び仕様 ・図示による 撤去部の補修 ※撤去材と同一材で補修										
	2. 耐震改修工事			グラウト工事			3. 耐震改修工事			連続繊維補強工事			4. 耐震改修工事			耐震スリット新設工事			該当項目なし										
10. ユニット及びその他の工事															11. 総揮発性有機化合物(TVOC)測定仕様書														
特記：															図面番号：			図面番号：											
株式会社 伝統建築研究所															一級建築士 No.254986			検図：			工事名：			図面番号：					
宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所															代表取締役 高橋直子			設計：			令7-依・単 杉村惇美術館及び			特記仕様書 5					
															担当：			8-7-依・単 公民館本町分室耐震補強工事			縮尺：			図面番号：					
																					縮尺：NON			設計年月日：			区分：		

8-8

土工事及び地業工事

1. 埋戻し及び盛土

2. 杭地業

3. 砂利地業

4. 捨コンクリート地業

材料及び工法

支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む）

杭の材料、工法、寸法、施工方法等

試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法

杭の継手の箇所数、材料、工法等

杭の溶接継手

技能資格者の技量

溶接部の確認

杭頭処理

処理しない

処理する

処理方法（切断にともなう補強方法含む）

杭頭の中詰め材料

基礎のコンクリートと同調合のもの

杭の精度

水平方法の位置ずれ

建て込み時の杭の鉛直度

記録する施工状況等

材料

砂利厚さ

厚さ

適用箇所

捨コンクリートの厚さ

厚さ

適用箇所

コンクリートの種類

設計基準強度

スラブ

①. 石綿含有建材の除去工事

9 環境配慮工事

施工調査

適用

測定名称

測定時期

測定場所

測定箇所数

測定方法

測定名称

測定方法

石綿含有建材の処理

石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第一種）の除去

石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第一種以外）の除去

2. 断熱7スファルト防水改修工事

3. 外断熱改修工事

4. 断熱・防露改修工事

石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去

石綿含有建材除去後の仕上げ工事

改修特記仕様書3章による。

断熱材

断熱材の種類

断熱材の厚さ（mm）

施工箇所

ホルムアルデヒド放散量

外装材

鋼材

改修特記仕様書第8章

改修特記仕様書第3章

既存外壁の処置

既存外壁仕上材の撤去

下地面の清掃

欠損部の改修工法

不陸等の下地調整

断熱材の施工

外装材の施工

通気層の有無

外装材の外壁への取付け

笠木の施工

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量

開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量

工法

断熱材打込み工法

断熱材現場発泡工法

断熱材後張り工法

断熱材へのボードの張付け工法

5. 屋上緑化改修工事

6. 透水性7スファルト舗装改修工事

植栽基盤及び材料

芝及び地被類の種類等

見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等

かん水装置

既存保護層の撤去

新植した芝及び地被類の枯補償の期間

適用範囲：歩道

既存舗装の撤去及び再利用

路床

路床の材料

盛土

凍上抑制層

フィルター層

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）

路床安定処理

安定処理の方法

路床安定処理用添加材料

種類

※普通ポルトランドセメント

高炉セメントB種

フライアッシュセメントB種

生石灰

消石灰

添加量

目標CBRを満足する添加量の確認方法

安定処理土のCBR試験

ジオテキスタイル

単位面積質量

厚さ（mm）

引張強さ

透水係数

試験

路床土の支持力比（CBR）試験

路床締固め度の試験

現場CBR試験

路盤

路盤の厚さ

路盤材料（改修標準仕様書表9.7.3Iによる種別）

※再生クラッシャーラン

再生粒度調整碎石

クラッシャーラン鉄鋼スラグ

粒度調整鉄鋼スラグ

水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

舗装の構成

開粒度アスファルト混合物等の抽出試験

舗装の平たん性

10. ユニット及びその他の工事

11. 総揮発性有機化合物（TVOC）測定仕様書

特記：

株式会社 伝統建築研究所

一級建築士

代表取締役

検図：

設計：

担当：

工事名：

令7-依・単

杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面番号：

特記仕様書 6

図面番号：

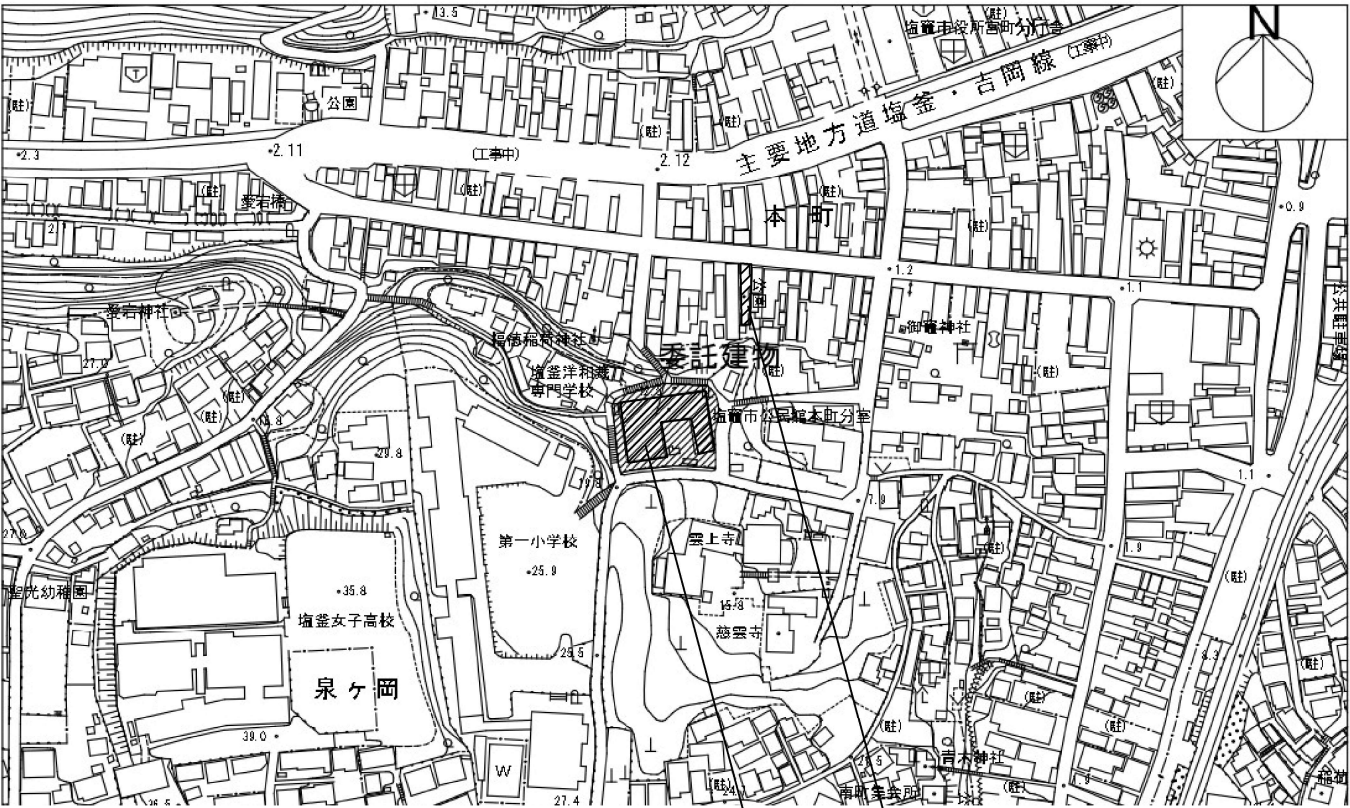
A-06

縮尺：

NON

設計年月日：

区分：



案内図

工事施工箇所：塩竈市本町 8 番 1 号

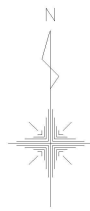
工事車両駐車場（敷地外）：塩竈市本町 2 6 3 番地

※指定仮設：敷き鉄板 A=170㎡

※使用条件：使用期間 令和 7 年 7 月 1 日から

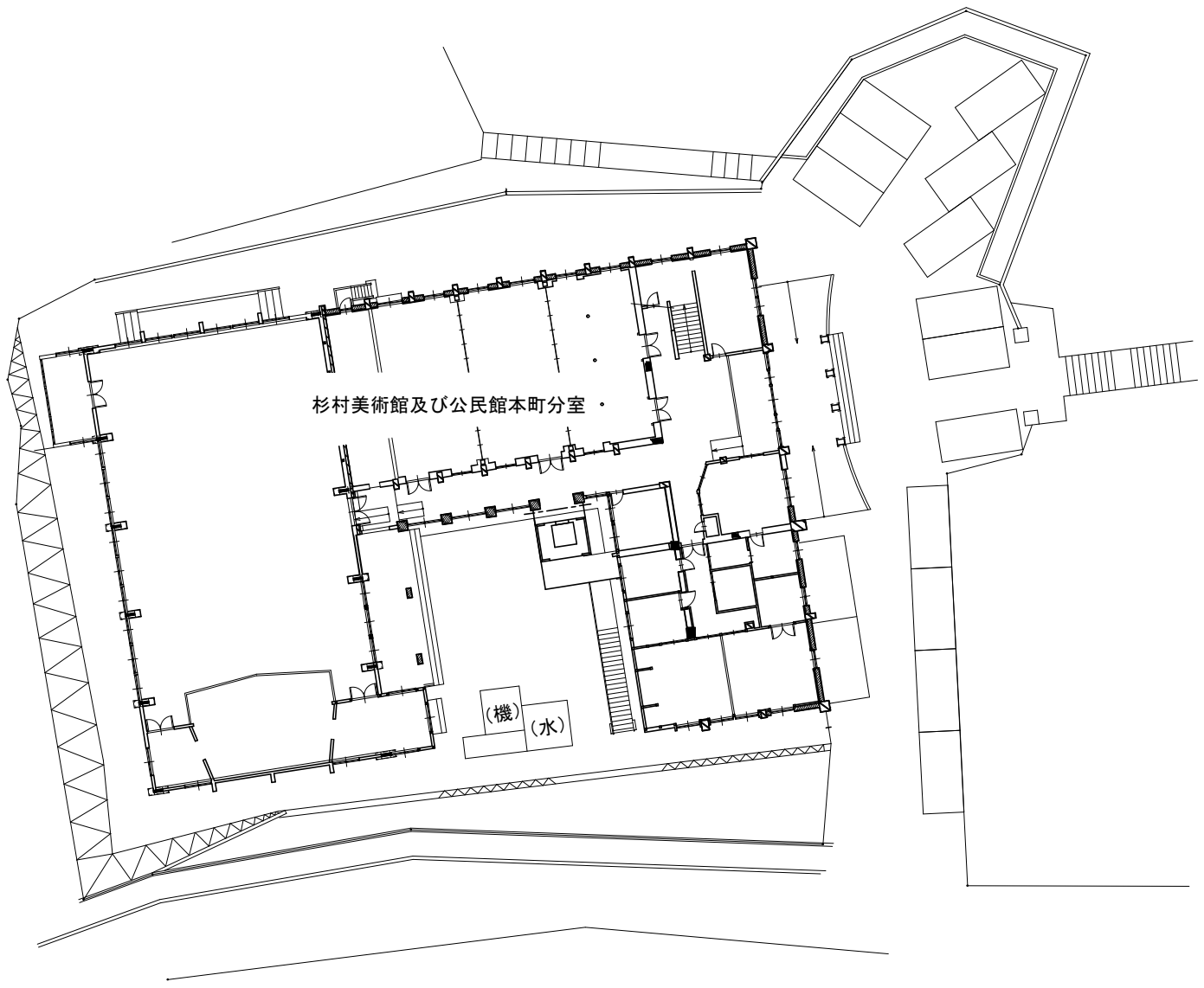
令和 7 年 1 2 月 2 5 日まで

ただし、令和 7 年 7 月 1 8 日から 7 月 2 2 日までは使用不可。



■建物の概要

- ・名 称：杉村惇美術館及び公民館本町分室
- ・所 在 地：宮城県塩竈市本町 8 番 1 号
- ・地域地区：商業地域、準防火地域、駐車場整備地区
- ・建 築 年：昭和26年（1951年）竣工、昭和32年（1957年）大講堂部分増築
- ・構 造：大講堂/木骨編板構造 大講堂以外/鉄筋コンクリート造及び木造
- ・床 面 積：1 階/996. 60㎡ 2 階/408. 35㎡ 計/1, 404. 95㎡



配置図 S=1/400

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事

図面名：
案内図・配置図
縮尺：
1/400 (A3)

設計年月日：

図面番号：
A - 0 7
区分：

【改修概要】

- 構造部：耐震診断結果に基づき、剛性率及び保有水平耐力を向上させるための補強を行う。
- ・管理棟2階外周部軸組：構造用合板補強
 - ・管理棟2階開口部：オイルダンパー設置
- 非構造部：管理棟・大講堂境界部のコンクリートブロック壁と構造部の接続部調査の上、補強の要否を判定。判定結果により補強を行う。
- 補強不要となった場合は、設計変更（減額）の対象とする。

※本建物は市指定文化財の為、下記の注意事項を厳守すること。

- ・仕上材は原則として再使用の為、解体・保管にあたっては取扱いに注意する。
- ・解体範囲の詳細は監督職員及び監理者に確認し、既存材を切断する際も事前に協議を行う。また、補修に迷う箇所は、必ず監督職員及び監理者と協議の上施工方法を決定する。
- ・再使用材は解体前にチョーク、木札で番付をうち伏図を作成する。
- ・解体箇所は、随時メモや写真で記録をとる。
- ・本設計図は過去の図面をもとに作成しているため、実際の状況が図面と異なる可能性がある。相違を確認した場合は監督職員及び監理者に報告の上、対処方法を協議すること。

【改修範囲－共通事項】

①構造用合板補強（位置は図示）

- ・補強部分の床、壁、天井の解体撤去。必要に応じて下地の補修・補強を行う。巾木、腰板（銘木合板）、廻縁、見切材は可能な限り再使用する。
- ・土台～桁間に下地を作り構造用合板t12mmを貼り補強する。常設展示室及び倉庫部分のみ窓を塞ぐため、外部意匠に考慮して構造用合板張りの前に、窓ガラスに目隠しフィルムを貼る。
- ・壁：PB、塗装で復旧。
- ・腰壁：合板、見切再取付後、塗装で復旧。
- ・天井：格子 撤去部分と新規材はそぎ継ぎで接合。
天井板 新規PBとし、格子共に塗装で復旧。

②窓枠にダンパーを取付（位置は図示）

- ・ダンパー取付部窓周りの壁を部分解体撤去。
- ・窓枠廻りの下地確認・補強。
- ・既存窓枠にダンパー取付。
- ・壁の復旧。
- ・外部意匠を考慮し、ダンパー取付け部の窓には目隠しフィルムを貼る。

③コンクリートブロック壁と管理棟RC構造部の接続部分補強

- ・大講堂、倉庫の壁を部分解体し、コンクリートブロック壁と管理棟RC構造部との鉄筋接続状況（差し筋の有無）について調査を行う。目視調査、鉄筋探査、赤外線調査。調査業者の手配は施工者側で行い、報告書を監督職員及び監理者に提出する。監理者は内容を確認の上、補強の要否を判定する。
- ・補強必要→大講堂及び倉庫1階の補強箇所の床・壁の解体撤去。鉄板補強を行う。
大講堂及び倉庫の床・壁を改修前の状態に復旧。
- ・補強不要→大講堂及び倉庫内の壁を解体前の状態に復旧。
設計変更を行う。

【凡例】

- 壁補強位置 構造用合板t12mm以上 片面
- 天井・床 解体範囲
- ◇ オイルダンパー
- 金物補強（コンクリートブロック壁とRC構造部）



特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名： 令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

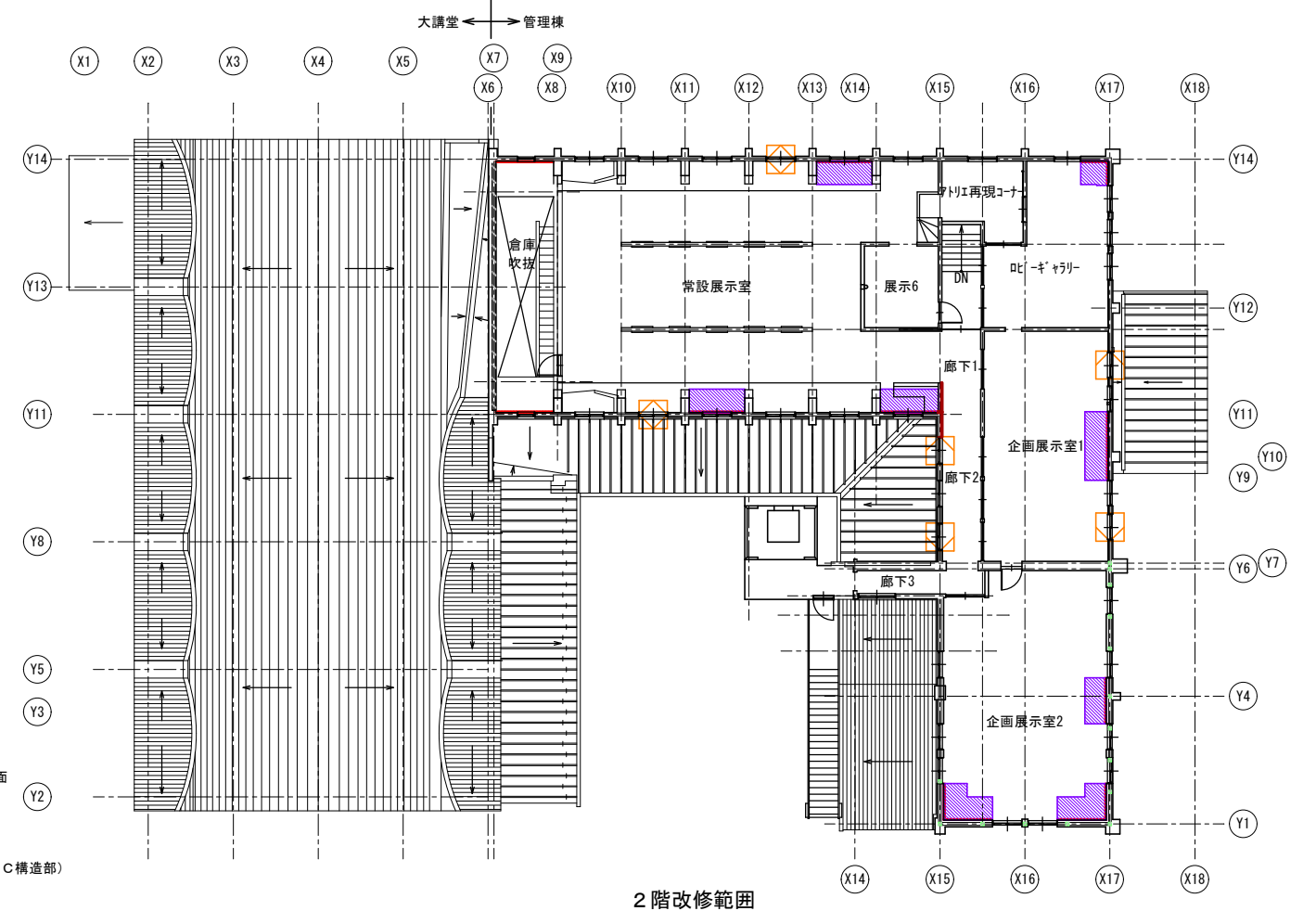
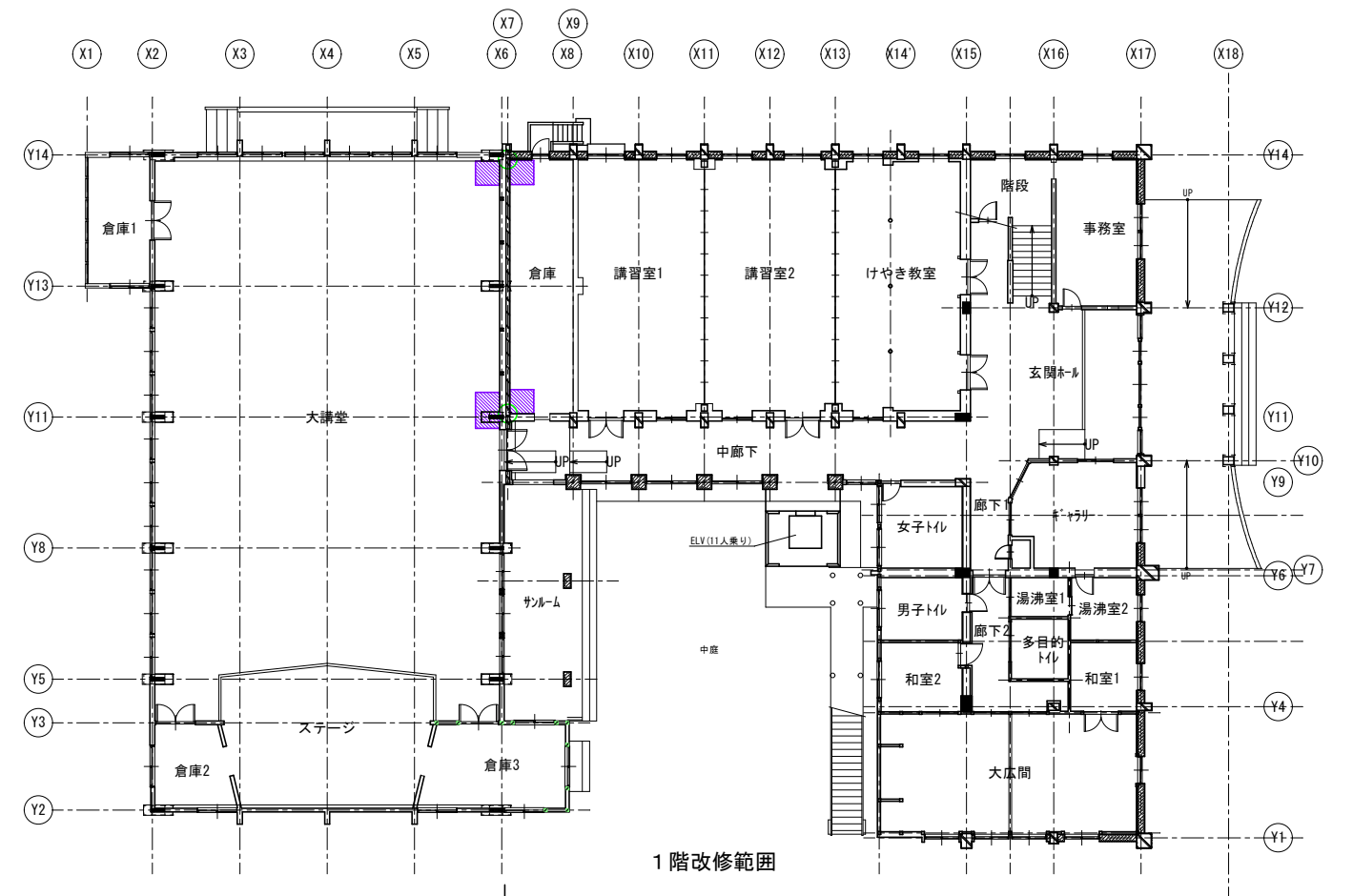
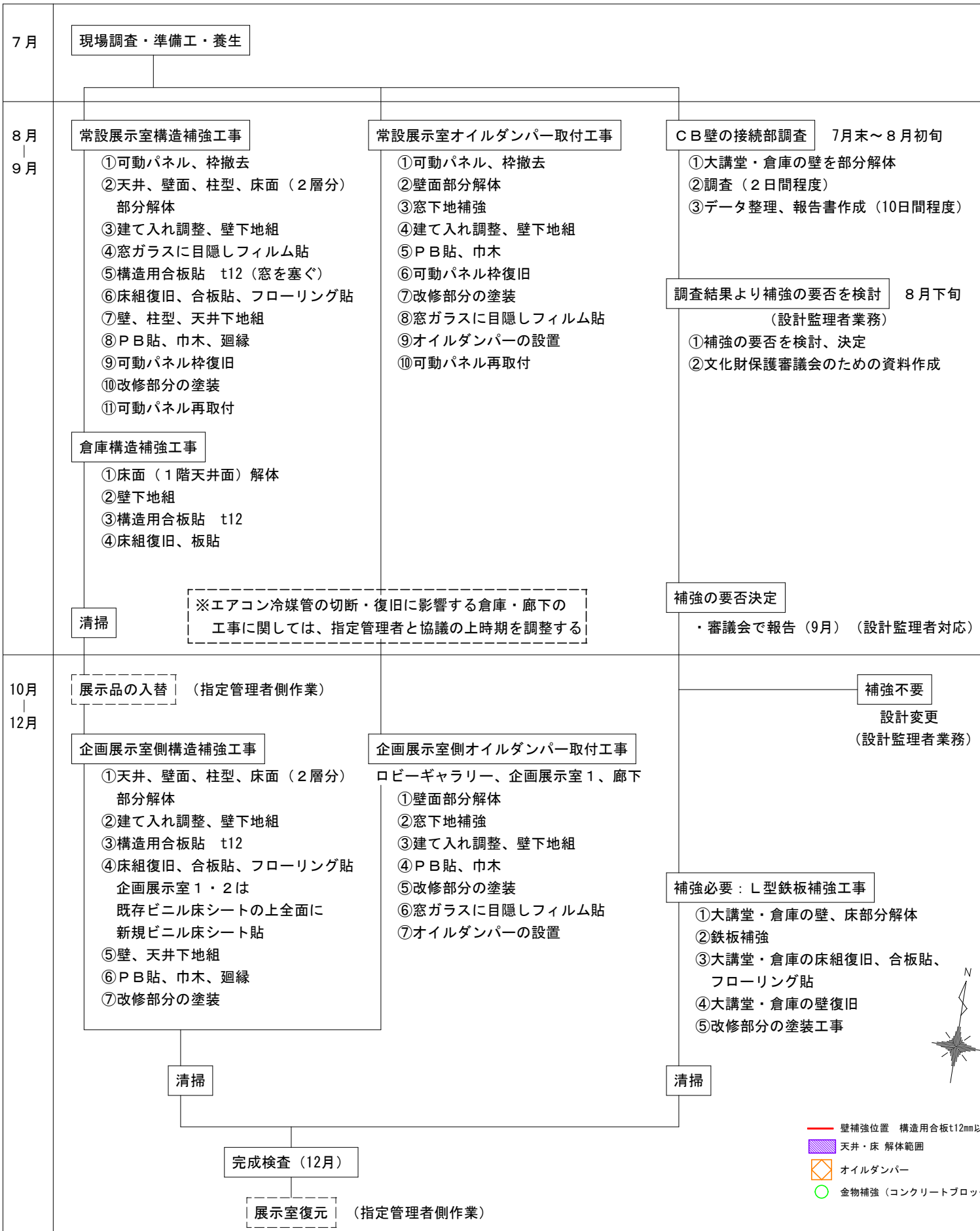
図面名： 改修範囲図
縮尺： 1/200 (A3)

設計年月日：

図面番号： A-08
区分：

【施工手順・工程（案）】

※工事は平日のみとする。（土日完全休工）



- 壁補強位置 構造用合板t12mm以上 片面
■ 天井・床 解体範囲
◇ オイルダンパー
○ 金物補強（コンクリートブロック壁とRC構造部）

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

概図：

設計：

概当：

工事名：

令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名：

施工手順・工程（案）

縮尺：

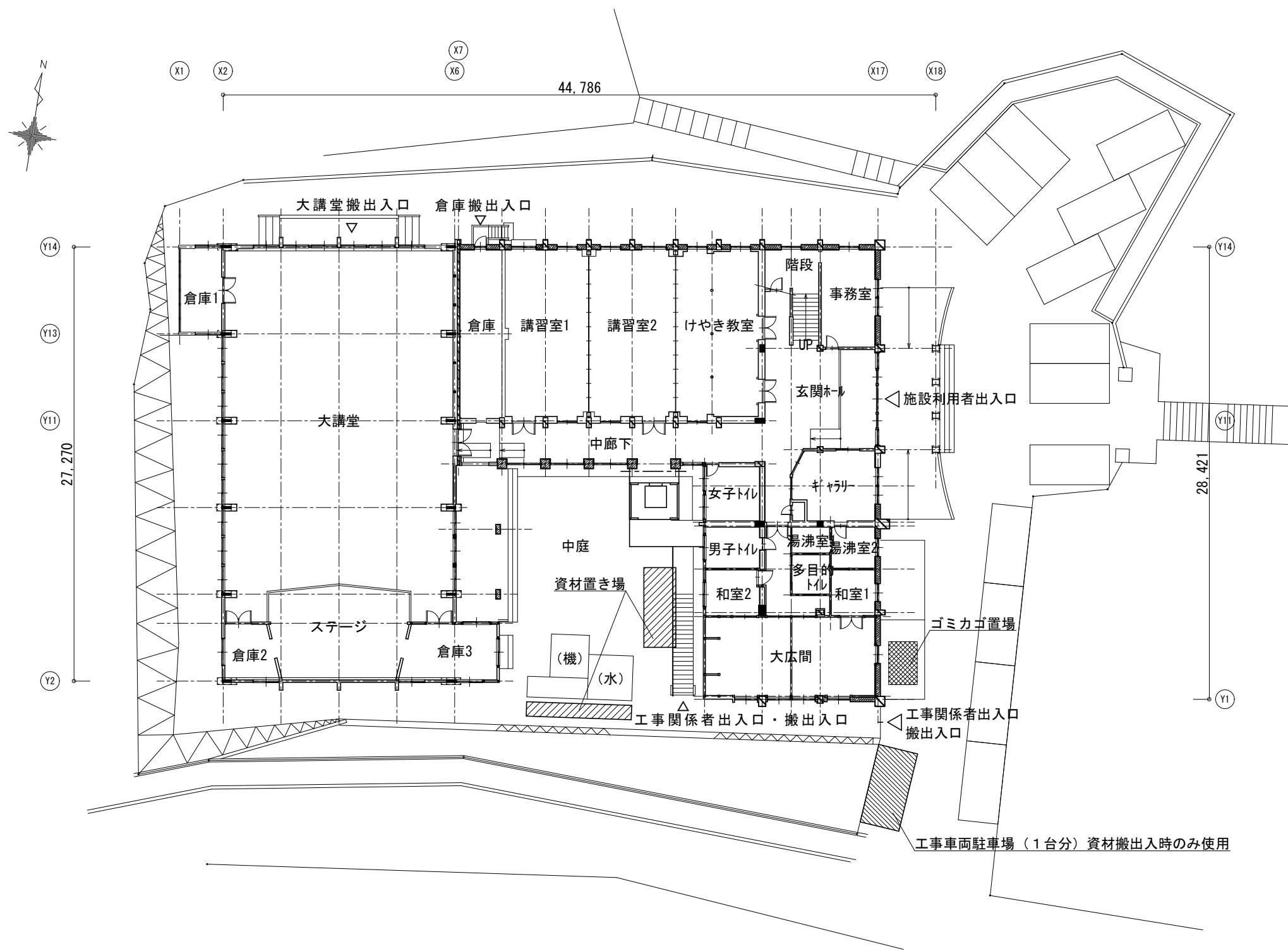
1/300 (A3)

設計年月日：

図面番号：

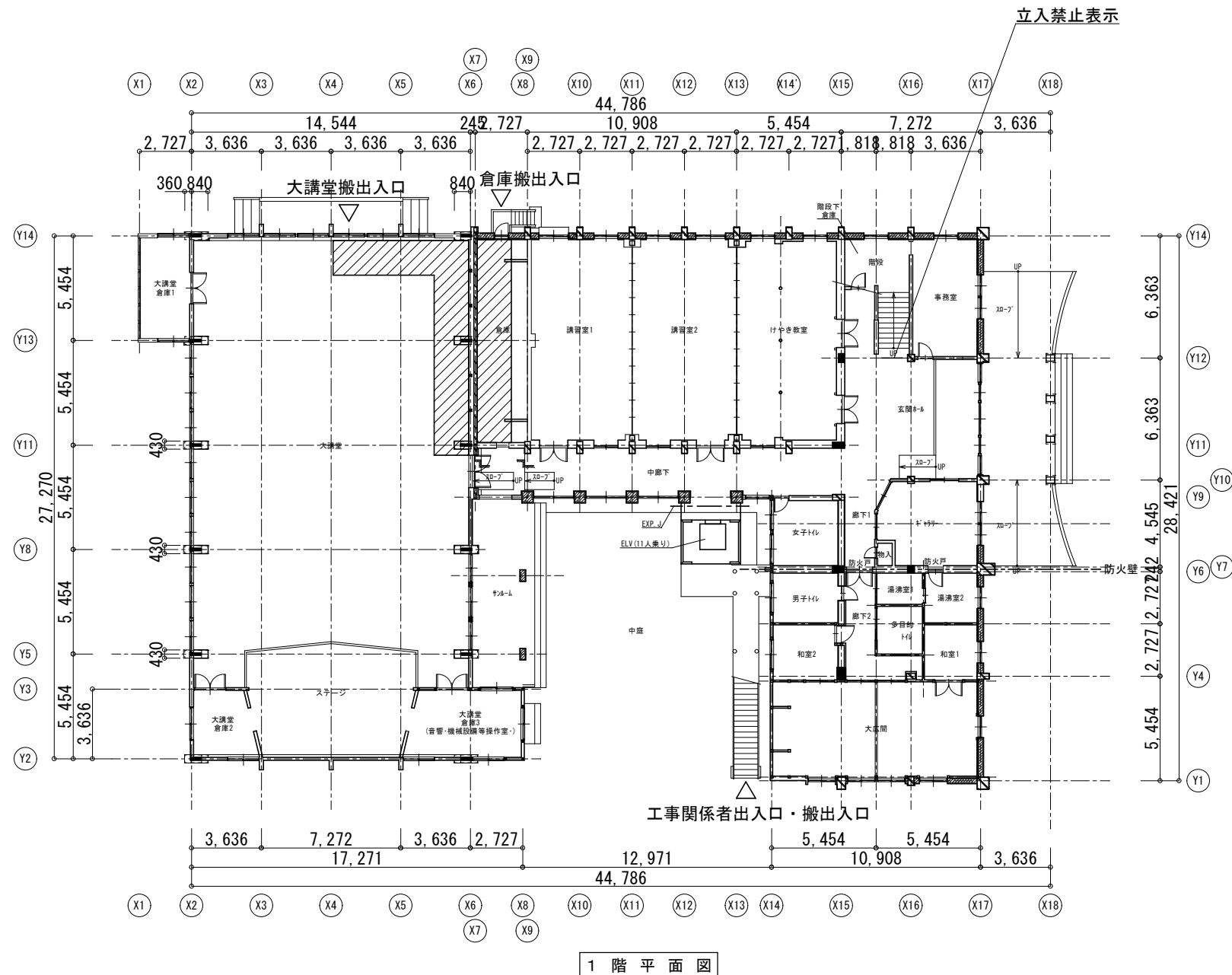
A-09

区分：



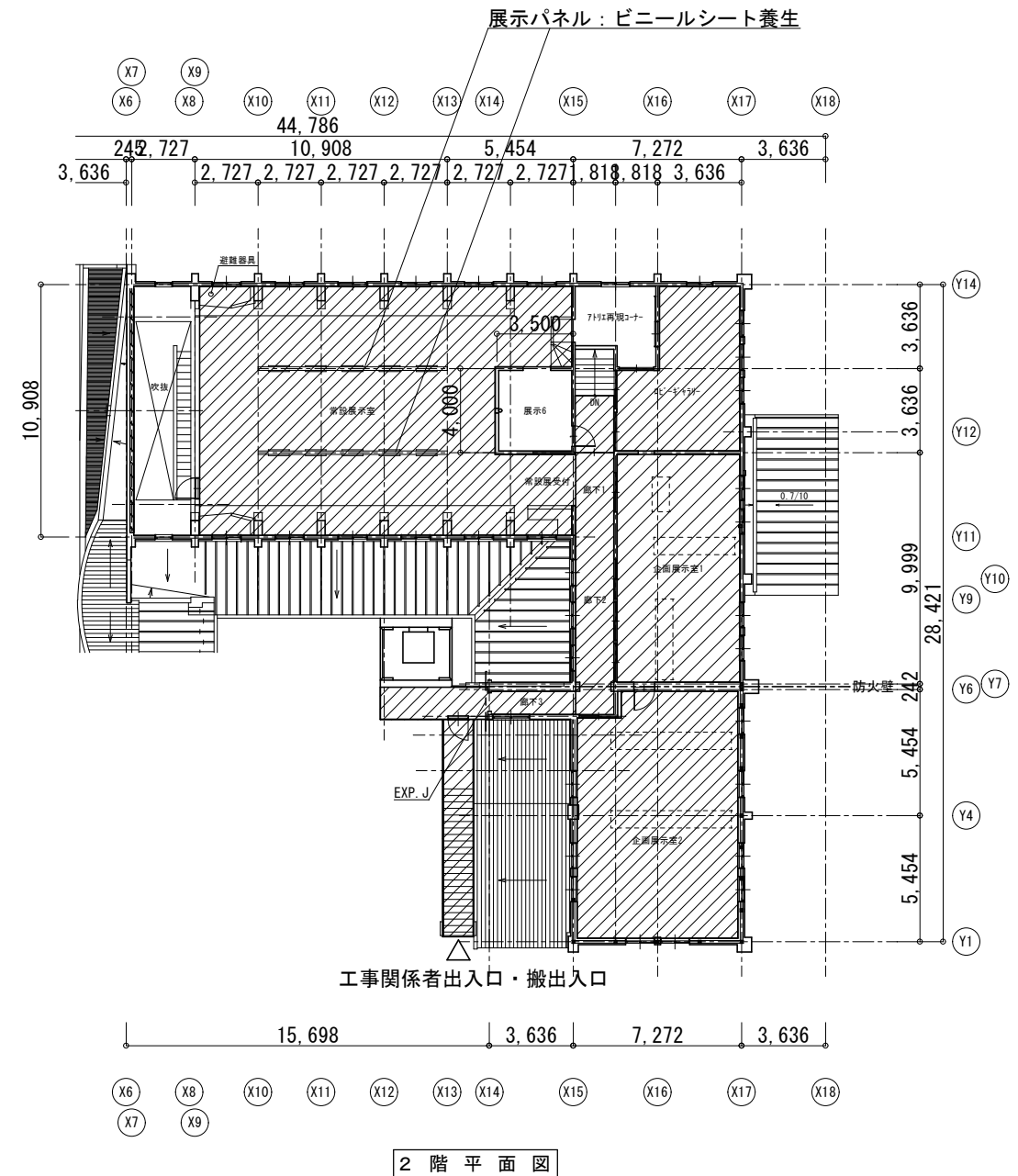
- ・1階については工事期間中も貸館・執務があるため、施設利用者の安全管理についても特段の対策を講ずること。
- ・敷地の前面道路は交通規制があるため留意すること。
- ・現場事務所 コンテナハウス（敷地外（※）に設置）
- ・工事車両駐車場（資材搬出入時以外は敷地外駐車場（※）を利用）
（※）塩竈市本町263番地 位置及び使用条件等についてはA-07案内図に示す。
敷地北側階段使用で徒歩120m程度
市所有地につき無償貸与
- ・外部資材置き場 中庭階段下等、協議により決定 区画仮囲い 安全柵
- ・仮設工事電力・用水：支給（有償）子メーター設置

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 No.254986 代表取締役 高橋直子	検図：	工事名： 令7-依・単 杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事	図面名： 仮 設 参 考 図 1 （ 配 置 図 ）		図面番号： A - 1 0
			設計：		縮尺： 1/300 (A3)	設計年月日：	区分：
			担当：				



※展示用可動壁は搬出不可のため、養生の上、室内で移動しながら施工のこと。

企画展示室 1	: W1, 500 × D750 × H2, 500	1 台
	W3, 500 × D750 × H2, 500	2 台
企画展示室 2	: W5, 200 × D750 × H2, 500	2 台

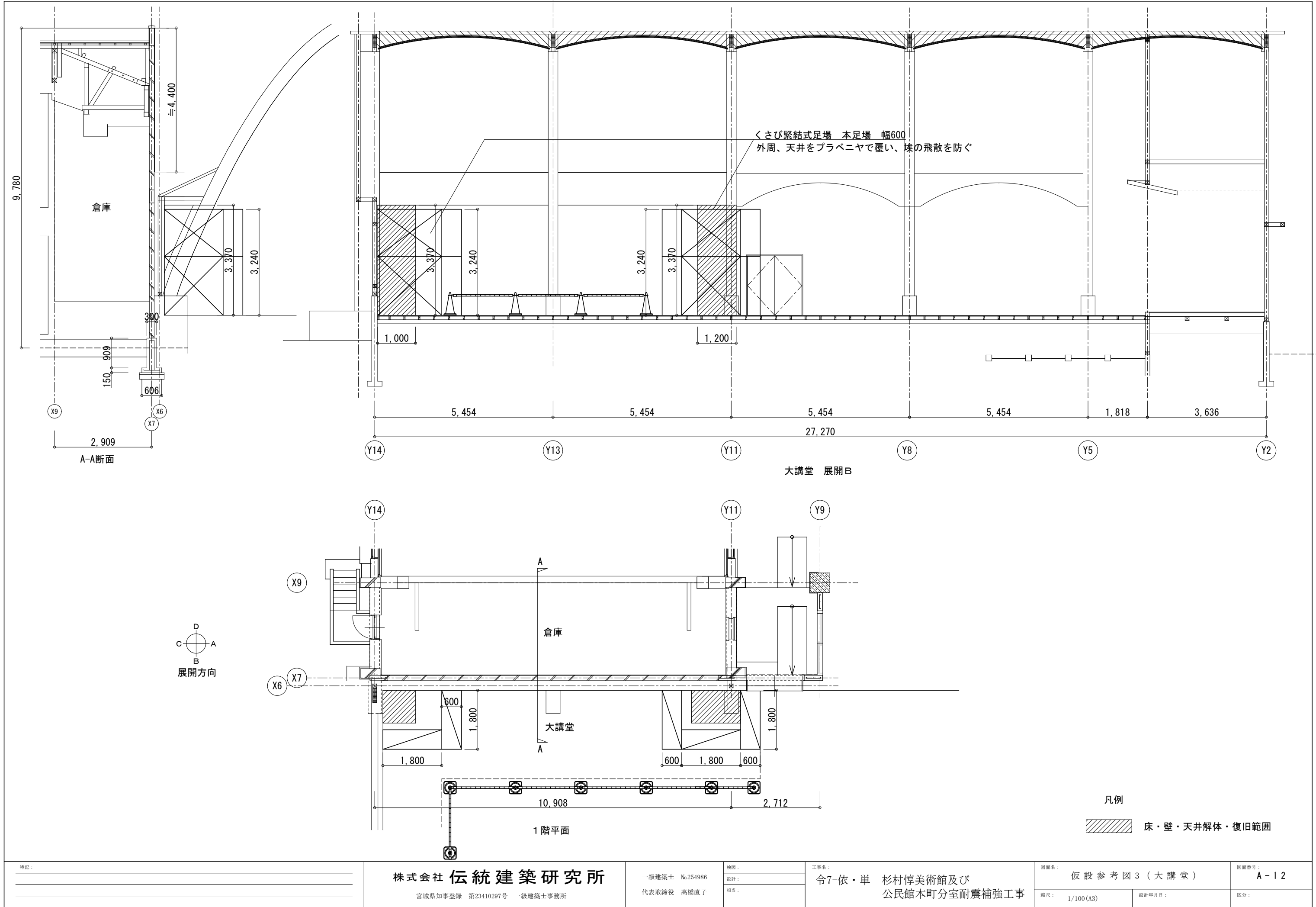


【 凡 例 】



床：コンパネt12+硬質樹脂ボードt1.5養生程度
壁面（四方）：ビニールシート養生程度

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	検図：	工事名： 令7-依・単 杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事	図面名： 仮 設 参 考 図 2 （ 平 面 図 ）		図面番号： A - 1 1
		設計：		縮尺： 1/300 (A3)	設計年月日：	区分：
		担当：				



特記:

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図:

設計:

担当:

工事名:

令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名:

仮設参考図3(大講堂)

縮尺:

1/100(A3)

設計年月日:

図面番号:

A-12

区分:

外 部 仕 上 表 (改 修 前 ・ 改 修 後)				備 考
大講堂	改修前	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t 0.35 立植葺き		・ 建具新設箇所について建具廻りの塗装補修を含む。
大屋根	改修後	ｶﾊﾞｰ工法定尺構葺@227 ｶﾅｰﾌﾐﾆ亜鉛合金ﾒｯｷ鋼板 t0.4+ﾌｧｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 940品+合板(全面貼り)t15+合板(ｽﾊﾞｰｻｰ)t15		・ 各防水工事については10年保証とする。
大講堂	改修前	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t 0.35 立植葺き		・ 各屋根工事、カバ－工法については、防水保証10年とする。
下 屋	改修後	既存屋根撤去の上、ｽﾍﾟﾝﾚｽ防水R-T工法 ｶﾅｰSUS304t0.4+下葺 ｺﾞﾙﾌｧﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ t1.0+合板 t15		・ 各防水工事については10年保証とする。
倉庫3	改修前	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t 0.35 小波板葺き 木下地 撤去		・ 内部造作材は杉小節とする。
屋 根	改修後	A号瓦構葺@418 ｶﾅｰﾌﾐﾆ亜鉛合金ﾒｯｷ鋼板t0.4+ﾌｧｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 940品+合板 t 15+垂木60×90@455 新設		・ ビクチャーレール用吊り下げワイヤー 1本/mあたり長さ2m程度
大講堂	改修前	丸型120 銅板製 撤去		
軒 樋	改修後	丸型120 樹脂製 新設		
大講堂	改修前	VP75φ 撤去		
堅 樋	改修後	VP75φ 新設 受金物 スﾍﾟﾝﾚｽ製 新設		
大講堂	改修前	ラスモルタル塗り 複層薄塗材 (E) ケレン		
破風・軒天	改修後	下地補修の上複層薄塗材 (E) 新設		

		内 部 仕 上 表 (改 修 前 ・ 改 修 後)												
階	室 名 称		床・下地	巾 木	高さ	塗装	壁	天 井	廻縁	高さ	備 考			
1	大講堂	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	160 舞台：110	SOP	合板 73mm張り 撤去	合板 73mm張り 撤去		8,350	カーテンレール 撤去			
	大講堂	改修後	下地一部補修の上、フローリング ｱ15mmウレタン3回塗り 新設	木製 新設	160 舞台：110	SOP	一部下地補修の上、Pbｔ12.5mm張り EP塗装 新設	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装新設	塩ビ	8,350	カーテンレール 新設、基礎RC・木見切り 塗替			
	大講堂 倉庫1	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	160	SOP	合板 73mm張り 撤去	合板 73mm張り 撤去		3,300				
	大講堂 倉庫1	改修後	下地一部補修の上、フローリング ｱ15mmウレタン3回塗り 新設	木製 新設	160	SOP	一部下地補修の上、Pbｔ12.5mm張り EP塗装 新設	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設	塩ビ	3,300	木見切り 塗替 舞台裏通路・ウレタン塗装防水			
	大講堂 倉庫2	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	160	SOP	合板 73mm張り 撤去	合板 73mm張り 撤去		3,300				
	大講堂 倉庫2	改修後	下地一部補修の上、フローリング ｱ15mmウレタン3回塗り 新設	木製 新設	160	SOP	一部下地補修の上、Pbｔ12.5mm張り EP塗装 新設	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設	塩ビ	3,300	木見切り 塗替 舞台裏通路・ウレタン塗装防水			
	大講堂 倉庫3	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	160	SOP	合板 73mm張り 撤去	合板 73mm張り 撤去		3,300				
	大講堂 倉庫3	改修後	下地一部補修の上、フローリング ｱ15mmウレタン3回塗り 新設	木製 新設	160	SOP	一部下地補修の上、Pbｔ12.5mm張り EP塗装 新設	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設	塩ビ	3,300	木見切り 塗替			
	一階廊下	改修前 改修後	- -	- -	- -	- -	- -	(改修前)化粧Pbｔ9.5 (改修後)化粧Pbｔ9.5	- -	- -	- -	- -	- -	
2	大会議室	改修前	フローリング ｱ15mm	木製 撤去	85	SOP	ラスモルタル EP塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去		3,650	空調送風口W250×H450(16箇所)、木製欄1(1820×H1920×D180)×2、木製欄2(W1800×H1800×D250)	〈常設展示室〉		
	常設展示室	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	85	SOP	東・西面H2365まで：プリントボード(木目調) 下地補修の上 EP塗装 東面撤去・西面既存のまま	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,680	木製欄3(W900×H900×D240)、家具(W380×H850×D380)、カーテンレール 撤去、窓鉄製手摺	展示壁(H2200)LGS90+PB t 12.5+ 受付 グッズ展示ケース		
	二階倉庫1	改修前	モルタルあらわし	-	-	-	ラスモルタルあらわし	ラスモルタルあらわし		2,500				
	展示室6	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	85	SOP	下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、EP塗装 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	2,430	木見切り 塗替			
	二階倉庫2	改修前	フローリング	木製 撤去	85	SOP	H2,000まで：プリントボード張り 撤去 H2,000以上：ラスモルタル EP塗装	合板 73mm 木化粧格子 撤去		3,650				
	常設展示室	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	85	SOP	下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,680	木見切り 塗替			
	二階倉庫3	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	55	SOP	西面H2,000まで：プリントボード張り 撤去 その他：ラスモルタル EP塗装、階段部分合板 75mm張り、ウレタン塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去 ラスモルタル EP塗装 撤去		3,480	空調送風口 W250×H450(2箇所)、窓鉄製手摺、カーテンレール			
	常設展示室	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 スロープ：床材同材 FL+100 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	85	SOP	下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,410	窓鉄製手摺 塗替 木製階段手摺・木見切り 塗替、スロープ 新設			
	二階倉庫4	改修前	フローリング	木製	125	SOP	H1,820まで：銘木合板張り 75mm ウレタン塗装 H1,820以上：ラスモルタル EP塗装	木無垢材目スカシ張り EP塗装		2,190				
	アトリエ再現 コーナー	改修後	既存のまま	既存のまま	125	SOP	既存のまま	既存のまま	塩ビ	2,190	木見切り 塗替			
	休憩室	改修前	フローリング 撤去 スロープ：床材同材 撤去	木製 撤去	85	SOP	ラスモルタル EP塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去 ラスモルタル EP塗装 撤去		3,480	空調送風口W250×H450(2箇所)・鏡(W300×H600)・給湯器(W300×H400×D120)			
	常設展受付	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 スロープ：床材同材 FL+100 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	85	SOP	下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,410	シンク(W1000×H800×D550)・作業台(W600×H600×D550) 撤去、スロープ 窓鉄製手摺			
	廊下1	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm EP塗装 撤去 H1,750以上：ラスモルタル EP塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去		3,000				
	廊下	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm ウレタン塗装 H1,750以上：下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	2,930	木見切り 塗替			
	廊下2	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm EP塗装 撤去 H1,750以上：ラスモルタル EP塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去		3,000				
	廊下	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設	木製 新設	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm ウレタン塗装 H1,750以上：下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	2,950	木見切り 塗替			
	教育長室	改修前	フローリング 撤去	木製 撤去	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm EP塗装 撤去 H1,750以上：ラスモルタル EP塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去		3,160	掲示板(W1700×H970) 撤去			
	ロビーギャラリー	改修後	木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm ウレタン塗装 H1,750以上：下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,090	木見切り 塗替			
	学校教育課	改修前	ビニールシート 撤去	木製 撤去	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm EP塗装 H1,750以上：ラスモルタル EP塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去		3,160		〈企画展示室1〉 展示壁1(H2400)		
	企画展示室1	改修後	木製下地45×40@303の上、合板t12+t4+ビニールシート 72.5mm 新設	木製 新設	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm SOP塗替 H1,750以上：下地補修の上 EP塗装	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,090		展示壁2(大壁・ビクチャーレール付き)		
	総務課	改修前	ビニールシート 撤去	木製 撤去	125	SOP	H1,750まで：銘木合板張り 75mm EP塗装 H1,750以上：ラスモルタル EP塗装	合板 75mm 木化粧格子 撤去		3,160	鏡(W450×H550) 撤去	〈企画展示室2〉 展示壁1(H2400)		
	企画展示室2	改修後	木製下地45×40@303の上、合板t12+t4+ビニールシート 72.5mm 新設	木製 新設	125	SOP	既存仕上げの上より軽量鉄骨下地W90、Pbｔ12.5mm EP塗装 新設	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,090		展示壁2(大壁・ビクチャーレール付き)		
	非常用廊下	改修前	フローリング	-	-	-	-							
	変更なし	改修後	既存のまま	-	-	-	-			塩ビ				
		改修前									3,160			
	備品倉庫	改修後	木製下地45×40@303の上、合板t12+t4+ビニールシート 72.5mm 新設	木製 新設	125	SOP	Pbｔ12.5mm EP塗装 下地：軽量鉄骨下地W90 新設	下地調整の上、Pbｔ9.5mm EP塗装 新設 木化粧格子55×55 SOP塗装	塩ビ	3,090				
	階段	改修前	フローリング	木製			H1,750まで：銘木合板張り 75mm EP塗装 H1,750以上：ラスモルタル EP塗装	ベニア合板 75mm 木化粧格子			3,160			
	階段	改修後	一部、木製下地45×40@303の上、フローリング ｱ15mm H=70 新設 ウレタン3回塗り 新設	既存のまま			既存のまま	既存のまま	塩ビ	既存のまま				

HIROTO SUZUKI ARCHITECTS&ASSOCIATES
〒980-0871 仙台市青葉区八幡1-10-14 SAU02 TEL 022-722-7822 FAX 022-722-7823

一級建築士 NO.233021 鈴木 弘二	DATE 2013.11.06 NAME YAMADA CHECK SUZUKI-D	PROJECT 杉村惇美術館整備に伴う改修工事 DRAWING 仕上表 SCALE -	PAGE A-08
-----------------------------	--------------------------------------------------	---------------------------------------------------	--------------

特記：

株式会社 伝統建築研究所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名：
改 修 前 （ 前 回 工 事 ） 仕 上 表 1

縮尺： NON	設計年月日： _____	区分： _____
------------	-----------------	--------------

図面番号：
A-13

外 部 仕 上 表 (改 修 前 ・ 改 修 後)				備 考	
本館棟	改修前	瓦柵ぶき+アスファルトルーフィング		・建具新設箇所について建具廻りの塗装補修を含む。	
屋 根	改修後	庇屋根:撤去・新設 ガルバリウム鋼板φ0.4瓦柵葺き+アスファルトルーフィング		・各防水工事については10年保証とする。	
本館棟	改修前	①モルタル塗の上、複層薄塗装材(E) ②石積み		・内部造作材は杉上小節とする。	
壁	改修後	①下地補修の上、改修塗材R E (水性シリコン) 新設 ②石積み 既存のまま		・遊覧器具1か所設置 2階常設展示室 吊下式 5型 スリムバックス 表示板	
本館棟	改修前	モルタル薄塗り金ゴテ仕上げ			
数壁・根回り	改修後	既存のまま			
本館棟	改修前				
軒樋・堅樋	改修後	VP75φ 受金物:ステンレス ※現状を調査し、必要に応じて設置する。			
本館棟	改修前	玄関前ピロティ天井:ケイカル板t5 撤去 屋根部 軒天:ケイカル板t5 既存のまま			
破風・軒天	改修後	ピロティ:ケイカル板t5の上EP-G塗装 新設 軒天:下地補修の上、EP塗装			

		内 部 仕 上 表 (改 修 前 ・ 改 修 後)																
階	室 名 称		床・下地	巾 木	高 さ	塗 装	壁		天 井		廻 縁	高 さ	備 考					
1	玄関ホール	改修前	フローリング t15mm 撤去	木製	150	SOP	①H1.710まで:銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 ②H1.710以上:ラスモルタル EP-G塗装		ラスモルタル EP-G塗装		木製 50	3300	—					
	玄関ホール	改修後	木製下地45×40φ303の上、フローリング t15mm 新設 ウレタン3回塗り 新設	既存のまま	150	SOP 塗 装	①H1.750まで:銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 ②H1.750以上:下地補修の上 EP-G塗装		下地補修の上、EP-G塗装		SOP 塗 装	3300	譲見切:SOP塗装、上框 新設 スロープ手すり:スリム製 新設、スロープ:フローリングt15 新設					
	事務室	改修前	ビニールシート 撤去	木製	150	SOP	①H1.710まで:銘木合板張り t5mm SOP塗装 ②H1.710以上:ラスモルタル EP-G塗装		合板 t5mm貼り 撤去 木化桧格子55×55 SOP塗装		木製 50	3150	—					
	事務室	改修後	下地一部補修の上、ビニールシート 新設	既存のまま	150	SOP 塗 装	①H1.710まで:銘木合板張り t5mm SOP塗装 ②H1.710以上:下地補修の上 EP-G塗装		下地調整の上、Pbt9.5mm EP-G塗装 新設 木化桧格子55×55 SOP塗装		SOP 塗 装	3150	譲見切:SOP塗装					
	階段下倉庫	改修前	フローリング t15mm 撤去	木製 撤去	90	SOP	無垢木板目スカシ貼り t5mm SOP塗装 撤去		木無垢材目スカシ貼り SOP塗装 撤去		木製 50	2000	—					
	階段下倉庫	改修後	木製下地45×40φ303の上、合板t12+ビニールシート t2.5mm 新設	木製 新設	90	SOP 塗 装	無垢木板目スカシ貼り t5mm SOP塗装 新設(下地共)		木無垢材目スカシ貼り SOP塗装 新設		木製50 SOP塗 装	2000	—					
	けやき教室	改修前	フローリング	木製	120	—	Pbt12.5+ビニルクロス貼り		Pbt9.5mm ビニルクロス貼り 撤去		木製 50	2800	—					
	けやき教室	改修後	既存のまま	既存のまま	120	—	既存のまま		Pbt9.5mm ビニルクロス貼り 新設			2800	—					
	講習室1,2	改修前	フローリング	木製	100	—	Pbt12.5+ビニルクロス貼り		Pbt9.5mm ビニルクロス貼り 撤去		木製 50	2800	—					
	講習室1,2	改修後	既存のまま	既存のまま	100	—	既存のまま		Pbt9.5mm ビニルクロス貼り 新設			2800	—					
	倉庫	改修前																
	倉庫	改修後																
	中廊下	改修前	モルタルあらわし	木製	150	SOP	柱及びH1.710以上:ラスモルタル EP-G塗装 壁:合板貼り t5mm SOP塗装		合板 t5mm 既存のまま 梁 既存のまま		木製 60	3150	—					
	中廊下	改修後	モルタル塗りt30	既存のまま	150	SOP 塗 装	柱及びH1.710以上:下地調整の上、EP-G塗装 壁:合板貼り t5mm SOP塗装		下地補修の上、SOP塗装(梁共)		SOP 塗 装	3150 4150	譲見切:SOP塗装、梁:SOP塗装、スロープ:木製、ノンスリップシート張り新設					
	ギャラリー	改修前	ニードルパンチカーペット 撤去	木製	110	SOP	H1.810まで:銘木合板張り t5mm SOP塗装 H1.810以上:ラスモルタル EP-G塗装		合板 t5mm 撤去 木化桧格子55×55 SOP塗装		木製 50	3020	—					
	ギャラリー	改修後	下地調整の上、長尺シート貼り 新設	既存のまま	110	SOP 塗 装	H1.810まで:銘木合板張り t5mm SOP塗装 H1.810以上:下地補修の上 EP-G塗装		Pbt9.5mm EP-G塗装 新設 木化桧格子55×55 SOP塗装		SOP 塗 装	3020	譲見切:SOP塗装					
湯沸室	改修前	モルタルあらわし 土間コンクリートt120 撤去	—	—	—	①ラスモルタル EP-G塗装 下地共 一部撤去 ②ラスモルタル EP-G塗装		ラスモルタル EP-G塗装 下地共 撤去			3050	シンク・コンロ 撤去						
湯沸室1	改修前	モルタル塗t30 土間コンクリートt120 撤去	塩ビ	100	—	①防水Pbt12.5 EP-G塗装 一部新設 ②ラスモルタル EP-G塗装		防水Pbt9.5+EP-G塗装 新設 S下地 新設		塩ビ	3050	シンク 新設						
湯沸室2	改修後	モルタル塗t30 土間コンクリートt120 撤去	塩ビ	100	—	①防水Pbt12.5 EP-G塗装 一部新設 ②ラスモルタル EP-G塗装		防水Pbt9.5+EP-G塗装 新設 S下地 新設		塩ビ	3050	シンク 新設						
和室1	改修前	たたみ 撤去 押入:合板t5.5mm 撤去	畳寄せ 一部撤去	—	—	塗り壁(一部撤去)		木無垢材目スカシ貼り(撤去)		木製 60	2530	—						
和室1	改修後	たたみ 新設	既存のまま 一部新設	—	WS 一部塗装	①経量鉄骨下地W90+Pbt12.5+ビニルクロス貼り 新設 ②下地補修の上、ビニルクロス貼り 新設		木桧(既存のまま) 木無垢材目スカシ貼り WS塗装 新設		木製 60	2530	和室木部:WS塗装、畳寄せ:WS塗装、長押:WS塗装						
和室2	改修前	たたみ 撤去	畳寄せ	—	—	塗り壁 一部撤去		木無垢材目スカシ貼り(撤去)		木製 60	2600	—						
和室2	改修後	たたみ 新設	既存のまま	—	—	下地補修の上、ビニルクロス貼り 新設		木桧(既存のまま) 木無垢材目スカシ貼り WS塗装 新設		木製 60	2600	和室木部:WS塗装						
大広間	改修前	たたみ	畳寄せ	—	—	①塗り壁 撤去 ②紙クロス 撤去		プリント合板 t5mm 撤去		木製 60	2840	—						
大広間	改修後	たたみ 既存のまま	既存のまま	—	—	ビニルクロス貼り 新設		プリント合板 t5mm 新設		木製 60	2840	和室木部:WS塗装、建具:ビニルクロス貼付						
男子トイレ	改修前	モザイクタイル 土間コンクリートt120 撤去	木製 撤去	90	SOP	防水Pbt12.5 EP-G塗装 撤去		化粧PB t9.5m 撤去		木製 50	2540	小便器、大便器、天板、トイレブース間仕切り 撤去						
男子トイレ	改修後	モザイクタイル 土間コンクリートt120 新設	塩ビ 新設	100	SOP	防水Pbt12.5t EP-G塗装 新設(下地補修)		ケイカル板t5mm EP-G塗装 新設		塩ビ	2540	小便器、大便器、トイレブース間仕切り、シンク・バック 新設 小便器用手摺 大便器用L型手摺 洗面カウンター						
女子トイレ	改修前	モザイクタイル 土間コンクリートt120 撤去	木製 撤去	90	SOP	防水Pbt12.5 EP-G塗装 撤去		化粧PB t9.5mm 撤去 木化桧格子55×55 SOP塗装		木製 50	2540	大便器、天板、トイレブース間仕切り、鏡 撤去						
女子トイレ	改修後	モザイクタイル 土間コンクリートt120 新設	塩ビ 新設	100	SOP	防水Pbt12.5 EP-G塗装 新設(下地補修)		ケイカル板t5 EP-G塗装 新設 木化桧格子55×55 SOP塗装		SOP 塗 装	2540	大便器、トイレブース間仕切り、シンク・バック 新設 大便器用L型手摺、和便器用手摺 洗面カウンター						
廊下1,2	改修前	フローリング t15mm 撤去	木製	125	SOP	①H1.750まで:銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 撤去 ②H1.750以上:ラスモルタル EP-G塗装		合板 t5mm 撤去		木製 50	3300	—						
廊下1,2	改修後	木製下地45×40φ303の上、フローリング t15mm 新設 ウレタン3回塗り 新設	既存のまま	—	SOP 塗 装	①H1.750まで:銘木合板張り t5mm ウレタン塗装、一部Pbt12.5 EP-G塗装 新設 ②H1.750以上:下地補修の上 EP-G塗装		Pbt9.5mm EP-G塗装 新設		塩ビ	3300	譲見切:SOP塗装、下駄箱 木製 W1400×H1800×D350新設						
—	改修前																	
多目的トイレ	改修後	合板t9+Pbt12.5+長尺シートt2.5 新設	長尺シート	200	巻上	—	経量鉄骨下地W90+防水Pbt12.5+メラミン化粧板 新設		ケイカル板t5mm EP-G塗装 新設 S下地 新設		塩ビ	2400	ベビーシート ベビーチェアー フィットティングボード L型手摺 可動手摺 ライニングバック新設					
階段		フローリング t15mm 撤去	木製 撤去	125	SOP	①H1.200まで:銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 撤去 ②H1.200以上:ラスモルタル EP-G塗装		合板 t5mm 撤去 木化桧格子55×55 SOP塗装		木製 50	—	—						
階段	—	フローリング t15mm 新設 ウレタン3回塗り 新設	木製 新設	125	SOP 塗 装	①H1.200まで:銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 新設 ②H1.200以上:下地補修の上 EP-G塗装		下地調整の上、Pbt9.5mm EP-G塗装 新設 木化桧格子55×55 SOP塗装		SOP 塗 装	—	譲見切:SOP塗装 新設						
2	廊下3	—	フローリング(既存のまま)	木製 撤去	125	SOP	無垢木板目スカシ貼り WS塗装		無垢木板目スカシ貼り WS塗装			3000	—					
	廊下3		木製下地45×40φ303の上、フローリング t15mm 新設	木製 新設	125	SOP 塗 装	既存のまま		既存のまま									

HIROTO SUZUKI ARCHITECTS&ASSOCIATES
〒980-0871 仙台市青葉区八幡1-10-14 SAU02 TEL 022-722-7822 FAX 022-722-7823

一級建築士 NO. 233021 鈴木 弘二		DATE NAME CHECK	2014.04.30 YAMADA SUZUKI-O	PROJECT DRAWING SCALE	杉村惇美術館整備に伴う改修工事(2期) 仕上表 -	PAGE A-08
------------------------------	--	-----------------------	----------------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--------------

株式会社 伝統建築研究所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図:

設計:

担当:

工事名:

令7-依・単杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名:

改修前(前回工事)仕上表 2

縮尺:

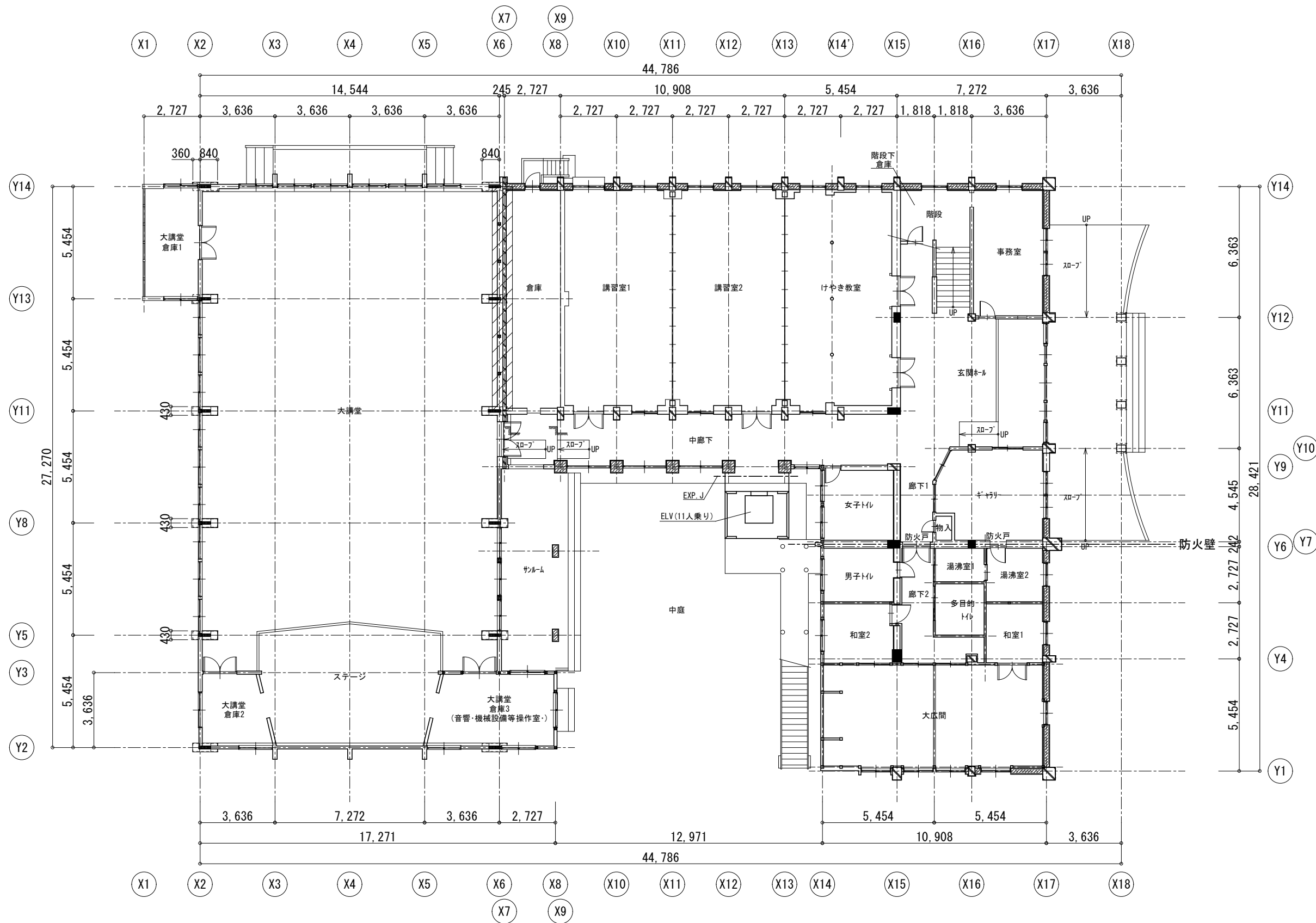
NON

設計年月日:

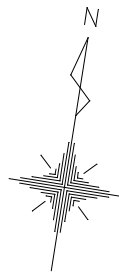
図面番号:

A-14

区分:



改修範囲



特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

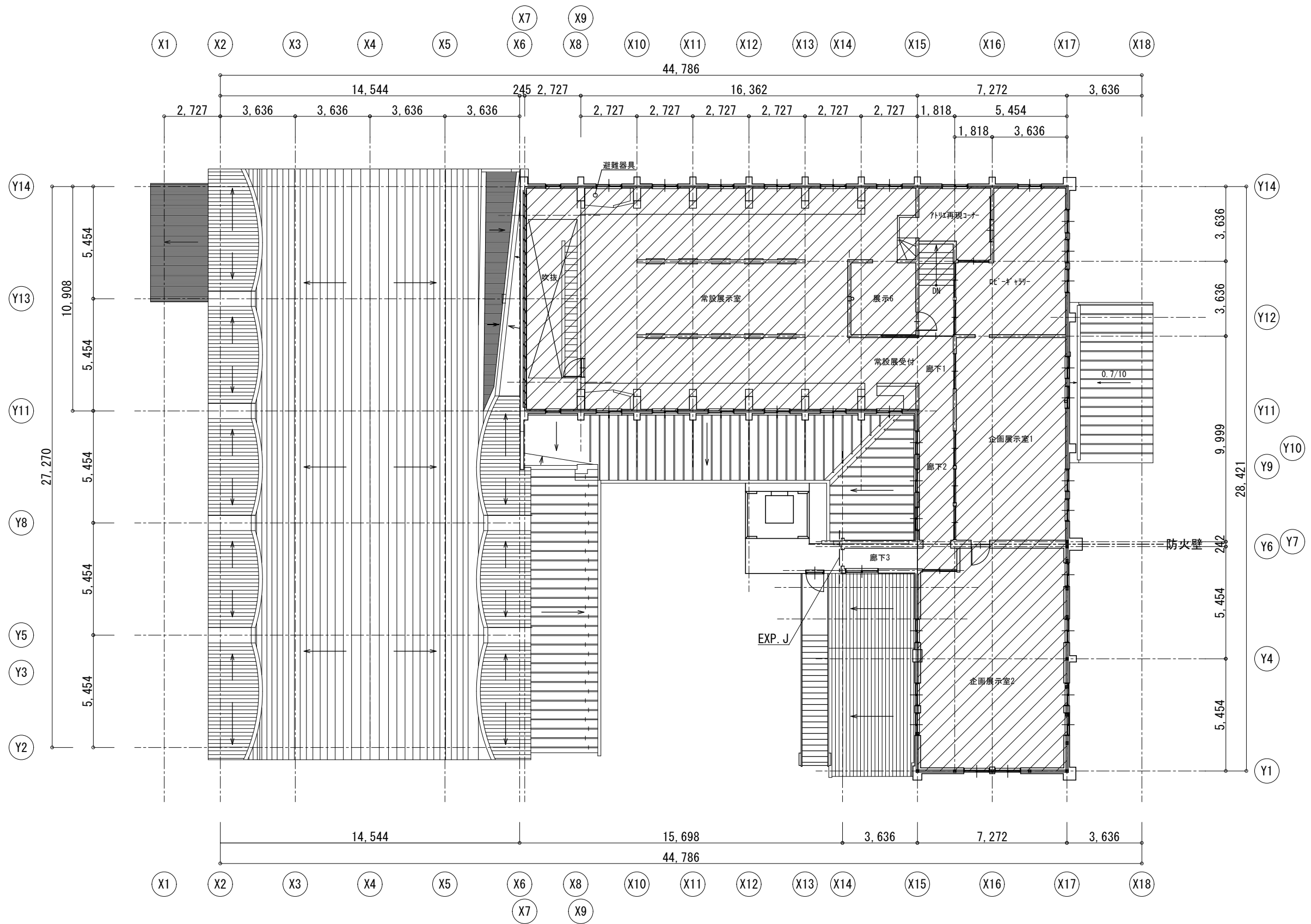
図面名：
改修前 1階平面図

縮尺：
1/200 (A3)

設計年月日：

図面番号：
A-15

区分：



改修範囲

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名：

令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名：

改修前 2階平面図

縮尺：

1/200 (A3)

設計年月日：

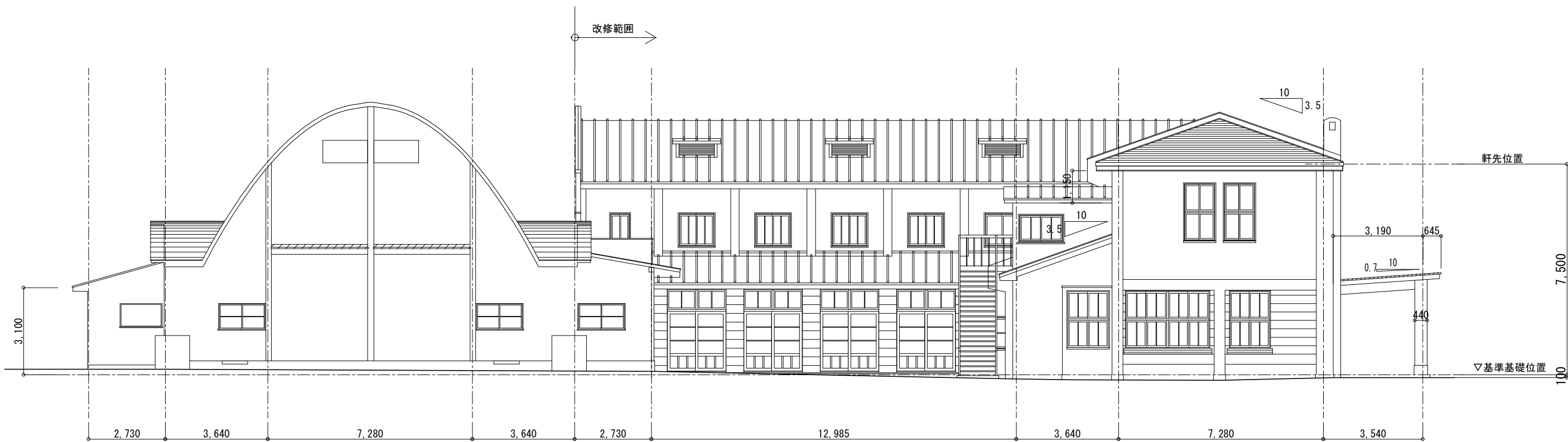
図面番号：

A-16

区分：

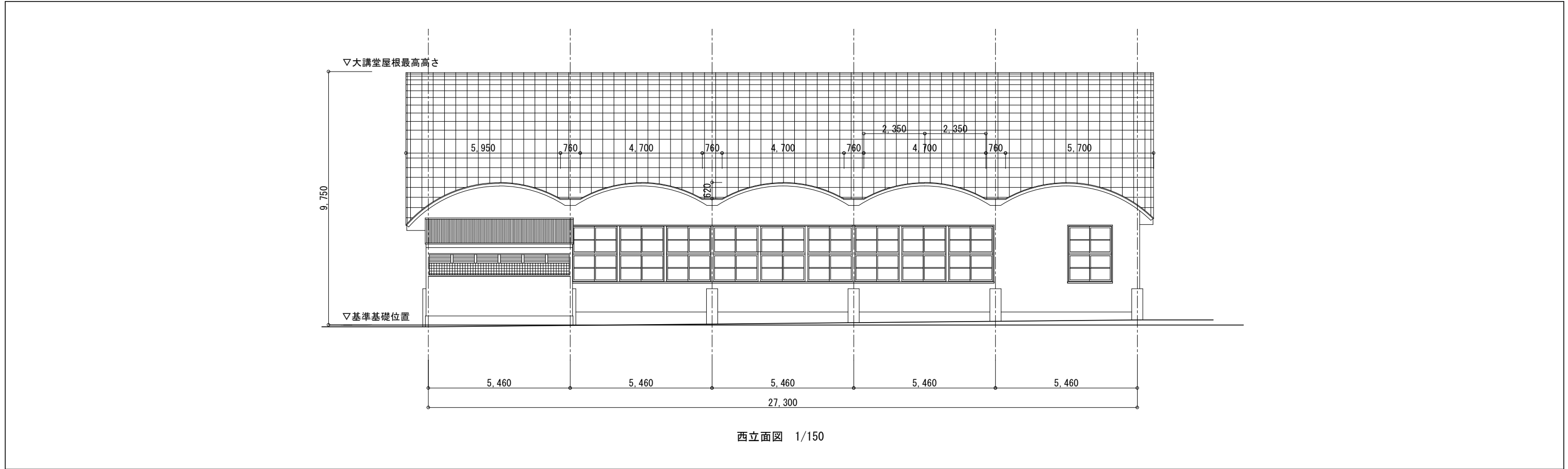


東立面図 1/150

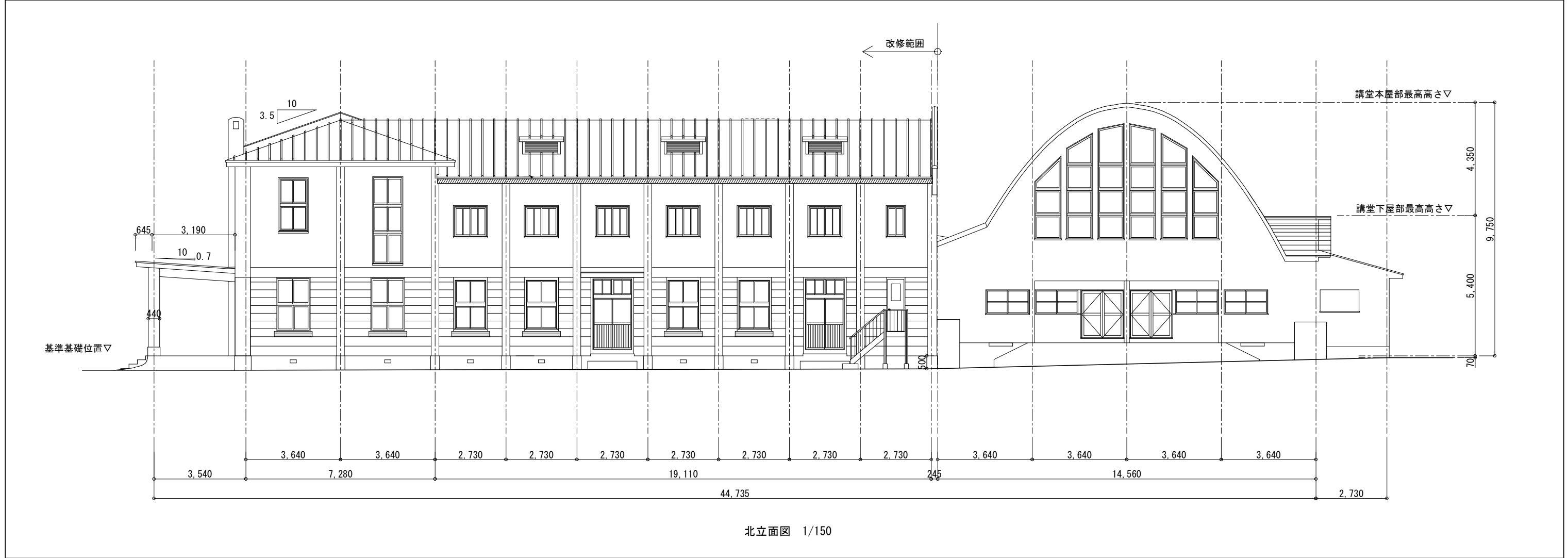


南立面図 1/150

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 No.254986 代表取締役 高橋直子	検図：	工事名： 令7-依・単杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事	図面名： 改修前立面図 1		図面番号： A-17
			設計：		縮尺： 1/150 (A3)	設計年月日：	区分：
			担当：				

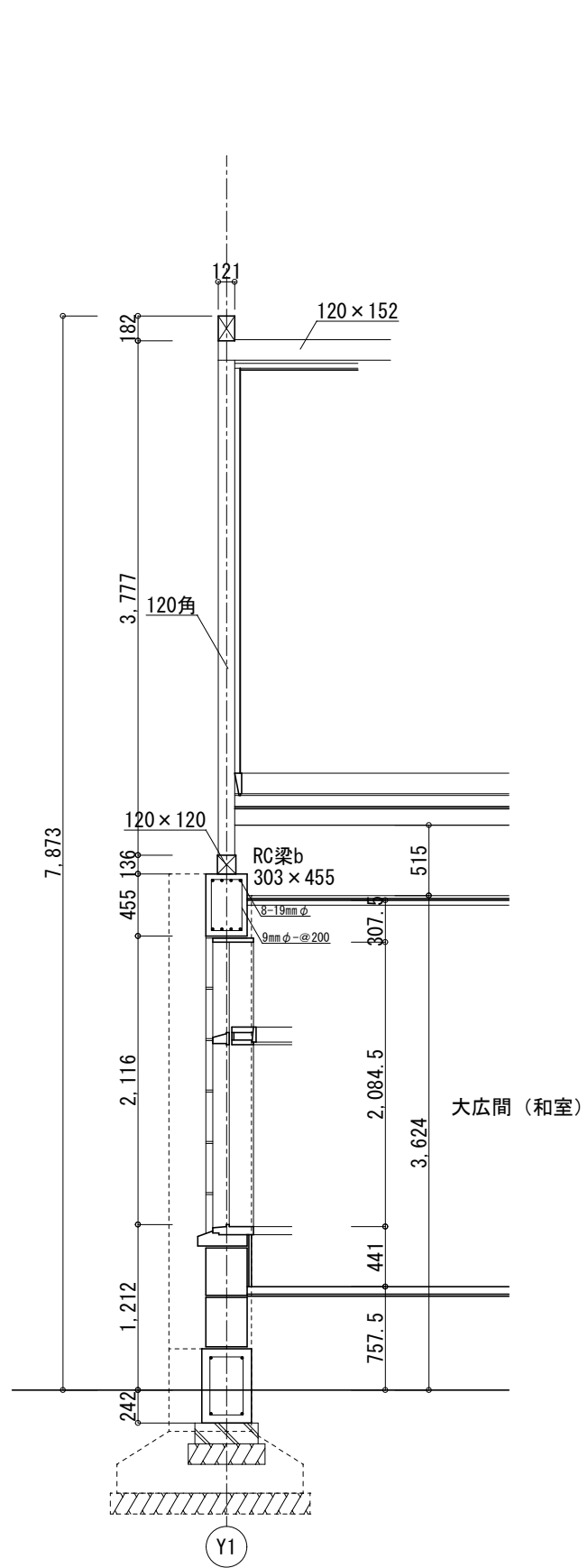


西立面図 1/150

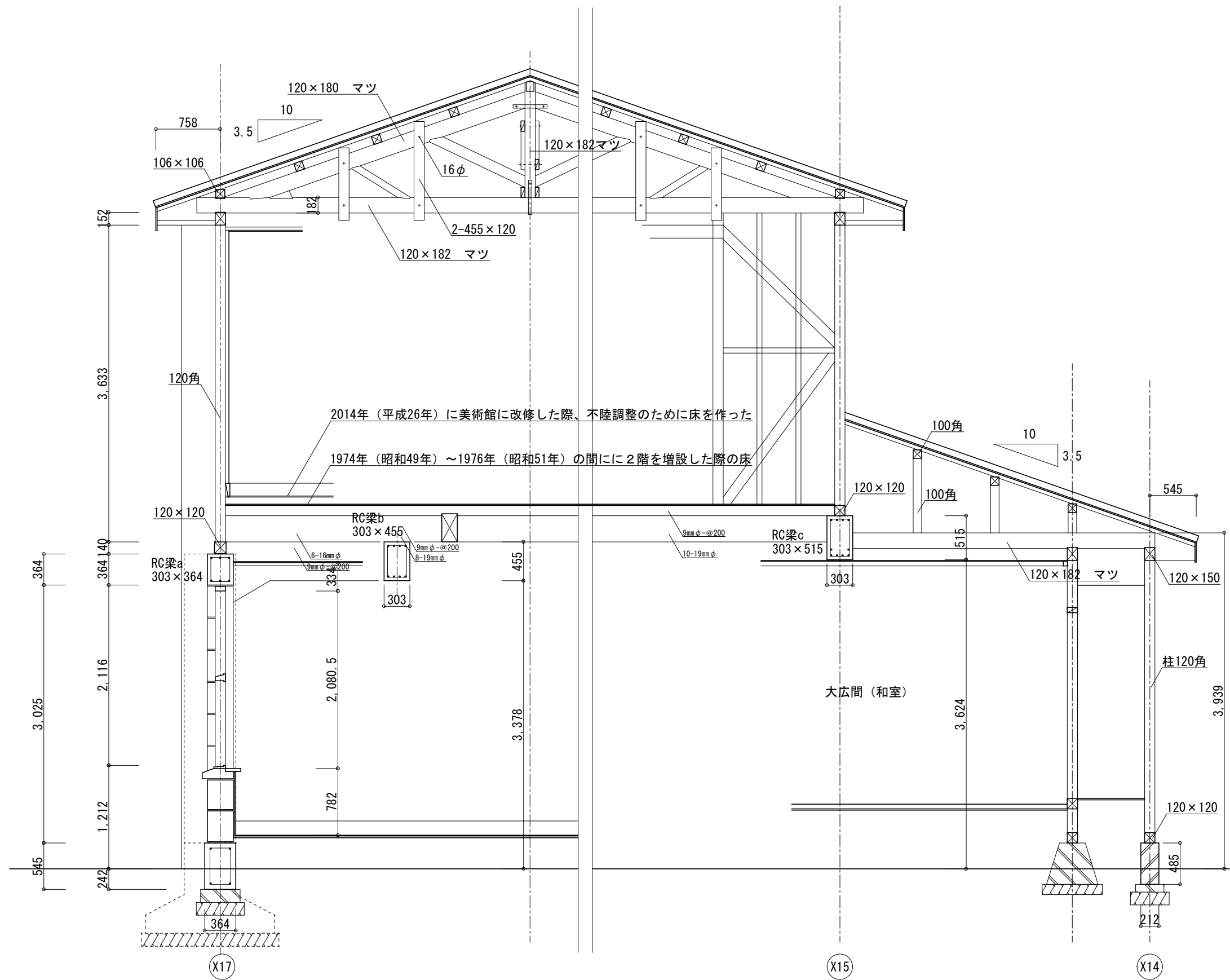


北立面図 1/150

特記： 	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 No.254986 代表取締役 高橋直子	検図：	工事名： 令7-依・単杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事	図面名： 改修前立面図 2		図面番号： A-18
			設計：		縮尺： 1/150 (A3)	設計年月日：	区分：
			担当：				



日本間（15帖）詳細
①－①断面



本館一般詳細

②－②断面

日本間（15帖）詳細

※昭和25年設計図を基に作図

特記：

株式会社 伝統建築研究所

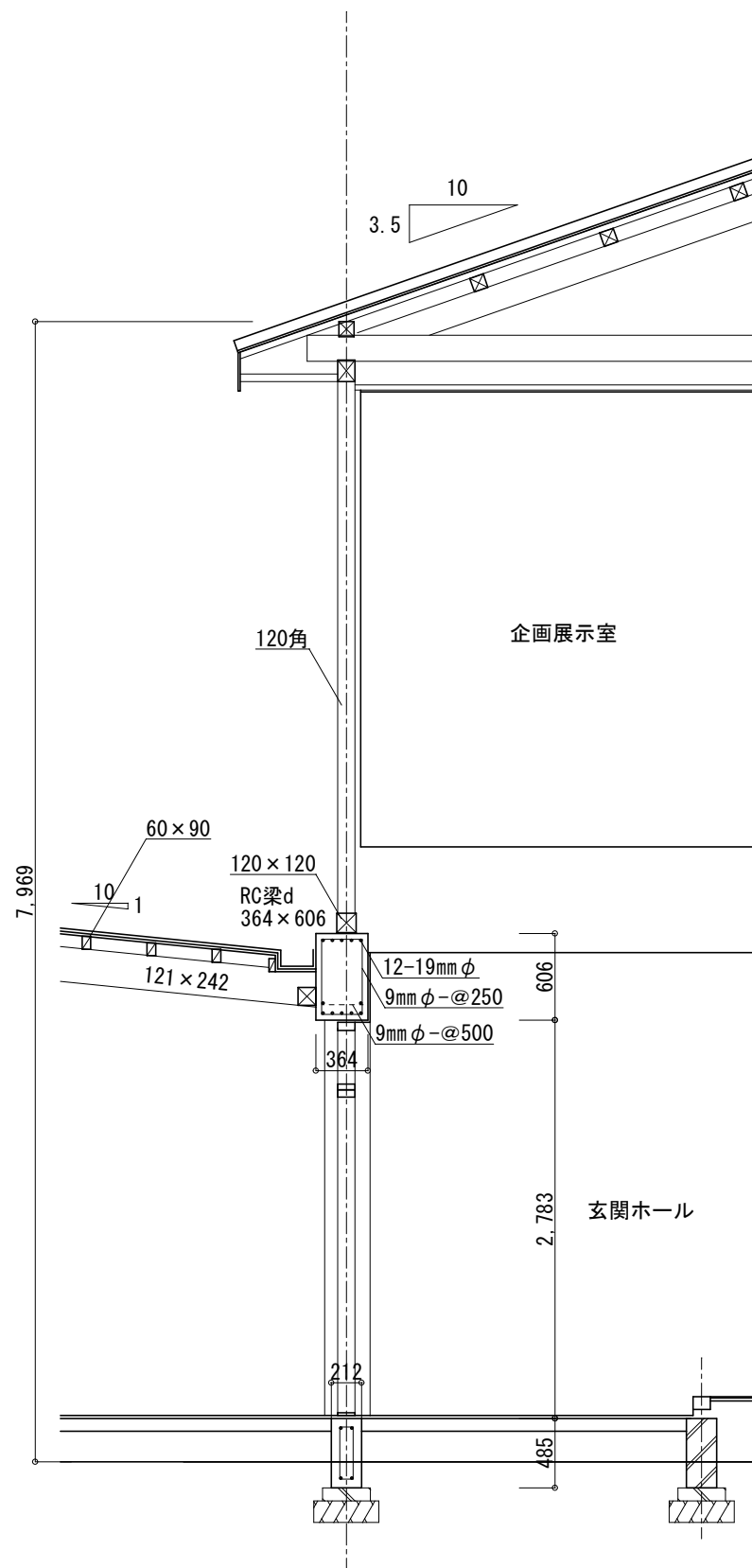
宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

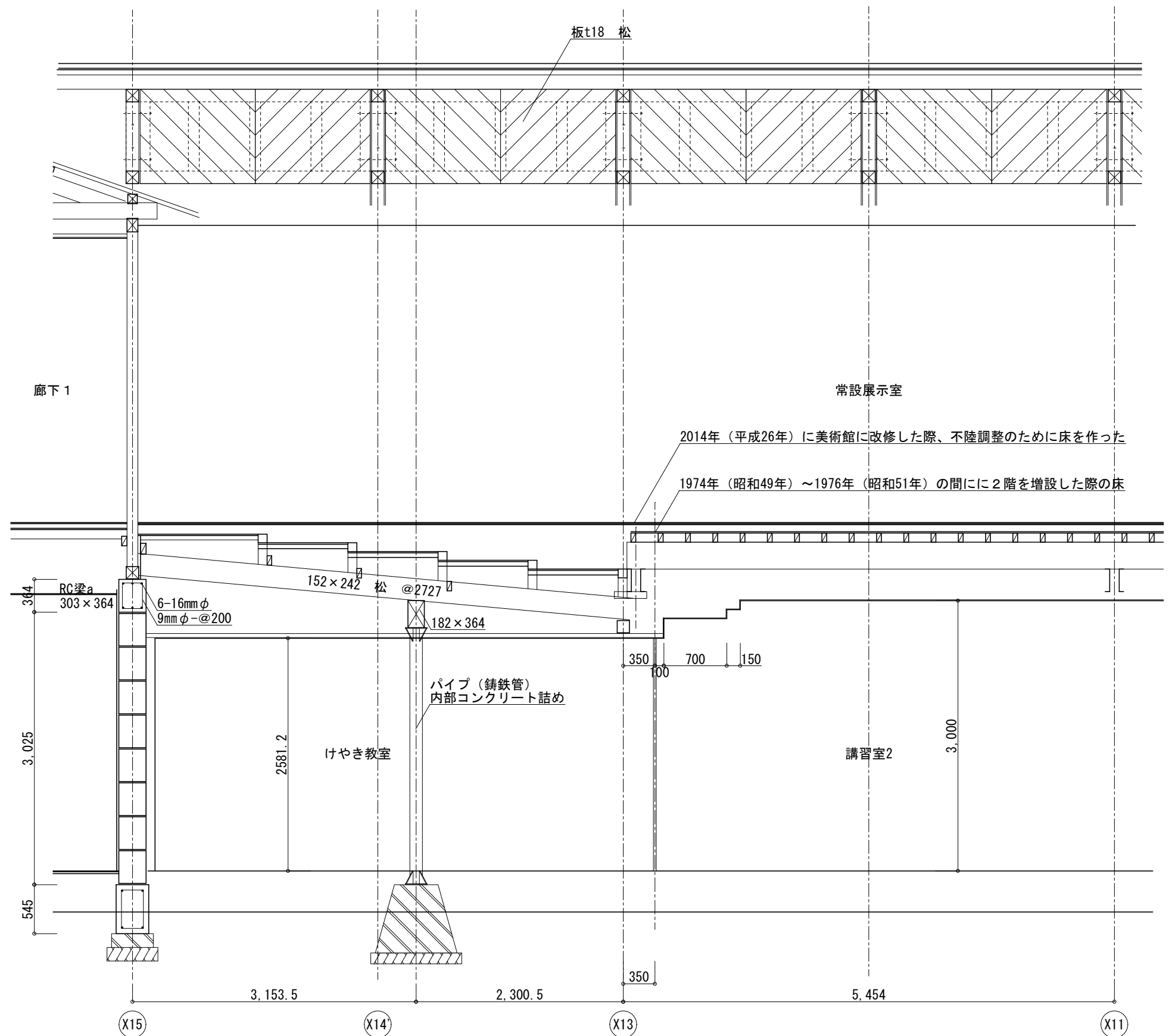
検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名：	改修前 矩計図 1	図面番号：	A-19
縮尺：	1/50 (A3)	設計年月日：	区分：



玄関詳細 ③-③断面



④-④断面

※昭和25年設計図を基に作図

特記:

株式会社 伝統建築研究所

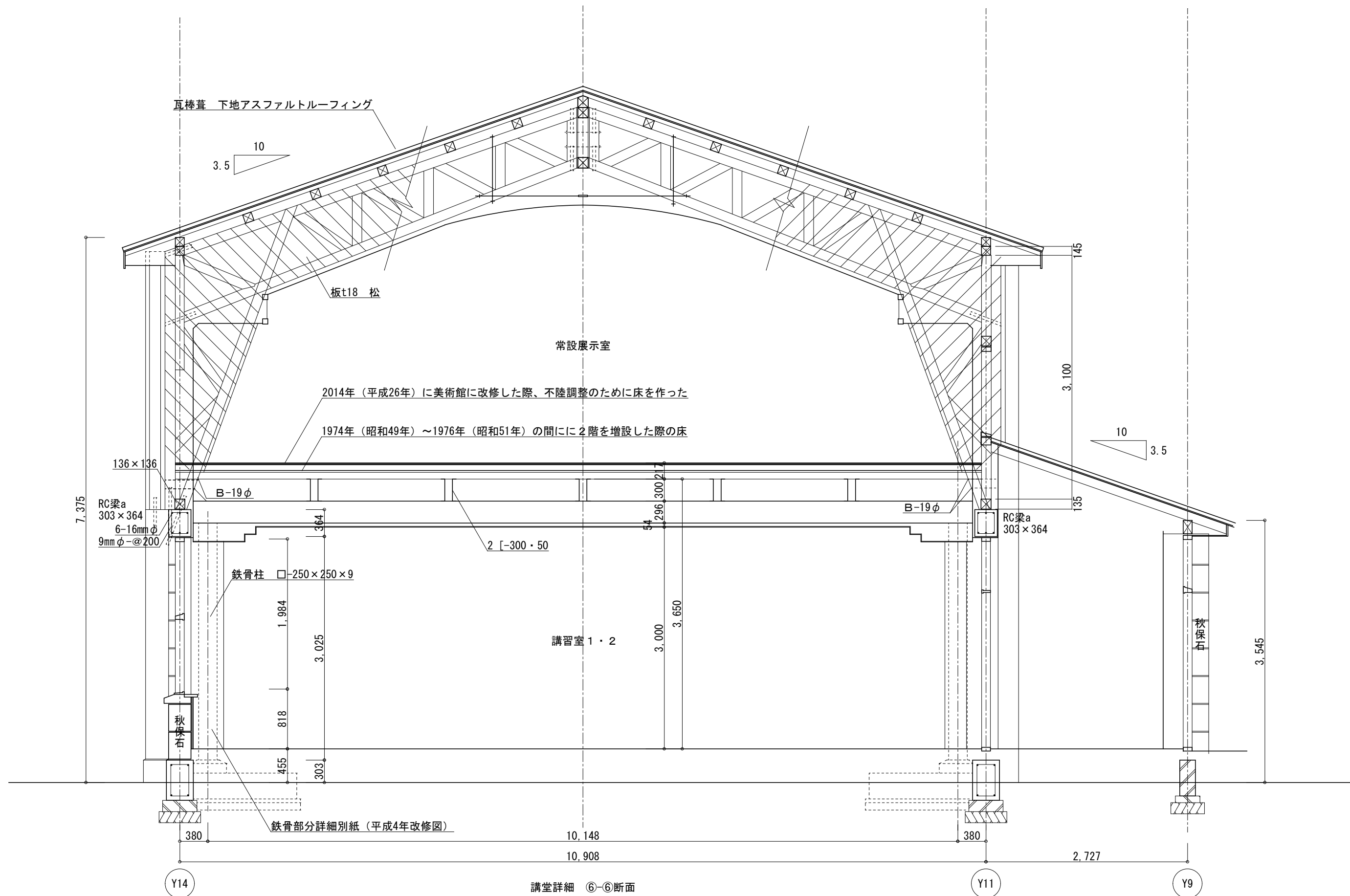
宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

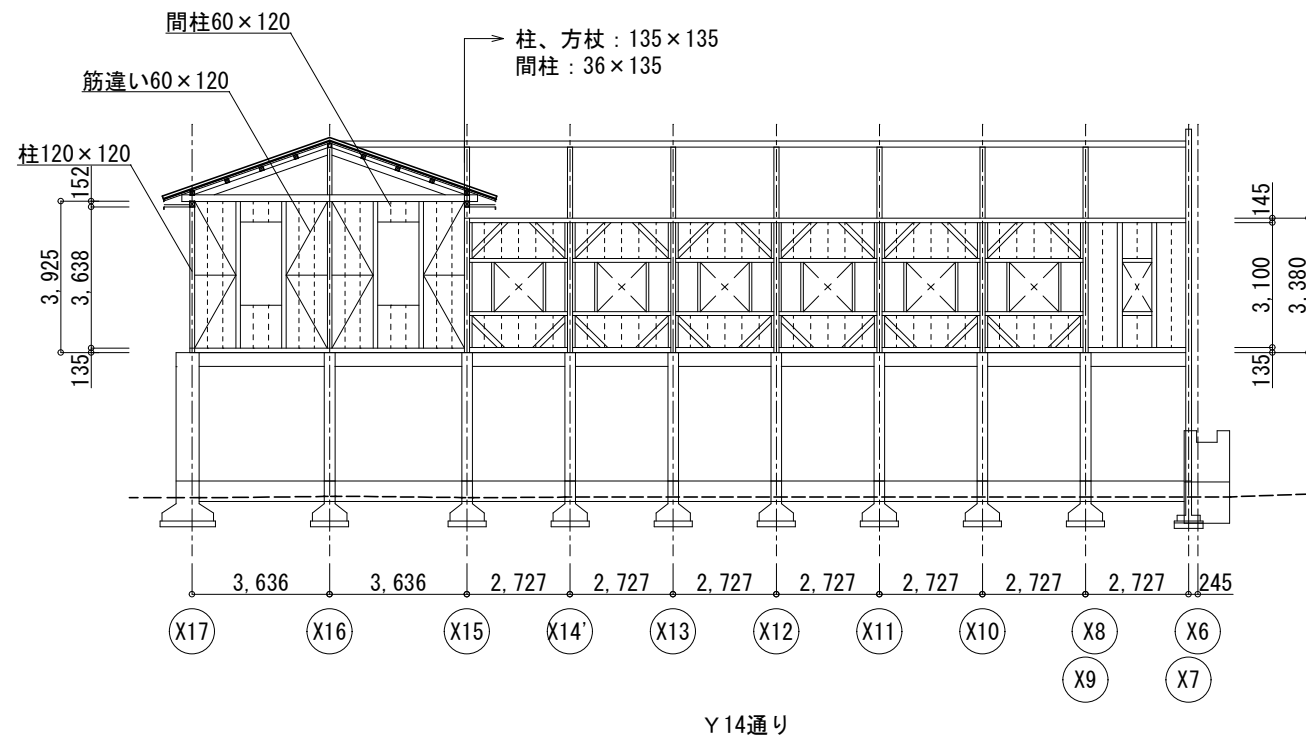
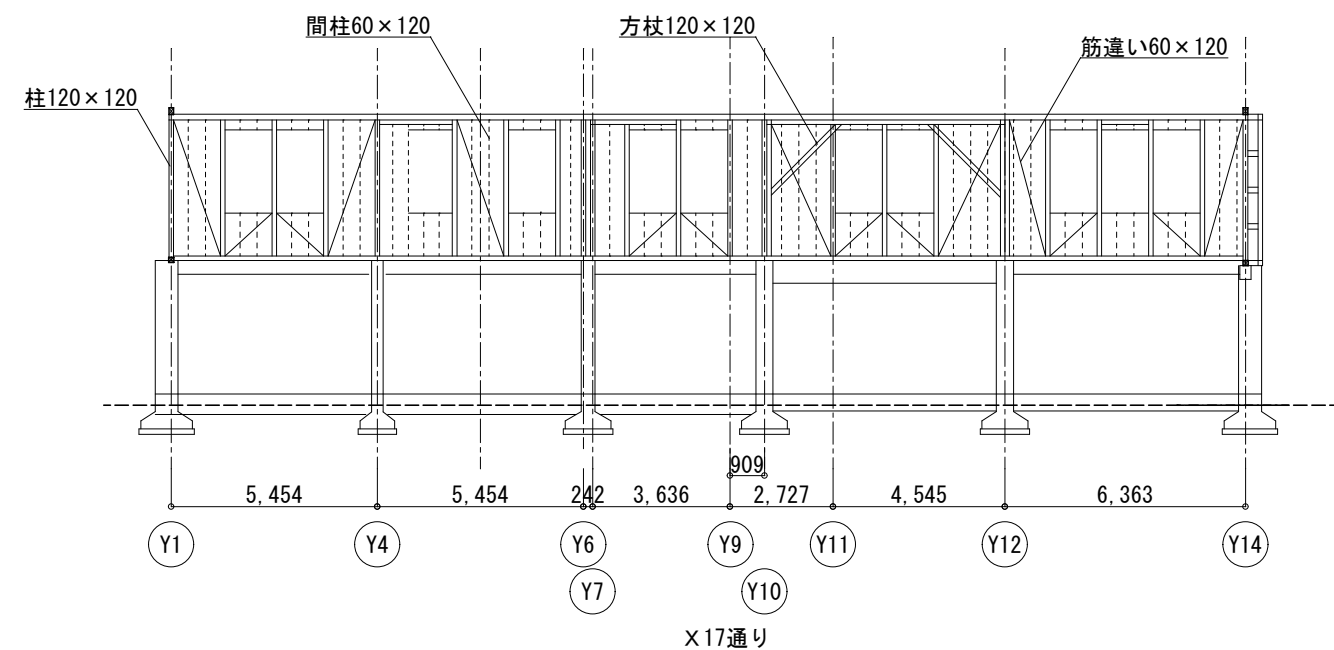
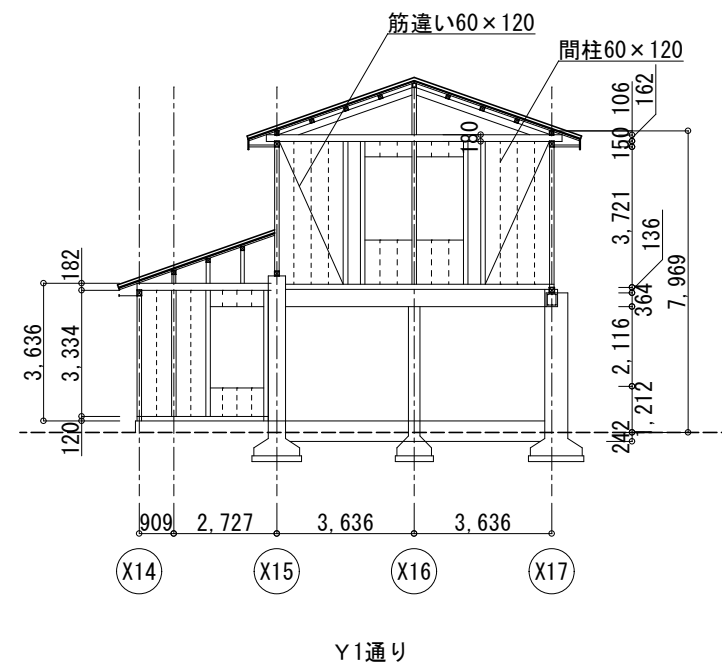
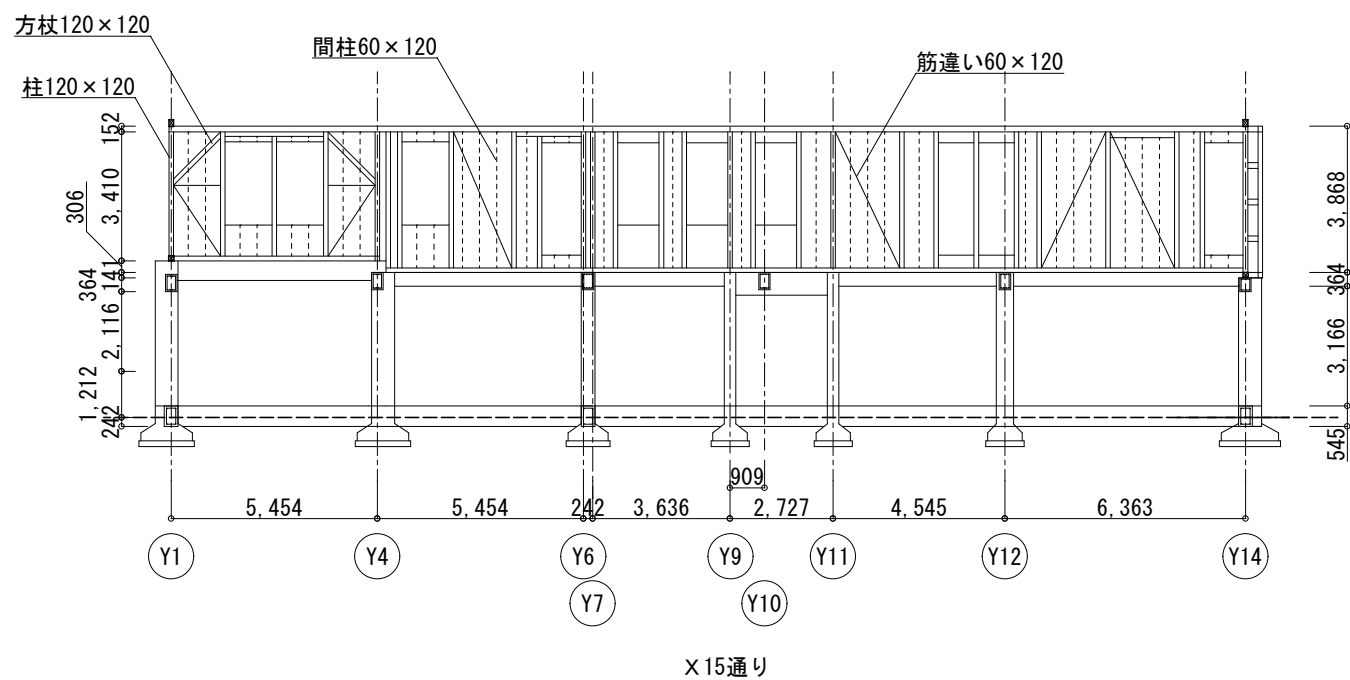
検図:
設計:
担当:

工事名: 令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名:	改修前 矩計図 2	図面番号:	A-20
縮尺:	1/50 (A3)	設計年月日:	区分:



特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 No.254986 代表取締役 高橋直子	検図：	工事名： 令7-依・単 杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事	図面名： 改 修 前 矩 計 図 3		図面番号： A - 2 1
設計：			縮 尺： 1/50 (A3)		設計年月日：	区分：	
担当：							



＜内部仕上表＞

室 名		床	巾木・畳寄せ	壁	天 井	そ の 他
常設展示室	改修前	木製下地45×40@303の上、フローリング t15mm H=70（二重床）、 ウレタン3回塗り	木製	ラスモルタル+下地補修の上 EP塗装	PBt9.5mm EP塗装、木製化粧格子55*55 SOP塗装	
	改修後	同仕上げにて復旧	取り外した巾木を再使用	木下地+構造用合板t12mm+PBt12.5+EP塗装	同仕上げにて復旧	可動パネル枠 SOP塗装 壁・巾木・天井・建具枠・新規見切材の塗装色：D19-75B 下層床の仕上復旧は不要（補強のみ行う）
倉庫2階 （構造用合板補強部）	改修前	吹き抜け 一部床あり（1階天井）：板張り		北面・南面：補強部分は軸部現わし、仕上なし		
	改修後	一部床あり（1階天井）：板張り		北面・南面：構造用合板張り		
倉庫1階 （L字鉄板補強部）	改修前	木製下地、合板t12mm、フローリングt15mm	木製	補強部分：縦板張り	吹き抜け 一部天井あり：板張り	
	改修後	同仕上げにて復旧	取り外した巾木を再使用	同仕上げにて復旧		
ロビーギャラリー	改修前	木製下地45×40@303の上、フローリング t15mm H=70（二重床）、 ウレタン3回塗り	木製	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 H 1,750以上：ラスモルタル EP塗装	PBt9.5mm EP塗装 木化粧格子55*55 SOP塗装	
	改修後	同仕上げにて復旧	取り外した巾木を再使用	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 H 1,750以上：PBt12.5 EP塗装	同仕上げにて復旧	塗装色：天井：D19-90B、壁：D19-85B、 腰壁パネル・見切り・巾木：D17-50D 下層床の仕上復旧は不要（補強のみ行う）
企画展示室 1	改修前	木製下地45×40@303の上、合板t12+t4+ビニル床シート 72.5mm（二重床）	木製	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm SOP塗装 H 1,750以上：ラスモルタル EP塗装	PBt9.5mm EP塗装 木化粧格子55*55 SOP塗装	
	改修後	同仕上げにて復旧 ※床組解体部分を塞ぎ下地調整の後、室全体に新規ビニル床シート貼り	取り外した巾木を再使用	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 H 1,750以上：PBt12.5 EP塗装	同仕上げにて復旧	塗装色：天井・壁・腰壁・巾木・見切り縁・窓枠：ND-93 下層床の仕上復旧は不要（補強のみ行う）
企画展示室 2	改修前	木製下地45×40@303の上、合板t12+t4+ビニル床シート 72.5mm（二重床）	木製	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm EP塗装 H 1,750以上：ラスモルタル EP塗装 上記の上より軽量鉄骨下地W90、PBt12.5mm EP塗装	PBt9.5mm EP塗装 木化粧格子55*55 SOP塗装	
	改修後	同仕上げにて復旧 ※床組解体部分を塞ぎ下地調整の後、室全体に新規ビニル床シート貼り	取り外した巾木を再使用	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 H 1,750以上：PBt12.5 EP塗装	同仕上げにて復旧	塗装色：天井・壁・腰壁・巾木・見切り縁・窓枠：ND-93 下層床の仕上復旧は不要（補強のみ行う）
廊下	改修前	木製下地45×40@303の上、フローリング 715mm H=70（二重床）、 ウレタン3回塗り	木製	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 H 1,750以上：ラスモルタル EP塗装	PBt9.5mm EP塗装 木化粧格子55*55 SOP塗装	
	改修後	同仕上げにて復旧	取り外した巾木を再使用	H 1,750まで：銘木合板張り t5mm ウレタン塗装 H 1,750以上：PBt12.5 EP塗装	同仕上げにて復旧	塗装色：天井：D19-85B、壁・腰壁・巾木・見切り縁・窓枠：D19-75B 下層床の仕上復旧は不要（補強のみ行う）
大講堂	改修前	木製下地、構造用合板t12mm、フローリングt15mm ウレタン3回塗り	木製	PBt12.5mm EP塗装	PBt9.5mm EP塗装	
	改修後	同仕上げにて復旧	取り外した巾木を再使用	同仕上げにて復旧		

【構造用合板補強 仕様】

構造用合板 t=12mm 壁倍率2.5（片面） 昭和56告示第1100号 別表第1(4)
釘仕様：N50@15cm以下

【構造用合板補強下地 胴縁仕様】 30×45@455 材種：杉、桧

【オイルダンパー】

日本制震システム株式会社 制震装置MER SYSTEM Cross Type 同等品（仕様書参照）
同等品を使用の際は、構造計算を行い安全性を確認すること

【オイルダンパー下地補強内容】

仕上を部分的に剥がし、下地の状況を確認。構造体と窓枠間に隙間があった場合は隙間を木材で埋める等の補強を行う。材種：杉、桧、赤松

【再使用材・新規材の範囲】

・巾木、廻縁、格縁、見切縁、フローリング：取り外した既存材を再使用する。
再使用不可の場合は新規材とする。巾木、廻縁、格縁、見切縁材種：杉、桧
フローリング：（株）カムラ・コーポレーション オークユニナチュラルフローリング [®] 同等品
・腰壁合板、腰上壁・天井PB：新規材

【塗装範囲】

工事に伴い、撤去及び復旧を行った箇所のみとする。

【窓 目隠しフィルム】

（株）サンゲツ クレアスガラスフィルム GF1821 同等品

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

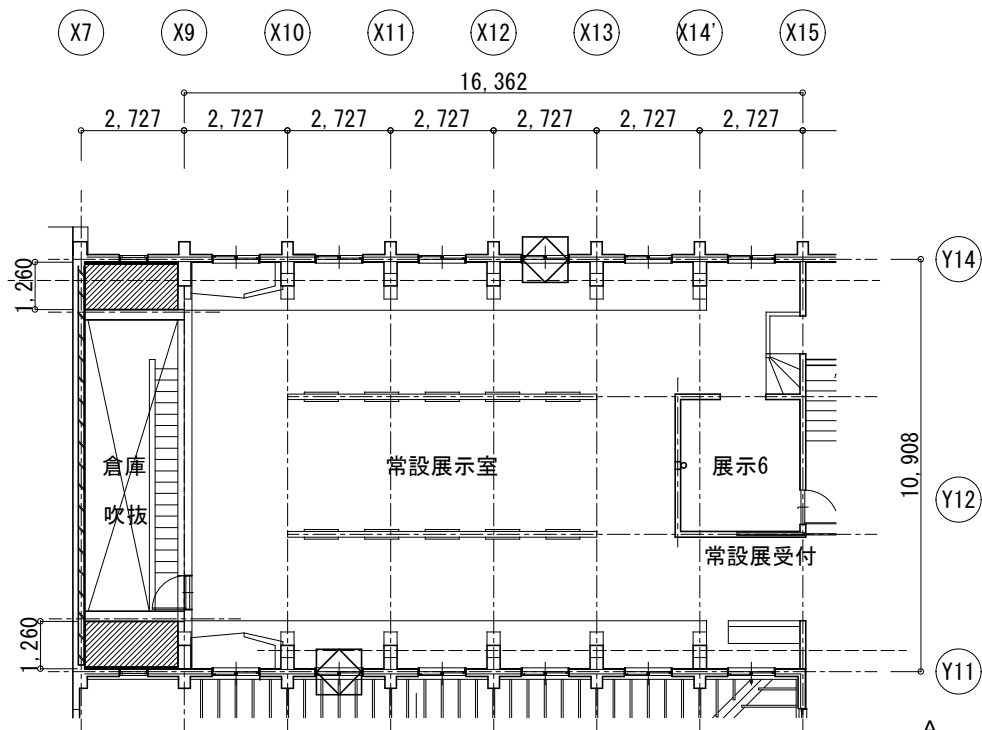
検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事

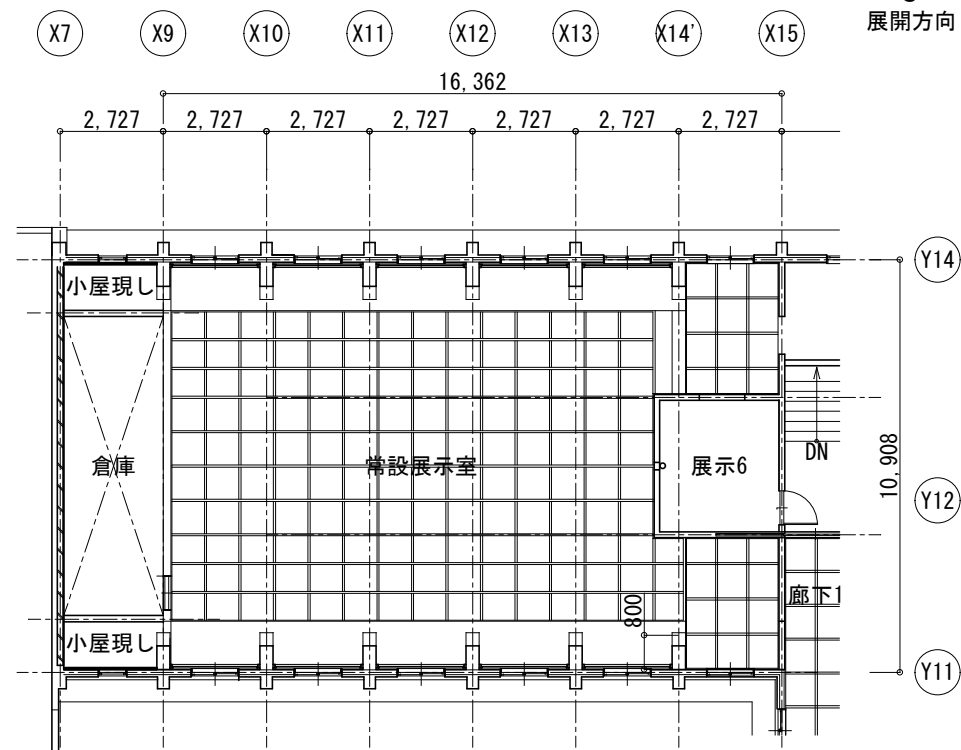
図面名：
仕 上 表
縮尺： NON
設計年月日：

図面番号：
A - 2 3
区分：

区分：	
-----	--



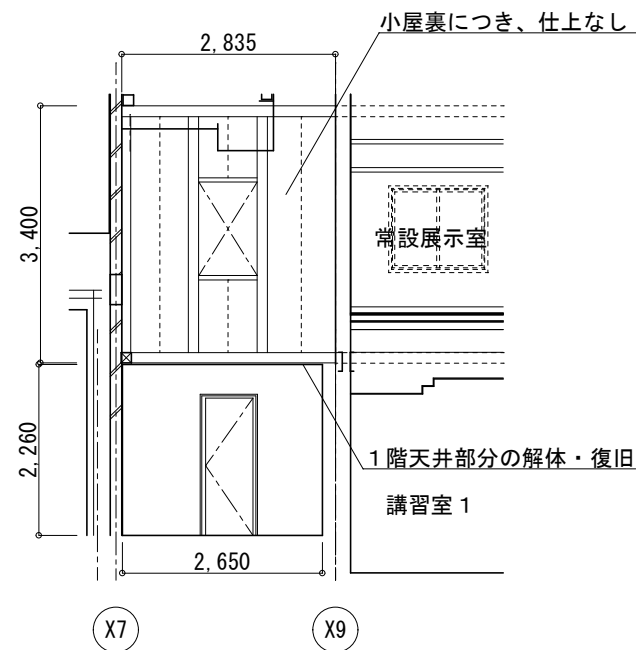
平面図 S=1/200



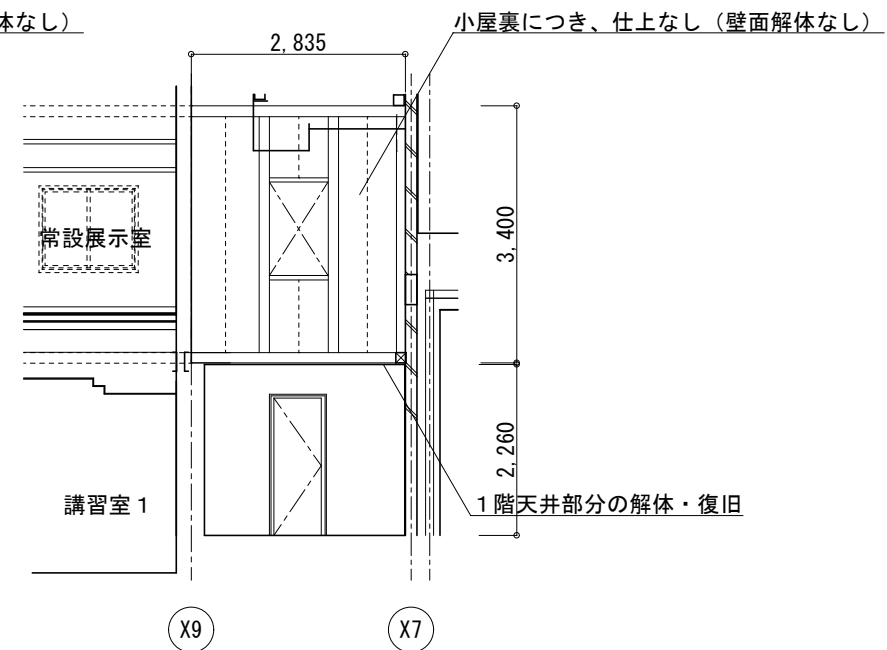
天井伏図 S=1/200

凡例

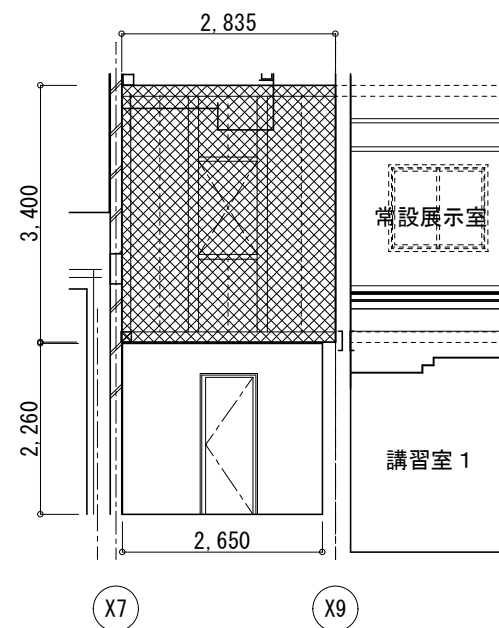
- 床・壁・天井解体・復旧範囲
現況の床の下にそれ以前の床あり
- 木胴縁+構造用合板貼補強範囲



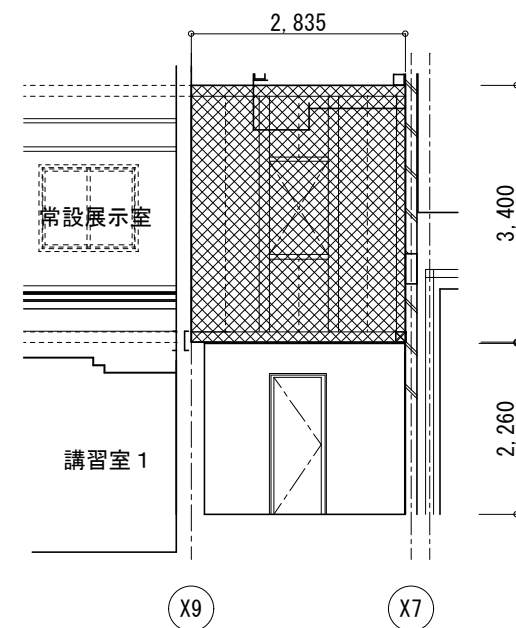
倉庫 展開 A



倉庫 展開 C



倉庫 展開 A



倉庫 展開 C

解体・復旧範囲

補強範囲

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

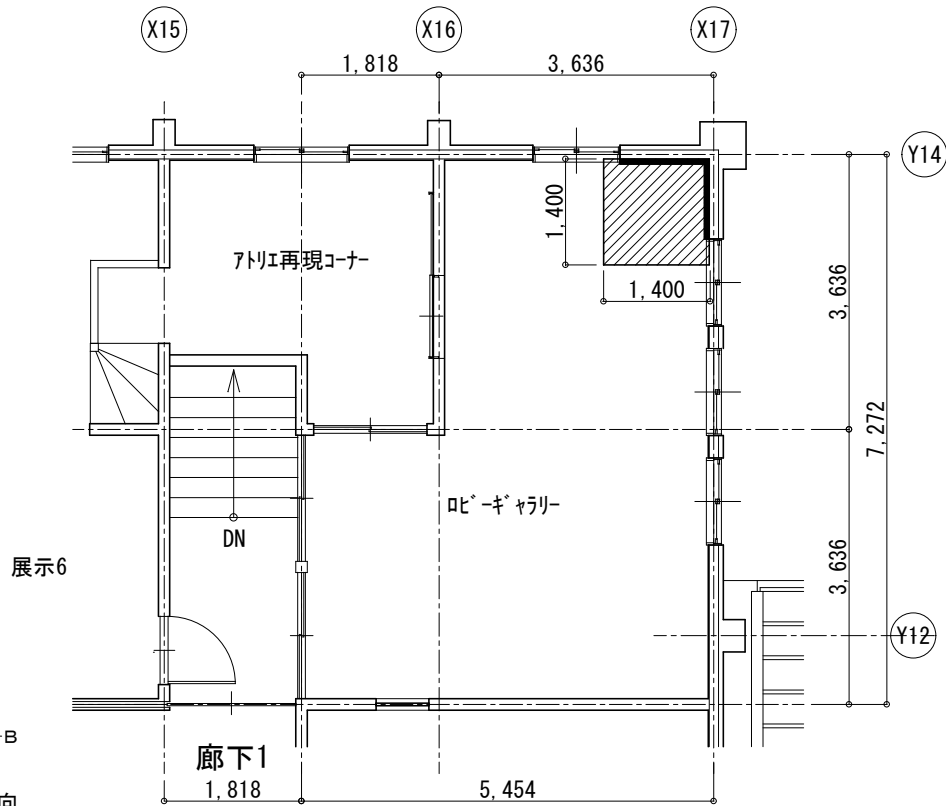
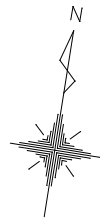
図面名：
倉庫（構造用合板補強部）改修範囲図

縮尺：
1/200・1/100(A3)

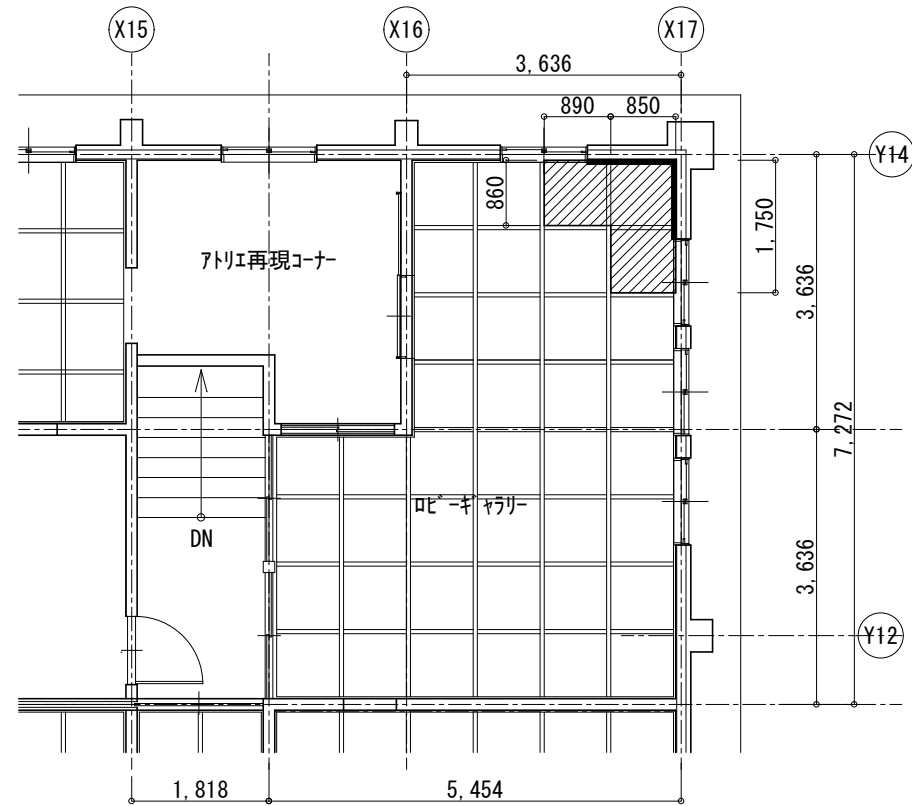
設計年月日：

図面番号：
A-25

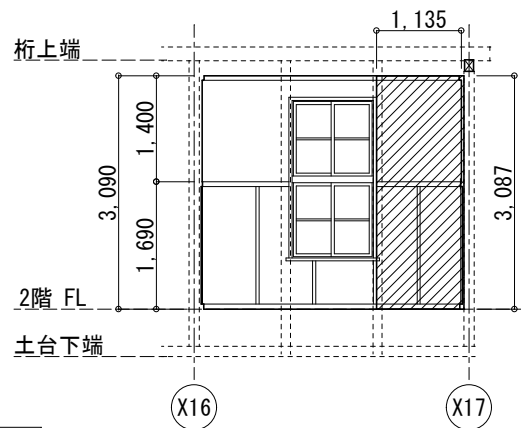
区分：



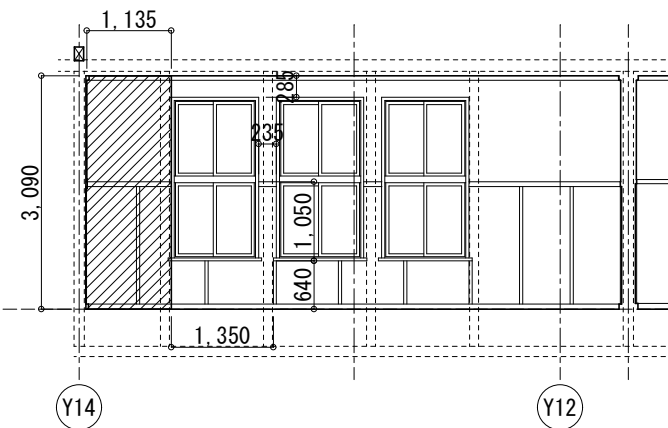
平面図



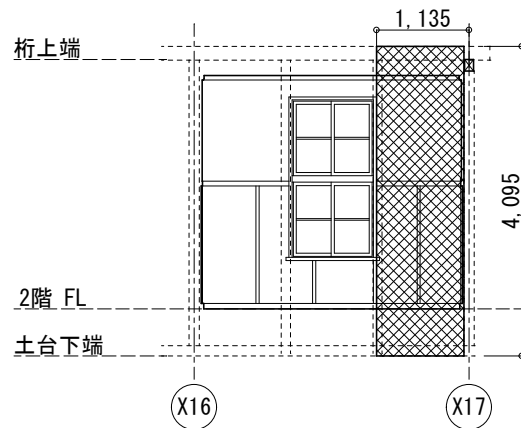
天井伏図



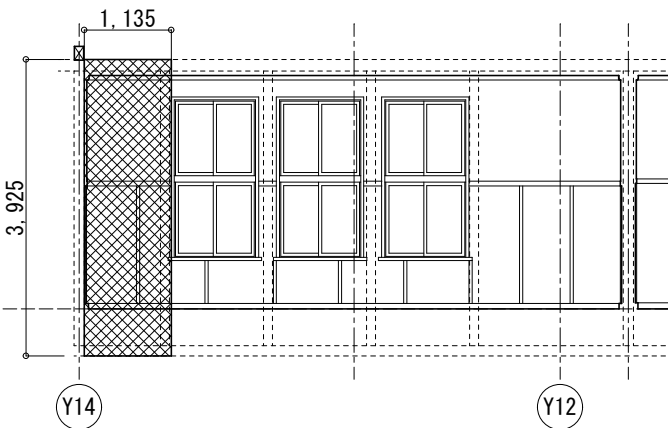
ロビーギャラリー 展開A



ロビーギャラリー 展開B



ロビーギャラリー 展開A



ロビーギャラリー 展開B

凡例

- 床・壁・天井解体・復旧範囲
現況の床の下にそれ以前の床あり
- 木胴縁+構造用合板貼補強範囲
- ダンパー設置位置
- ダンパー下地補強の為の壁解体・復旧範囲

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

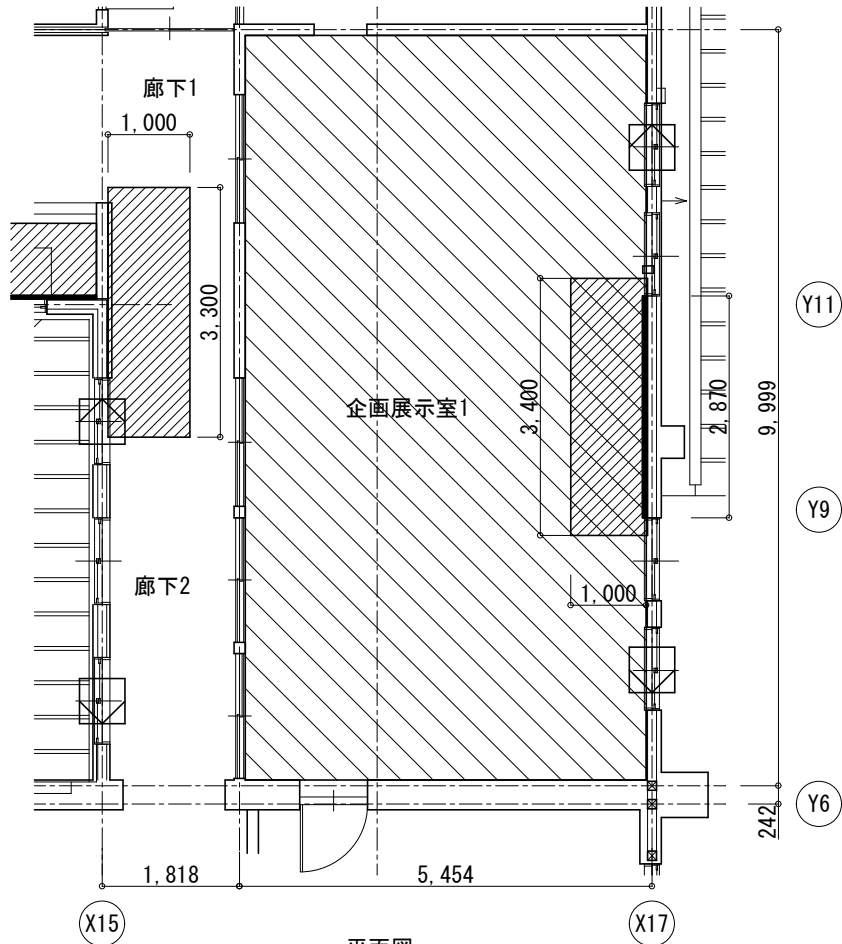
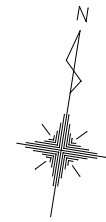
図面名：
ロビーギャラリー改修範囲図

縮尺：
1/100 (A3)

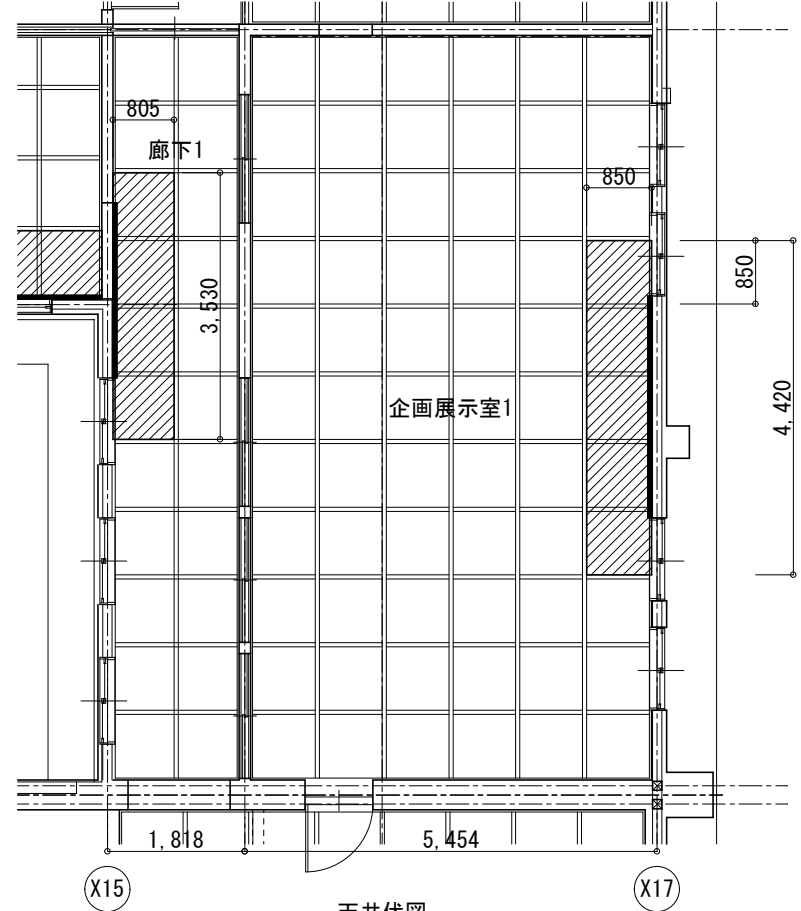
設計年月日：

図面番号：
A-26

区分：

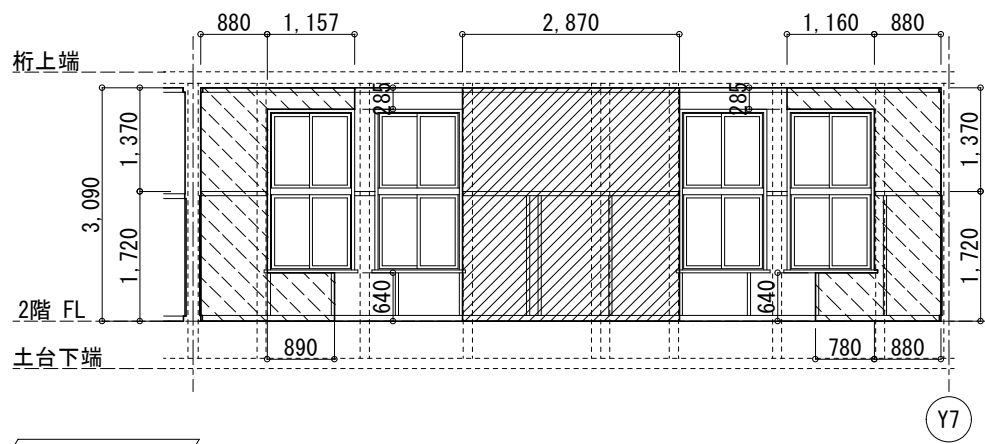


平面図

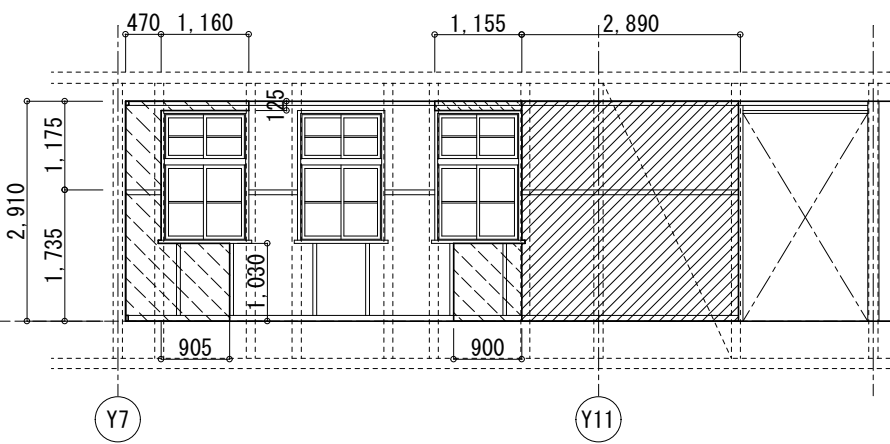


天井伏図

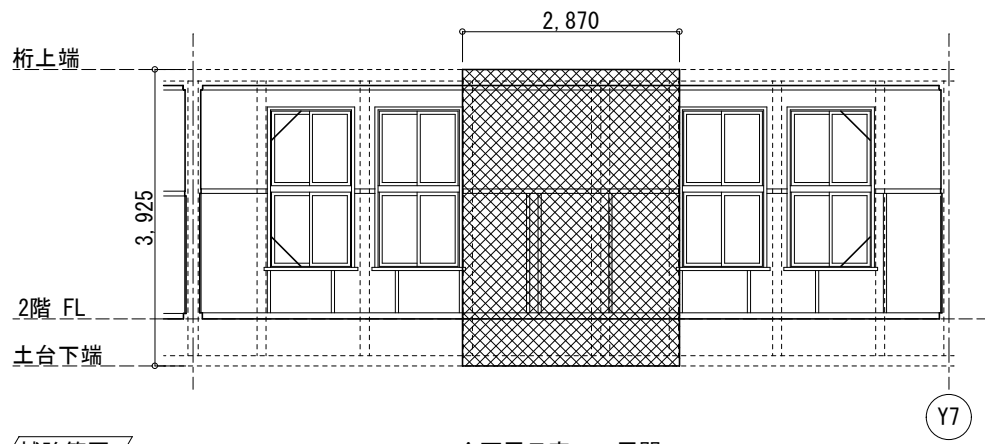
※床の復旧について
解体部分を塞ぎ、下地調整により既存床レベルに
合わせた上で、企画展示室1全面に新規ビニル床
シート貼とする。



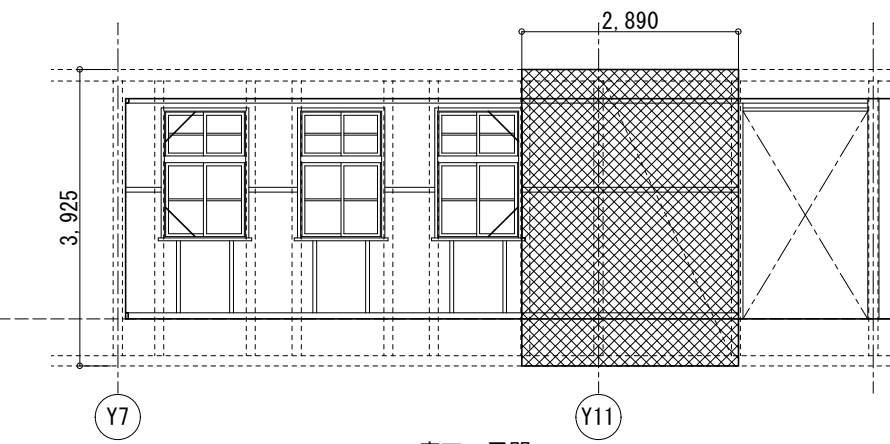
企画展示室1 展開B



廊下 展開D

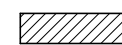
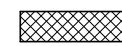

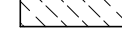


企画展示室1 展開B



廊下 展開D

凡例

-  床・壁・天井解体・復旧範囲
現況の床の下にそれ以前の床あり
-  木胴縁+構造用合板貼補強範囲
-  ダンパー設置位置
-  ダンパー下地補強の為の壁解体・復旧範囲

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

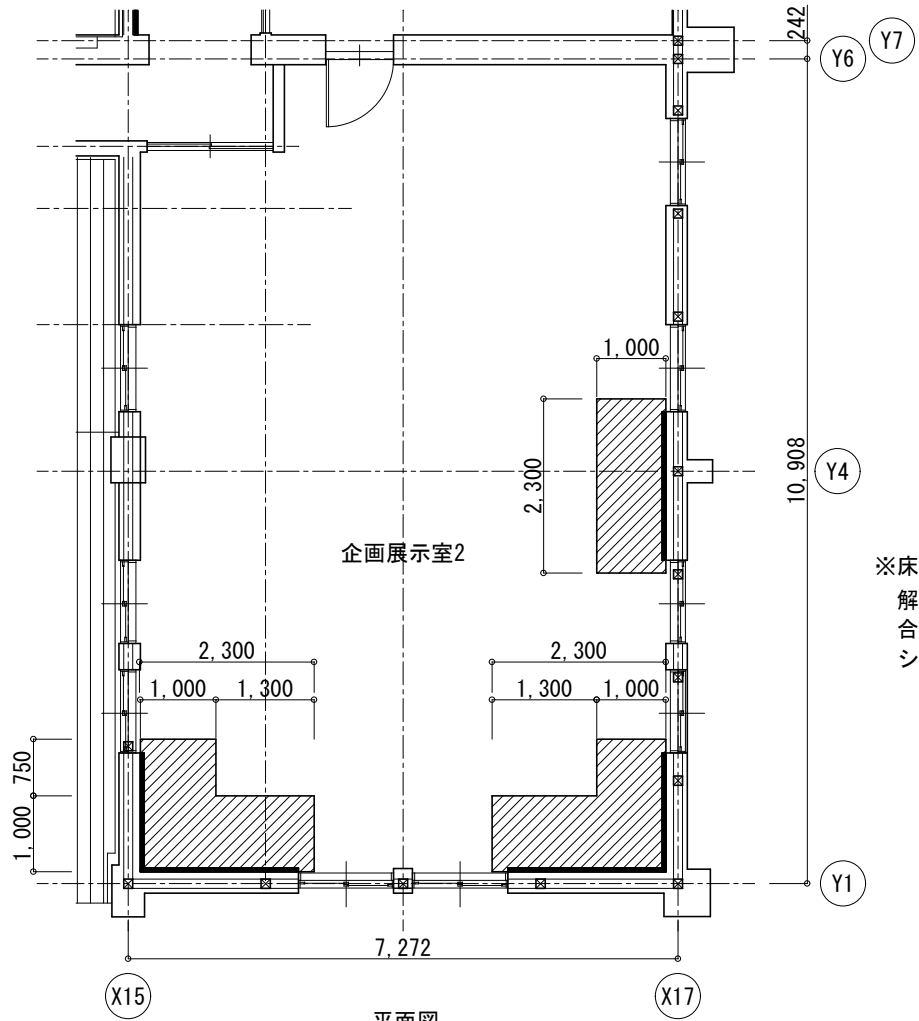
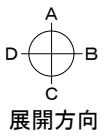
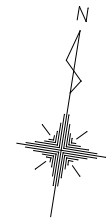
図面名：
企画展示室1・廊下改修範囲図

縮尺：
1/100 (A3)

設計年月日：

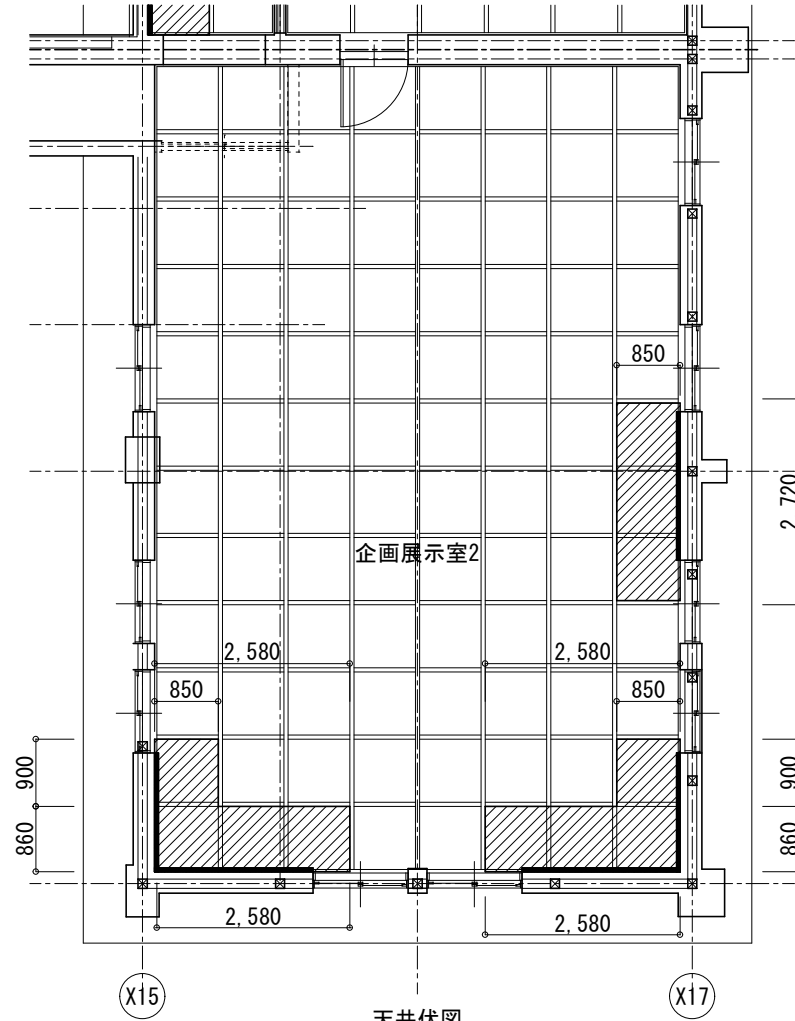
図面番号：
A-27

区分：



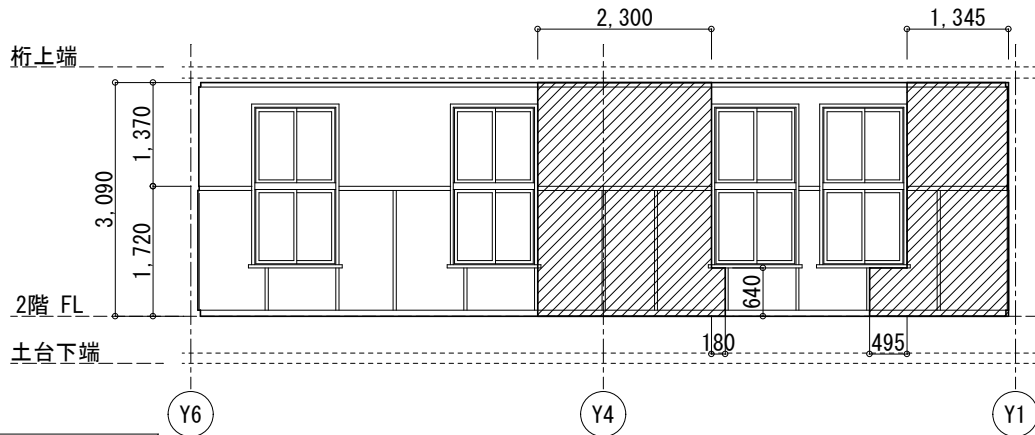
平面図

※床の復旧について
解体部分を塞ぎ、下地調整により既存床レベルに
合わせた上で、企画展示室 1 全面に新規ビニル床
シート貼とする。

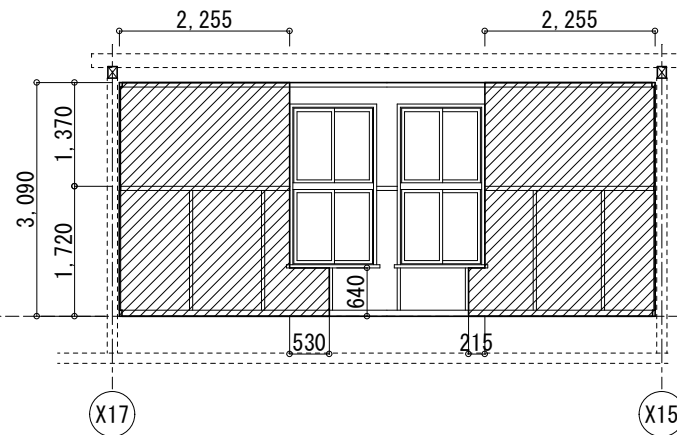


天井伏図

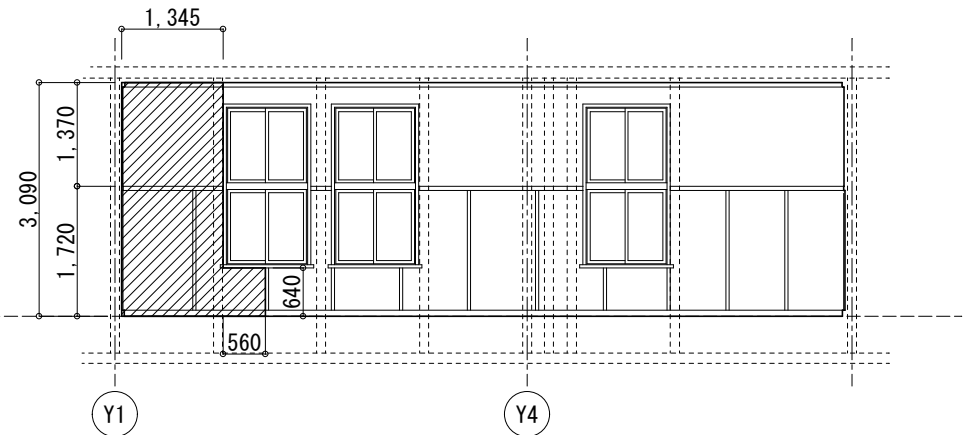
- 凡例
- 床・壁・天井解体・復旧範囲
現況の床の下にそれ以前の床あり
 - 木胴縁+構造用合板貼補強範囲
 - ダンパー設置位置
 - ダンパー下地補強の為の壁解体・復旧範囲



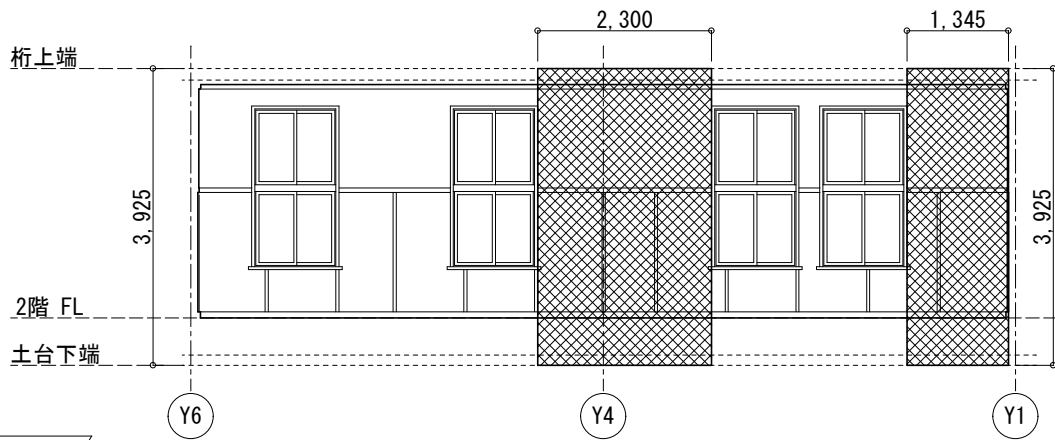
企画展示室 2 展開 B



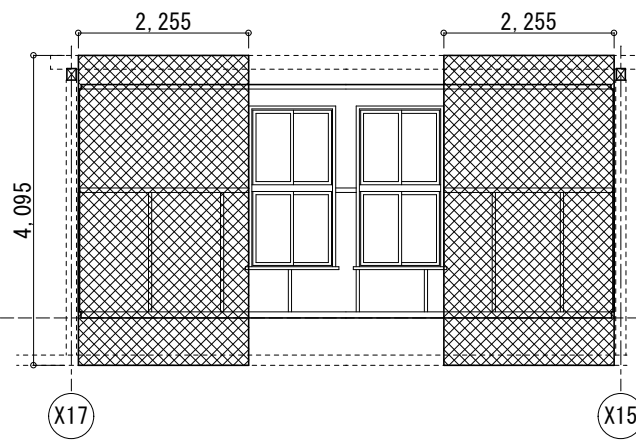
企画展示室 2 展開 C



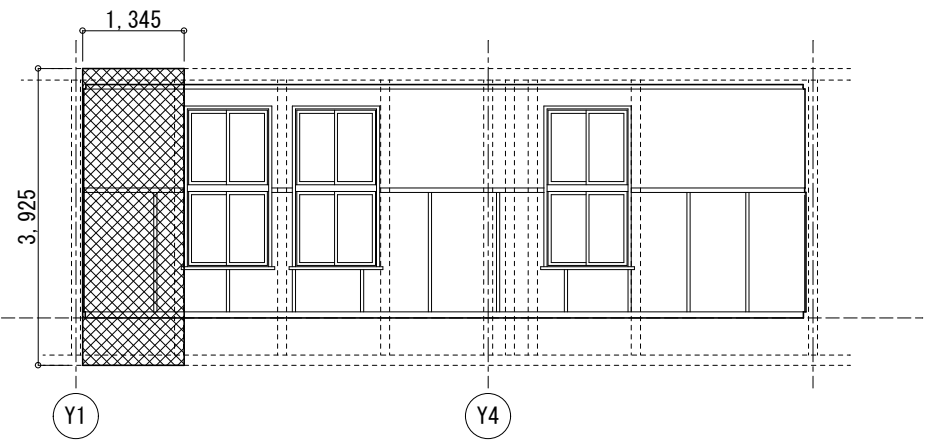
企画展示室 2 展開 D



企画展示室 2 展開 B



企画展示室 2 展開 C



企画展示室 2 展開 D

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

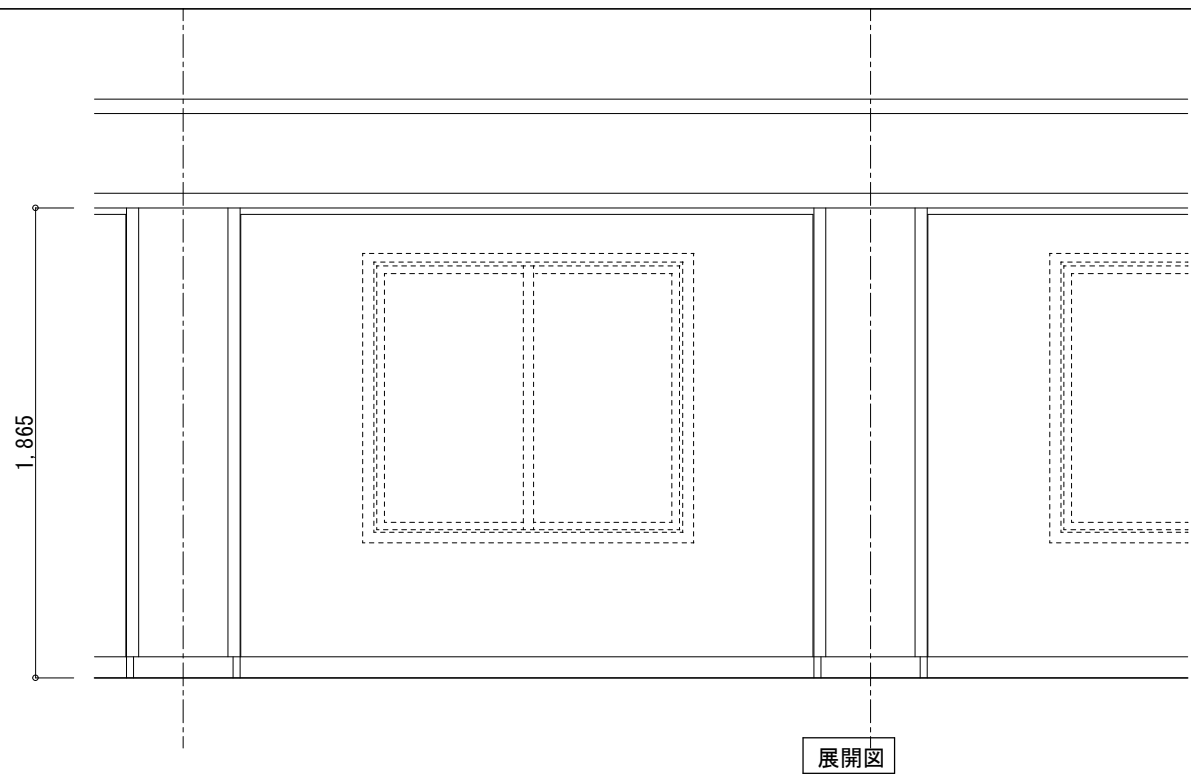
検図：
設計：
担当：

工事名：
令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

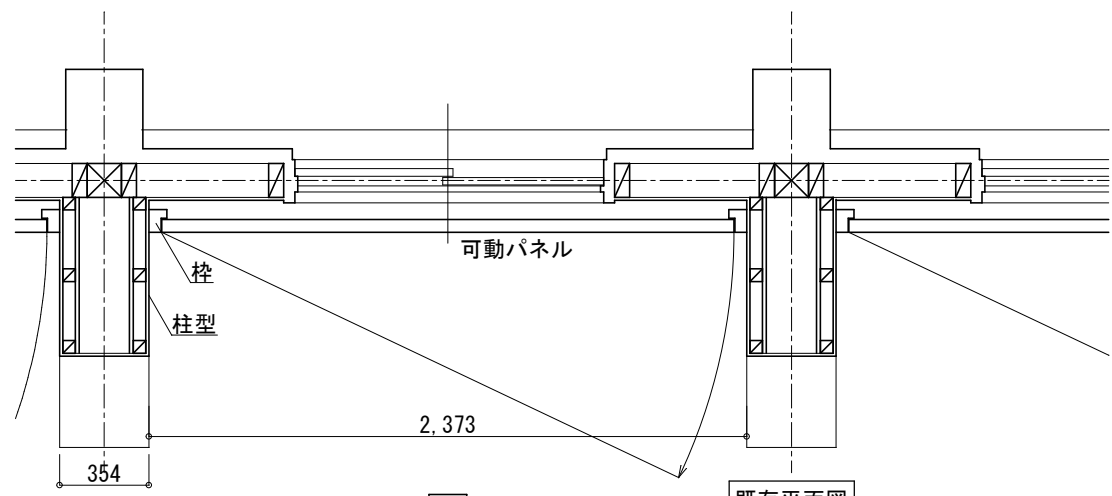
図面名：
企画展示室 2 改修範囲図
縮尺：
1/100 (A3)

設計年月日：

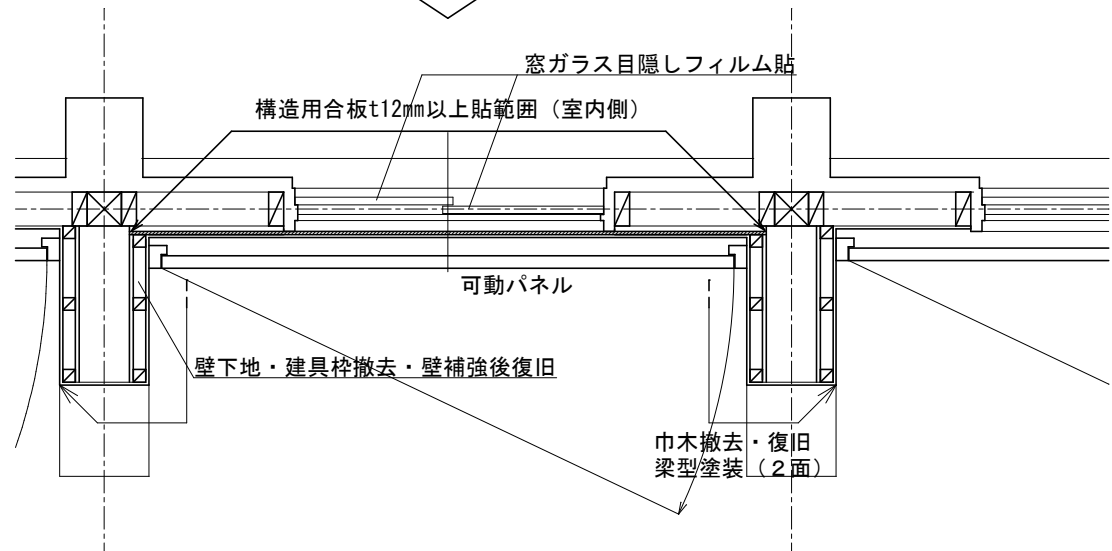
図面番号：
A-28
区分：



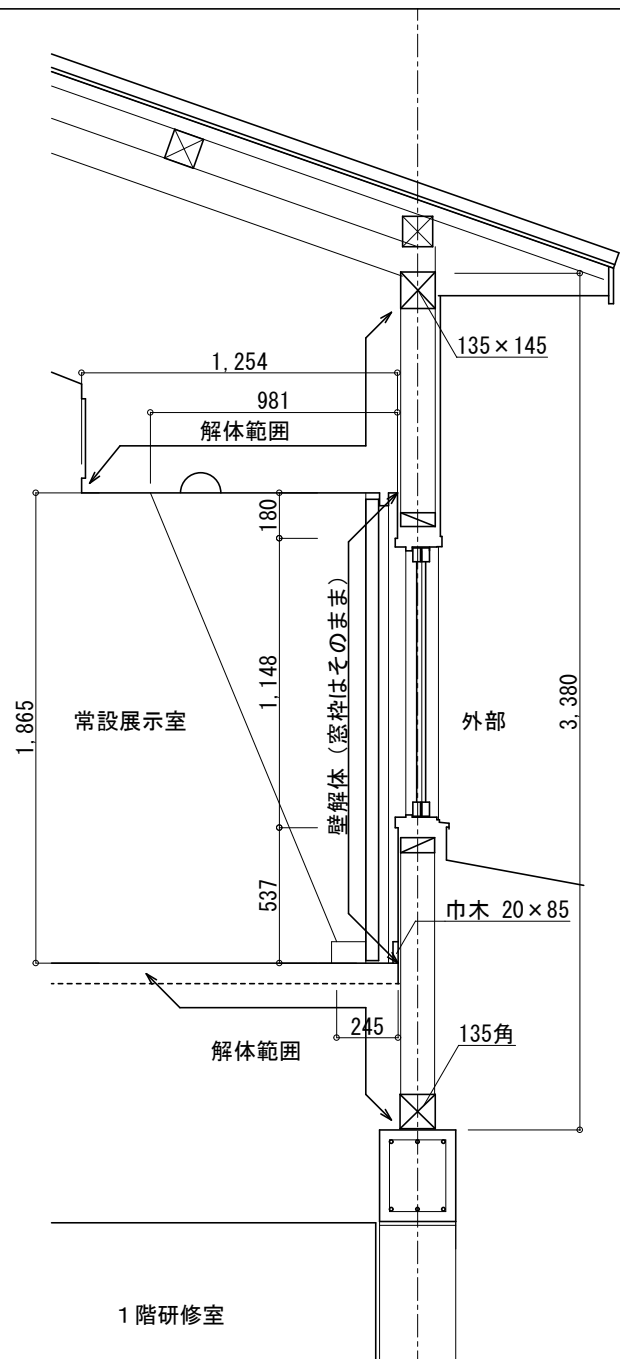
展開図



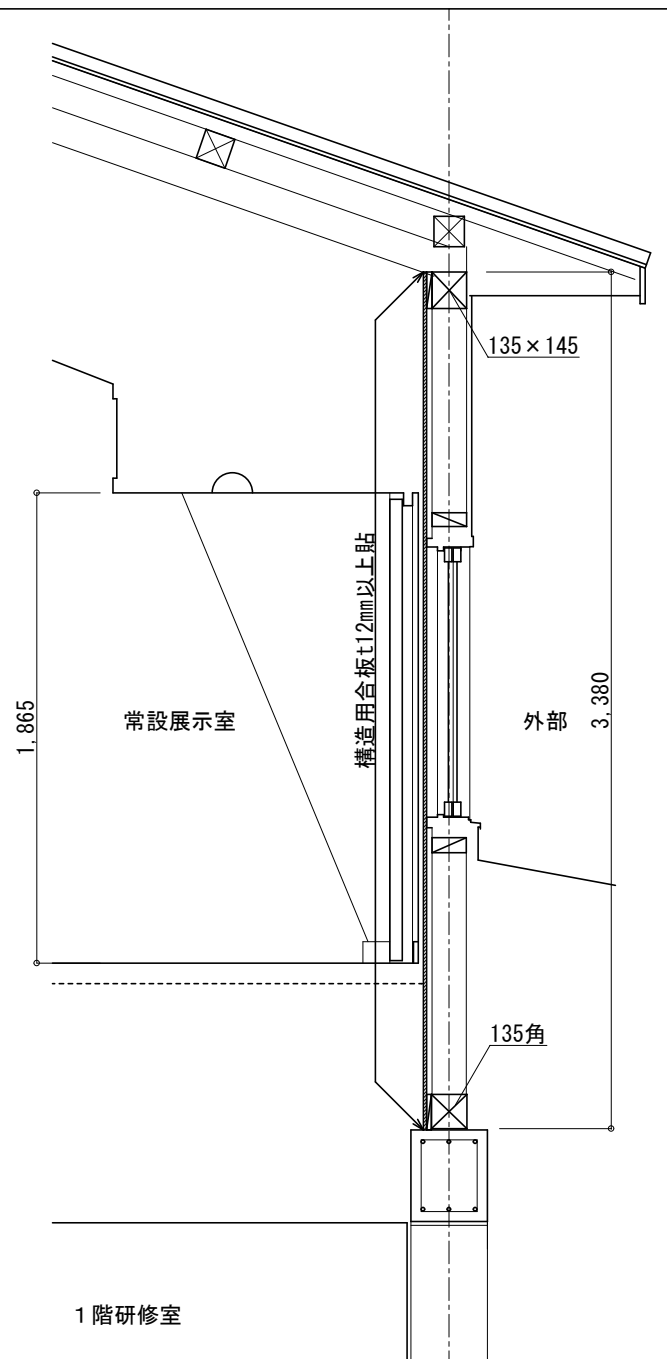
既存平面図



補強部分平面図



既存断面図

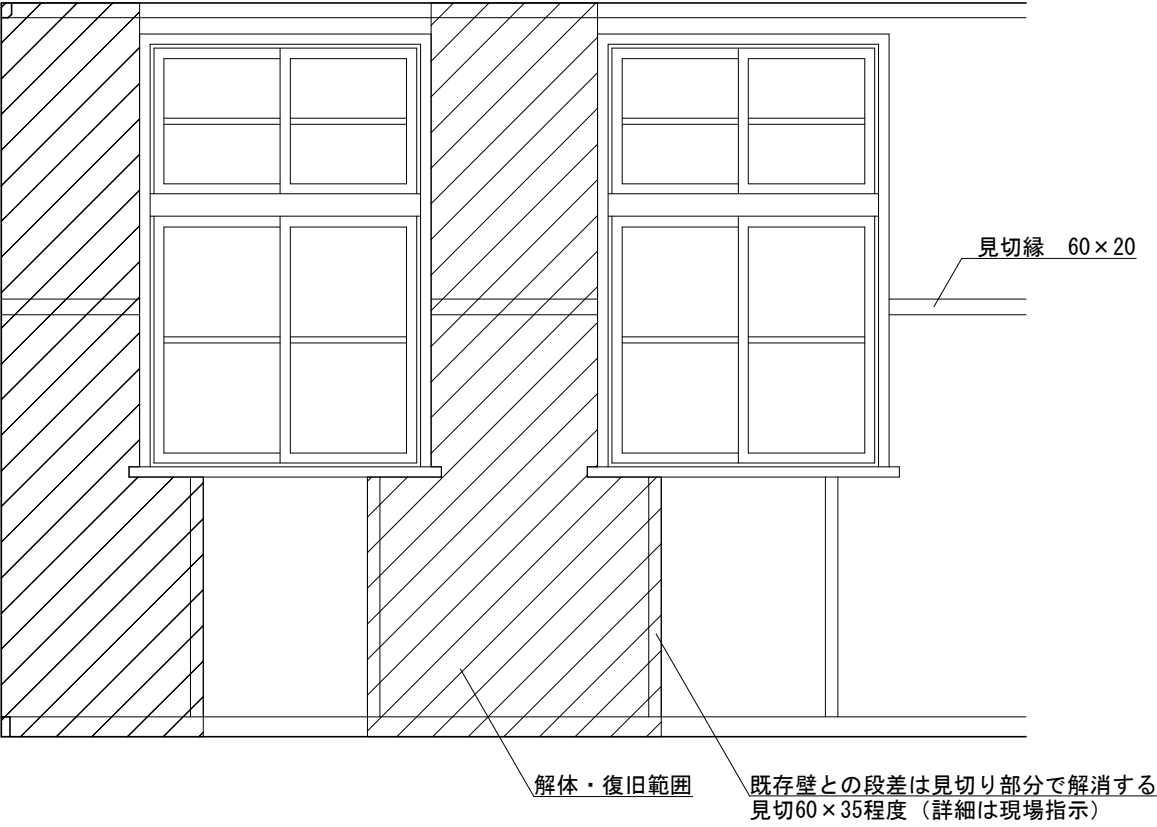


耐震補強後断面図

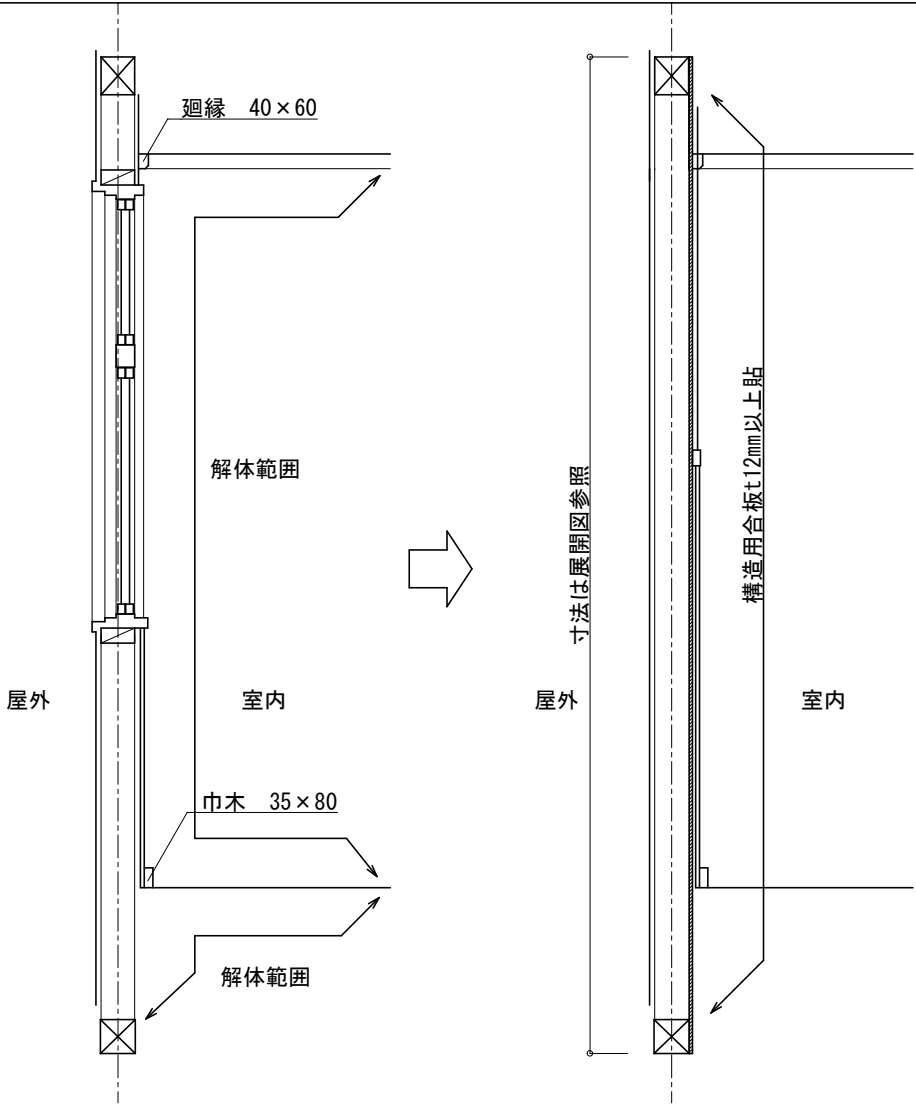
【構造補強工事】

- ①可動パネル、枠撤去
- ②天井、壁面、柱型、床面（2層分）部分解体
- ③建て入れ調整、壁下地組
- ④窓ガラスに目隠しフィルム貼
- ⑤構造用合板貼 t12（窓を塞ぐ）
- ⑥床組復旧、合板貼、フローリング貼
- ⑦壁、柱型、天井下地組
- ⑧P B貼、巾木、廻縁
- ⑨可動パネル枠復旧
- ⑩改修部分の塗装
- ⑪可動パネル再取付

※巾木、フローリングは再使用。
但し、解体し再使用不可の場合は、新規材とする。

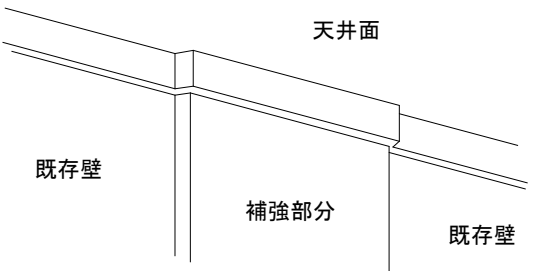


企画展示室 補強部分展開図



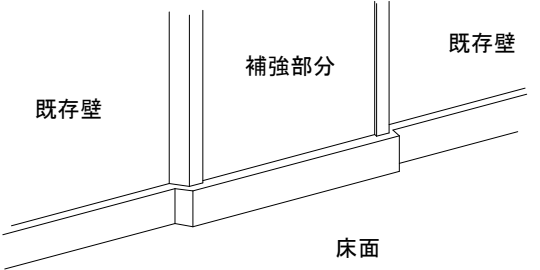
補強部分断面図

補強部分断面図

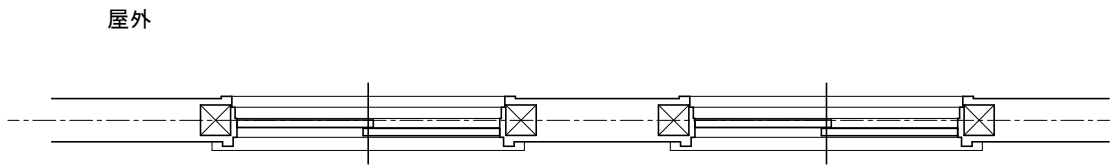


天井面補強後イメージ

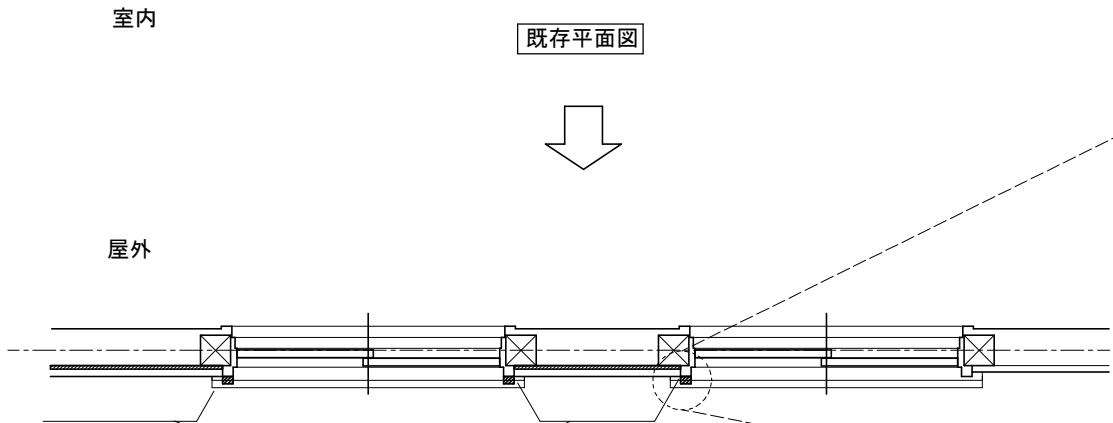
合板貼補強部分の壁が室内側に出てくるため
天井面と床面に凹凸ができる



床面補強後イメージ



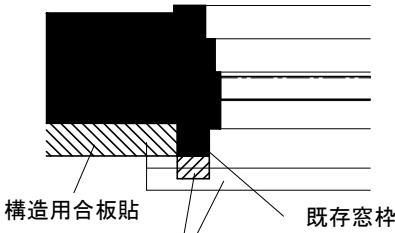
既存平面図



構造用合板（t12mm以上）貼範囲

補強部分平面図

窓枠部分詳細図



窓枠部分を付加す

構造補強で壁厚が増すことにより、納まりに支障が生じた箇所については
必要に応じて窓枠を付加すものとする。
場所により壁チリ寸法にバラつきがあるため、施工図を作成し、確認のこと。

【構造補強工事】

- ①天井、壁面、柱型、床面（２層分）部分解体
- ②建て入れ調整、壁下地組
- ③構造用合板貼 t12
- ④床組復旧、合板貼、フローリング貼
企画展示室１・２は既存ビニールシートの上全面に
新規ビニールシート貼
- ⑤壁、天井下地組
- ⑥上部PB貼、腰壁都合板貼り、見切り縁、巾木、廻縁
- ⑦改修部分の塗装

※巾木、フローリング、廻縁、腰壁見切縁は再使用。
解体し、再使用不可の場合は、新規材とする。

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名： 令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

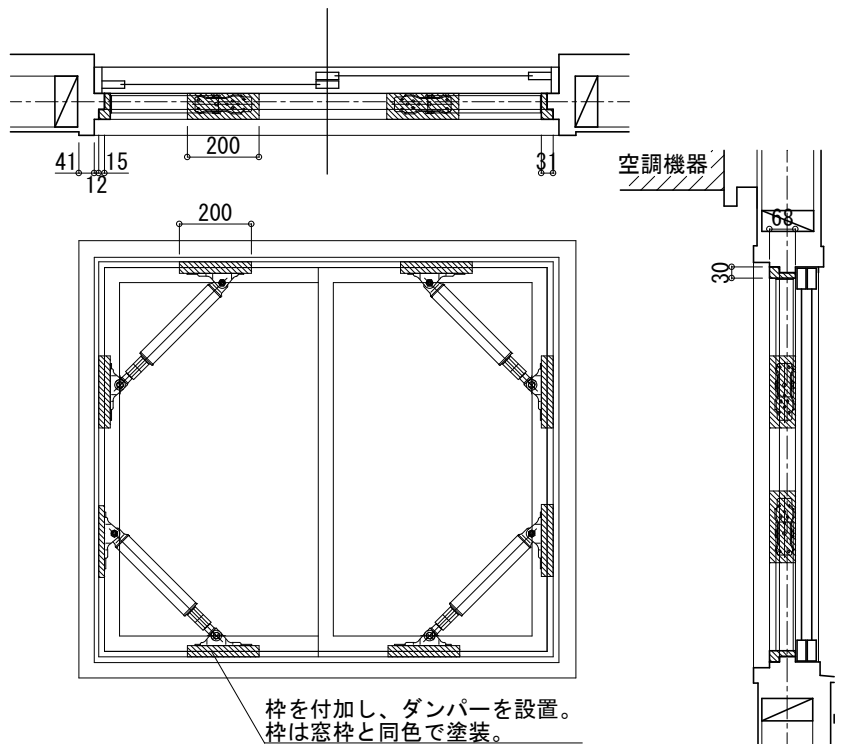
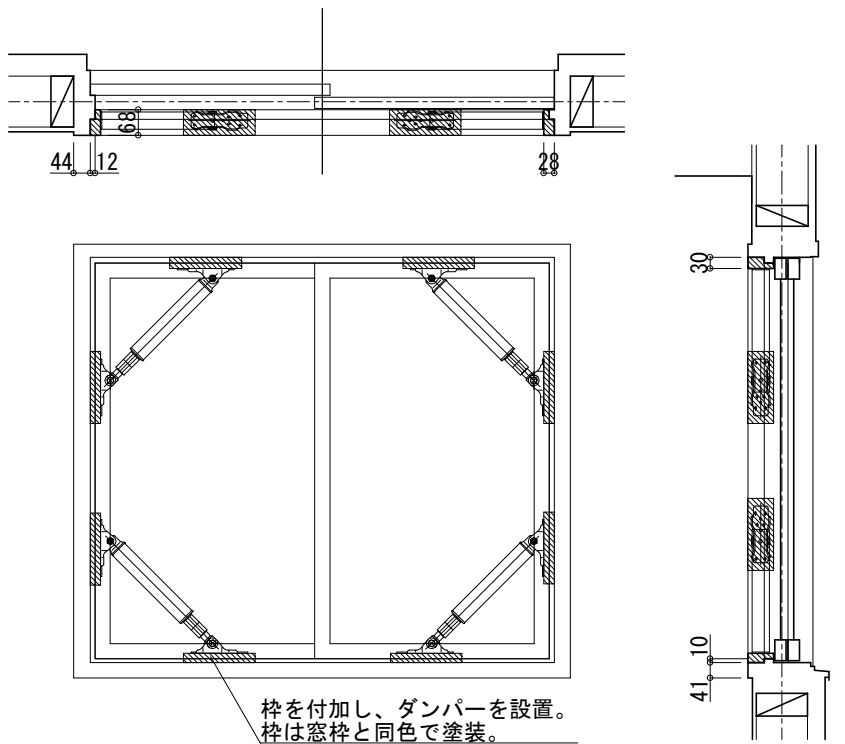
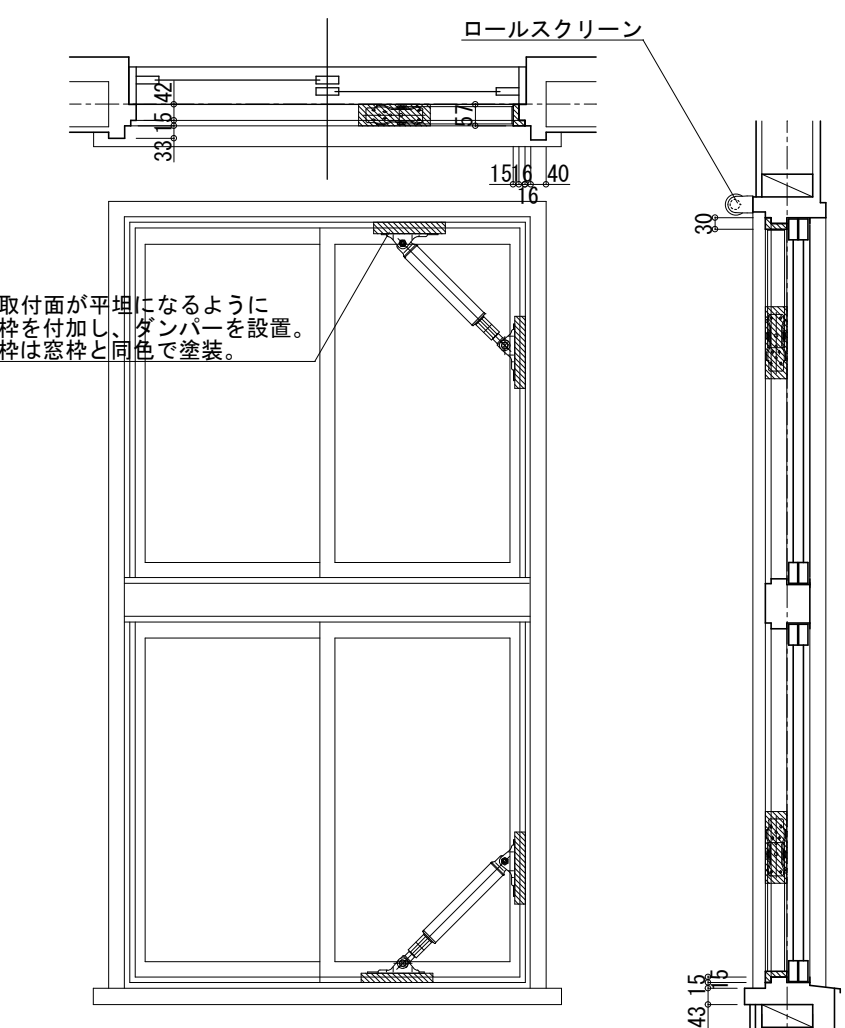
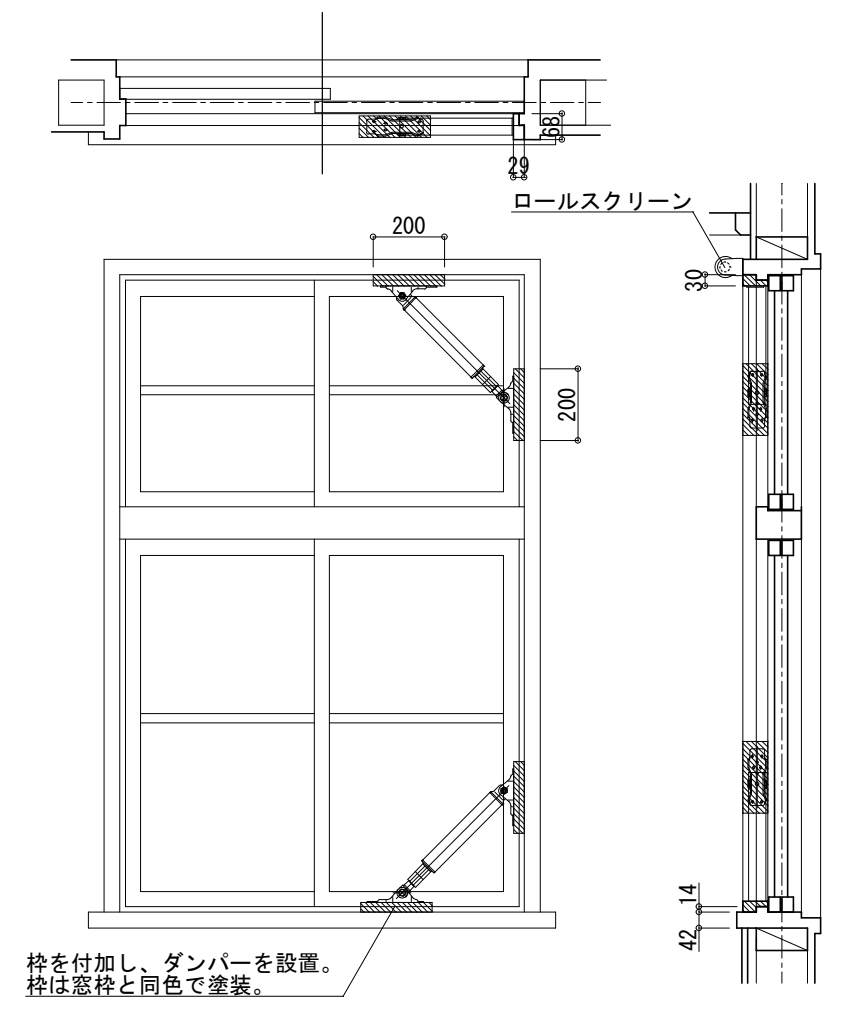
図面名： 改修部分詳細図2（企画展示室側）

図面番号： A-30

縮尺： 1/30・1/10（A3）

設計年月日：

区分：

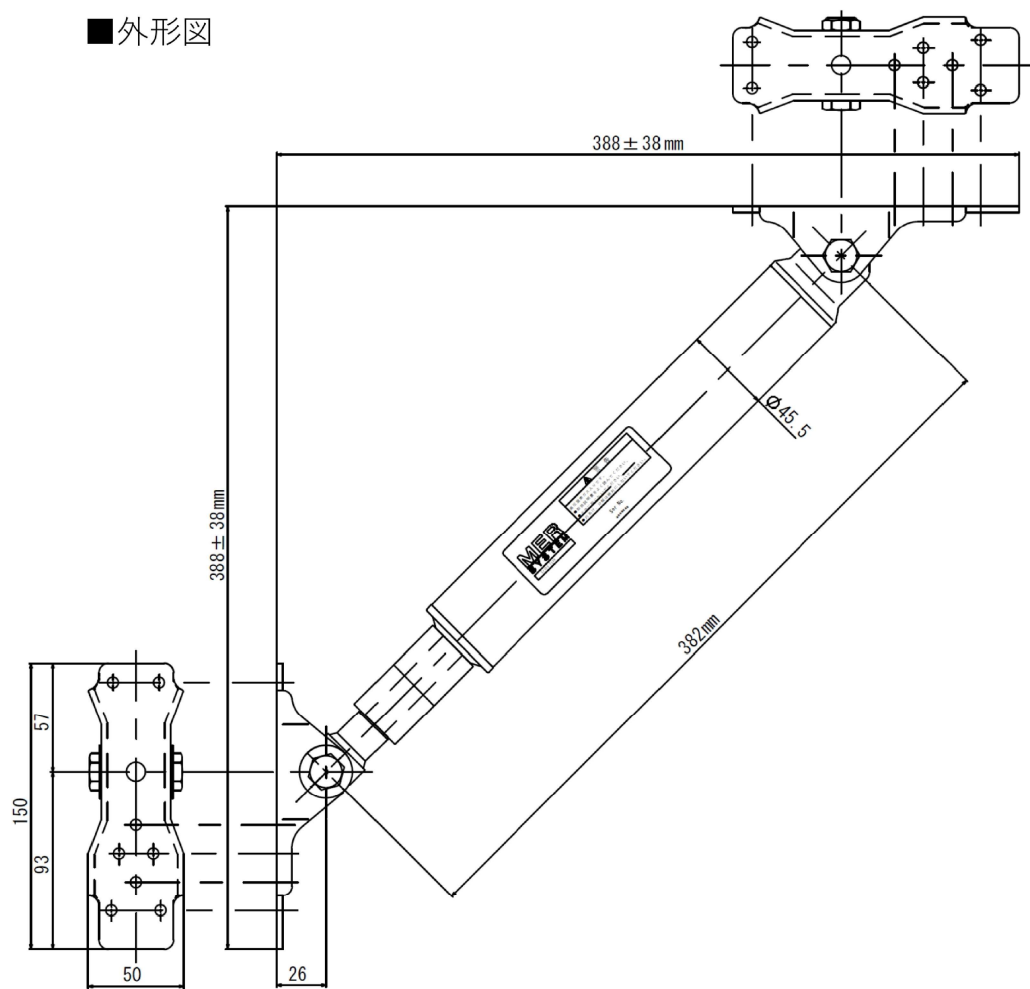
常設展示室Y14通り（アルミサッシ）		常設展示室Y11通り（木製建具）	
			
企画展示室 1（アルミサッシ）		廊下（木製建具）	
			
特記：		株式会社 伝統建築研究所	
		宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	
		一級建築士 No.254986 代表取締役 高橋直子	
		検図： 設計： 担当：	
令7-依・単		工事名：	
杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事		図面名： 改修部分詳細図3（オイルダンパー取付部）	
縮尺： 1/20（A3）		設計年月日：	
		図面番号： A-31	
		区分：	

■形名
MER SYSTEM Cross Type

■概略仕様

- *ダンパー仕様
 - ・構造：単筒オイル封入式（モノチューブ高圧GAS封入式）
 - ・最大ストローク：50mm（±25mm）
- *ユニット寸法（最大マス）縦：150mm 横：496mm 幅：50mm
- *ユニット総重量：1485g（取付けビス含まず）
- *使用オイル：合成油
- *外装部品、表面処理
 - ・アルミニウム材＋アルマイト
 - ・鋼材 硬質クロームメッキ（CFメッキ）
- *使用環境
 - ・-20℃～80℃
- *取付けビス
 - ・L=65mm TANAKA TBA-65

■外形図

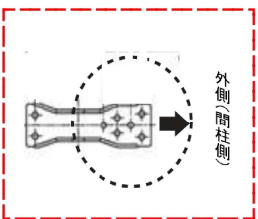
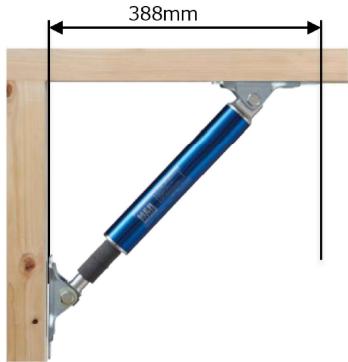


■減衰力性能

	ピストンスピード 0.10m/s
TEN.	4715 ± 943 (N)
COMP.	3852 ± 770 (N)

■施工方法

- ・柱面から388mmに墨付け



施工時 注意事項

取付角度は±6° 以内を推奨していますので、墨付け及び設置は上記寸法の±38mm以内とする

■取扱説明書

- ・ロッドピストン（シャフト）、シリンダーケースは工具等でつかむとオイル漏れや作動不良の原因になりますので、絶対に行わないでください。
- ・穴あけ、分解は絶対にしないでください。
- ・改造は絶対にしないでください。 ※改造等による問題や不具合の発生には一切の責任は負いません。
- ・落としたり、叩いたり、ぶつけたり、何かに当たったりしないでください。 ※不具合の原因になります。
- ・施工手順や取付け条件等の変更はしないでください。
- ・本製品はオイルや高圧ガスが封入されていますので、火中に投げたり、火に近づけたり、溶接等の火に近づけないでください。
- ・化学薬品等の付着は避けてください。
- ・本製品への塗装等は絶対にしないでください。
- ・ロッドガード（スポンジカバー）は取らないでください。 ※取扱いを誤ると作動不良や故障の原因になります。
- ・取扱い等の誤りで不具合が生じた場合、クレームには応じかねますので十分にご注意願います。

機種名	制震装置MER SYSTEM Cross Type	
作成日時	2025/03/18	整理番号CJ0-22201-11
日本制震システム株式会社		

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名：

令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名：

オイルダンパー仕様書

縮尺：

NON

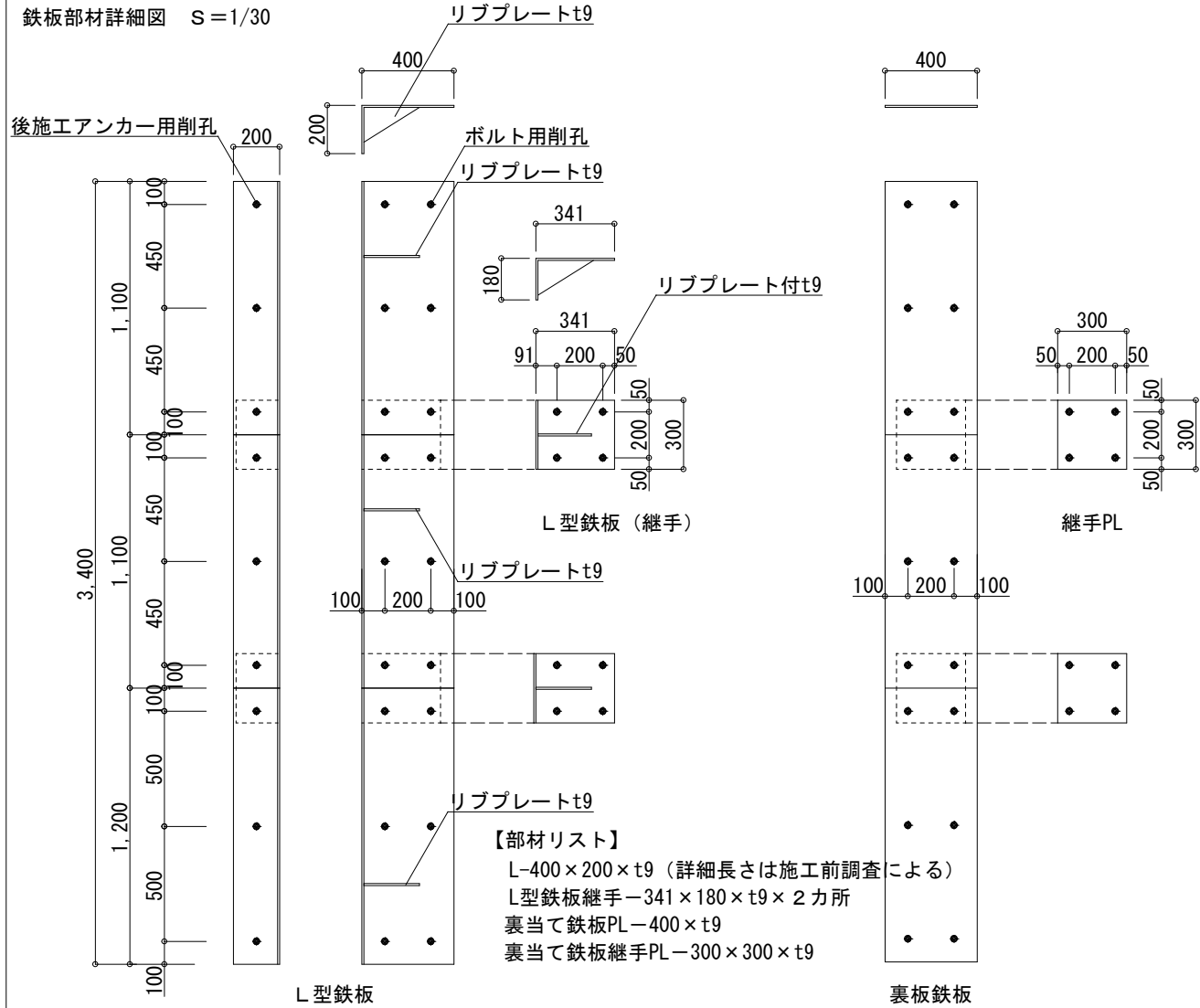
設計年月日：

図面番号：

A-32

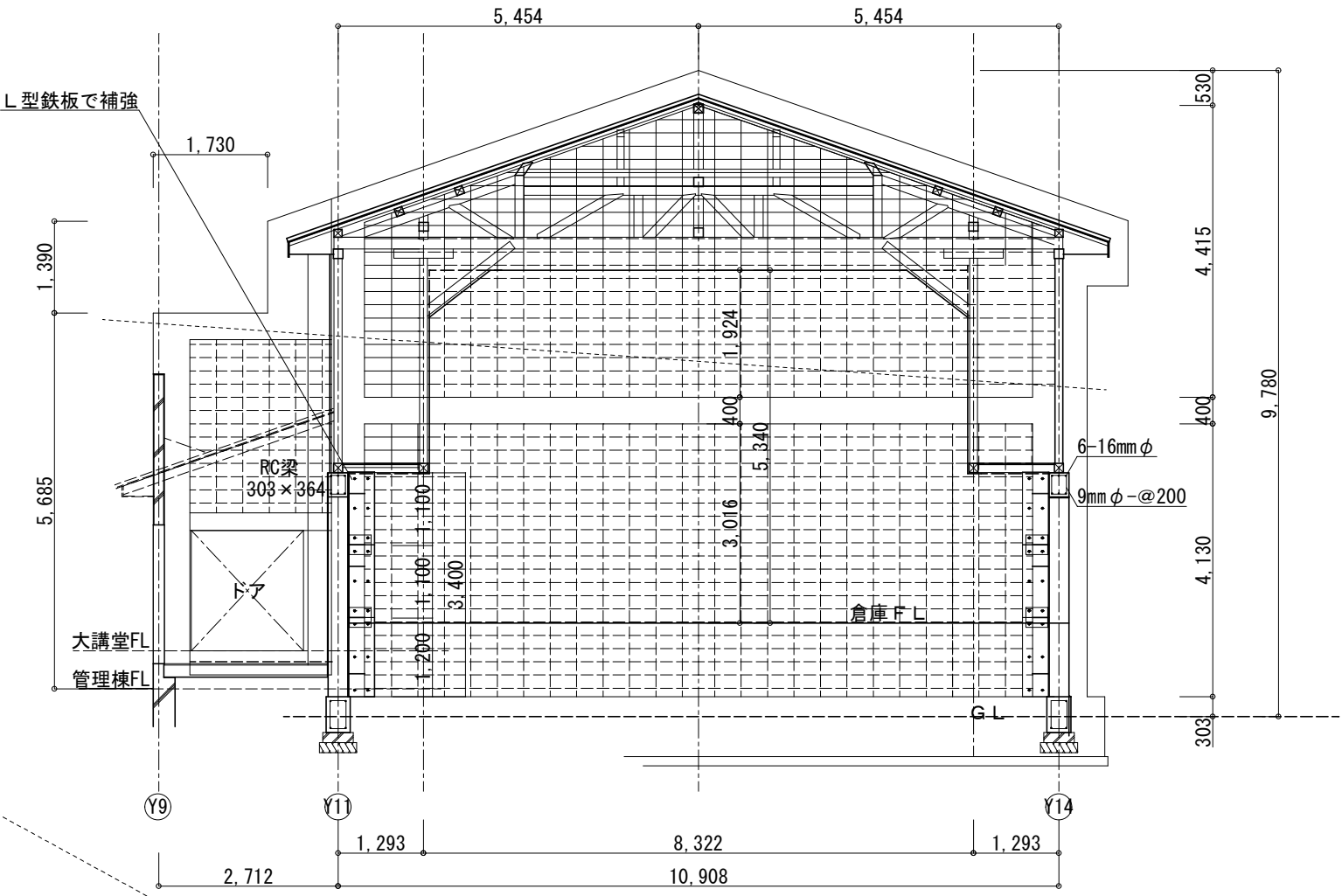
区分：

鉄板部材詳細図 S=1/30

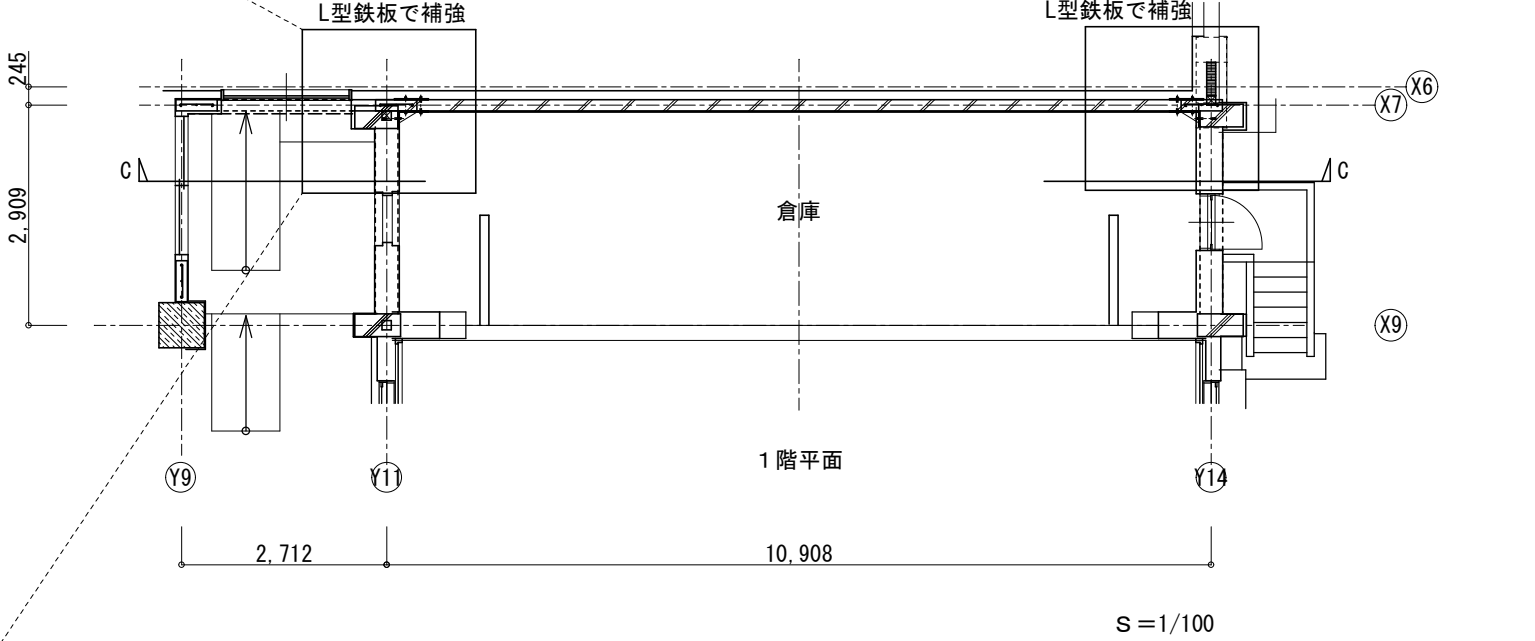
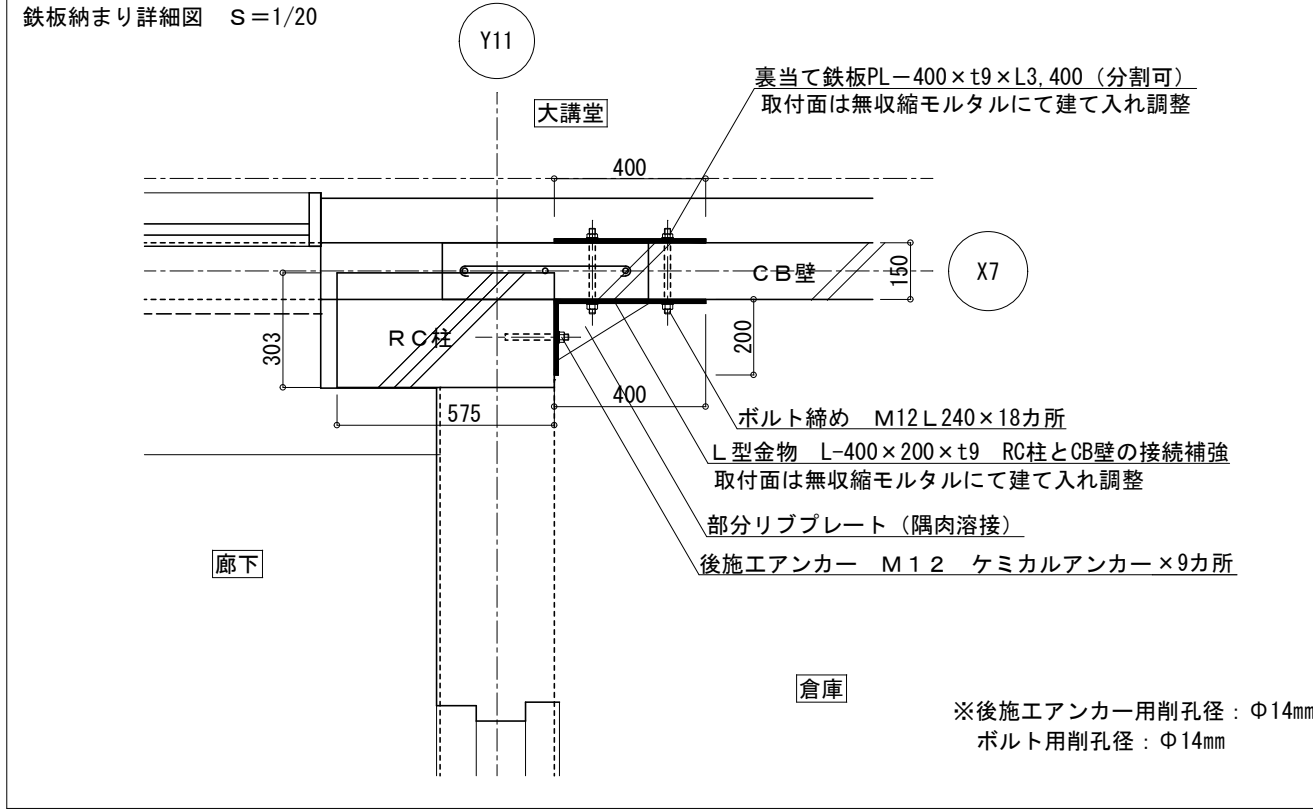


【改修範囲】

- ・接続部分の施工前調査を行う。（仕上材を剥がしての目視検査、鉄筋探査）
- 調査の結果により、補強必要・不要の判断を検討。
- 補強不要となった場合は、設計変更の対象とする。



鉄板納まり詳細図 S=1/20



特記:

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986
代表取締役 高橋直子

検図:
設計:
担当:

工事名: 令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

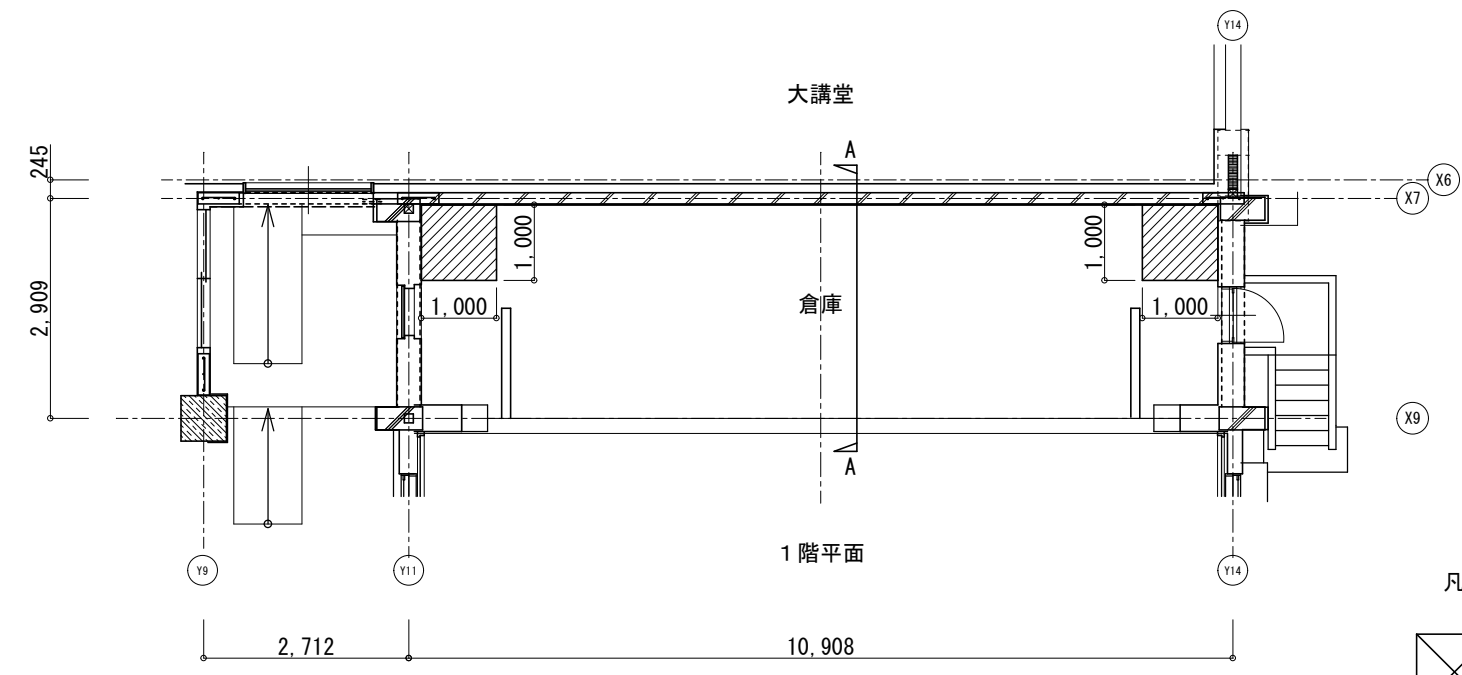
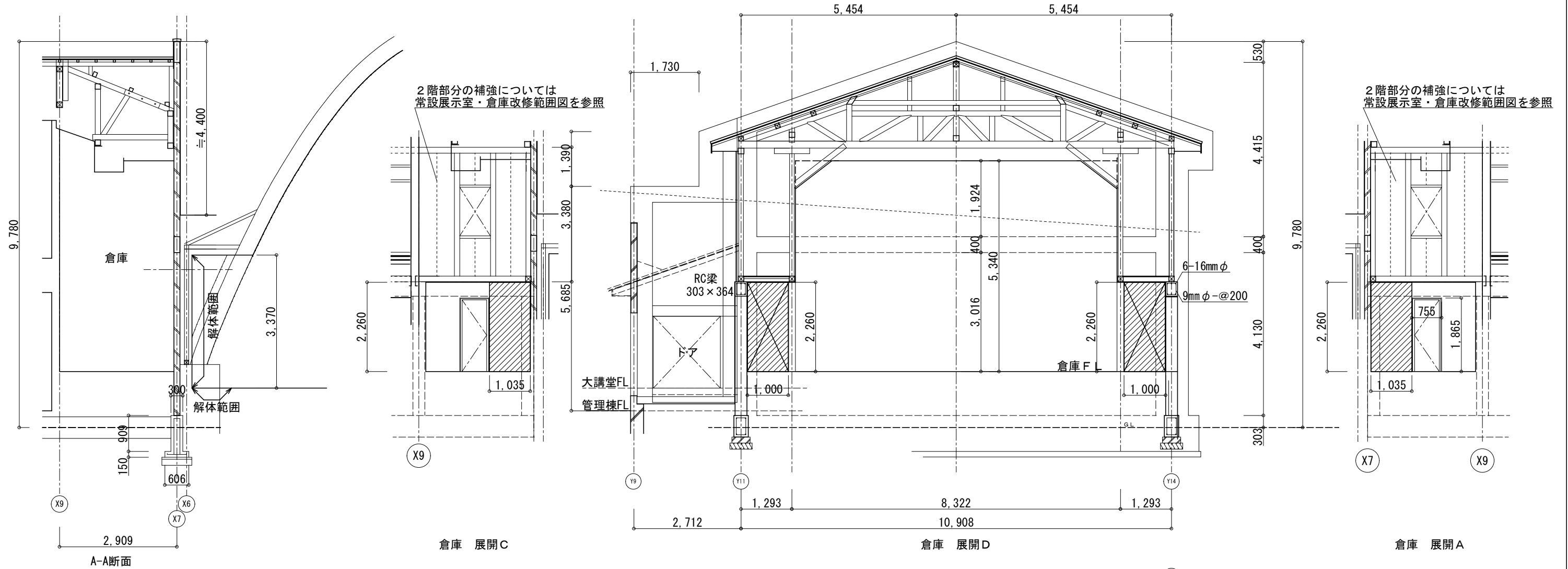
図面名: C-B壁・RC構造部補強詳細図 1

縮尺: 1/100・1/30・1/20 (A3)

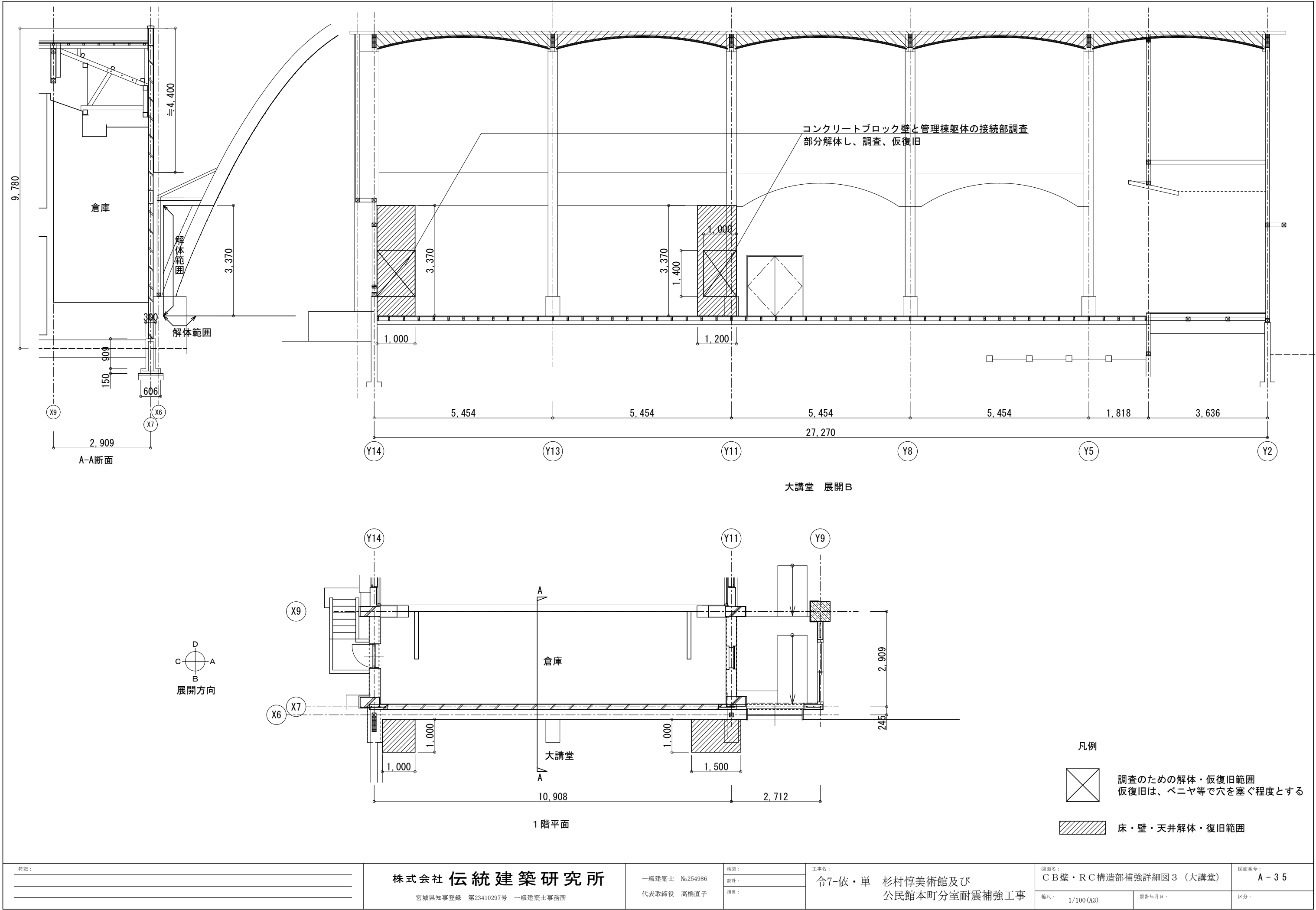
設計年月日:

図面番号: A-33

区分:



- 凡例
- 調査のための解体・仮復旧範囲
仮復旧は、ベニヤ等で穴を塞ぐ程度とする
 - 床・壁・天井解体・復旧範囲



特記:

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図:

設計:

担当:

工事名:

令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名:

C B壁・RC構造部補強詳細図3 (大講堂)

図面番号:

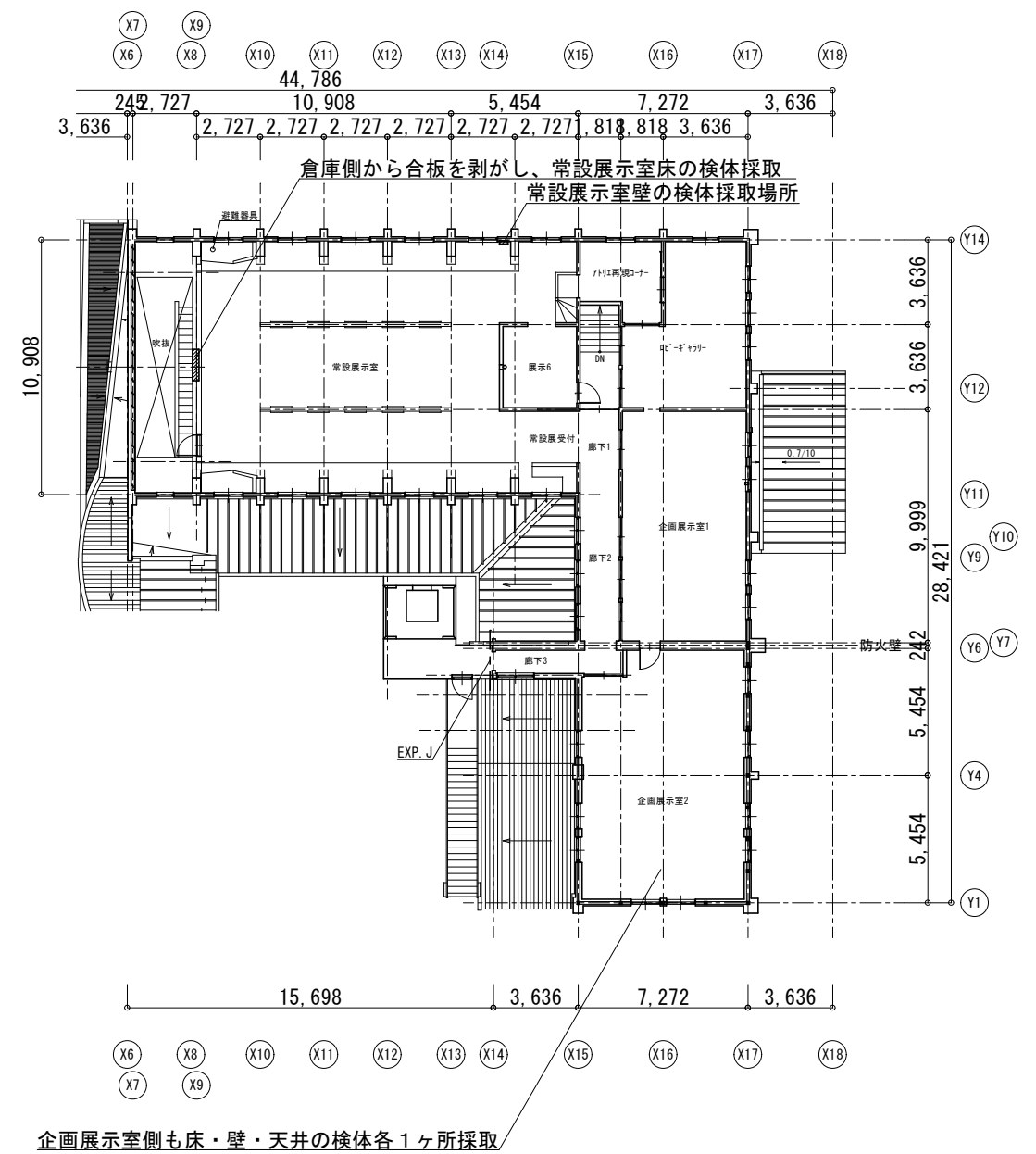
A-35

縮尺:

1/100 (A3)

設計年月日:

区分:

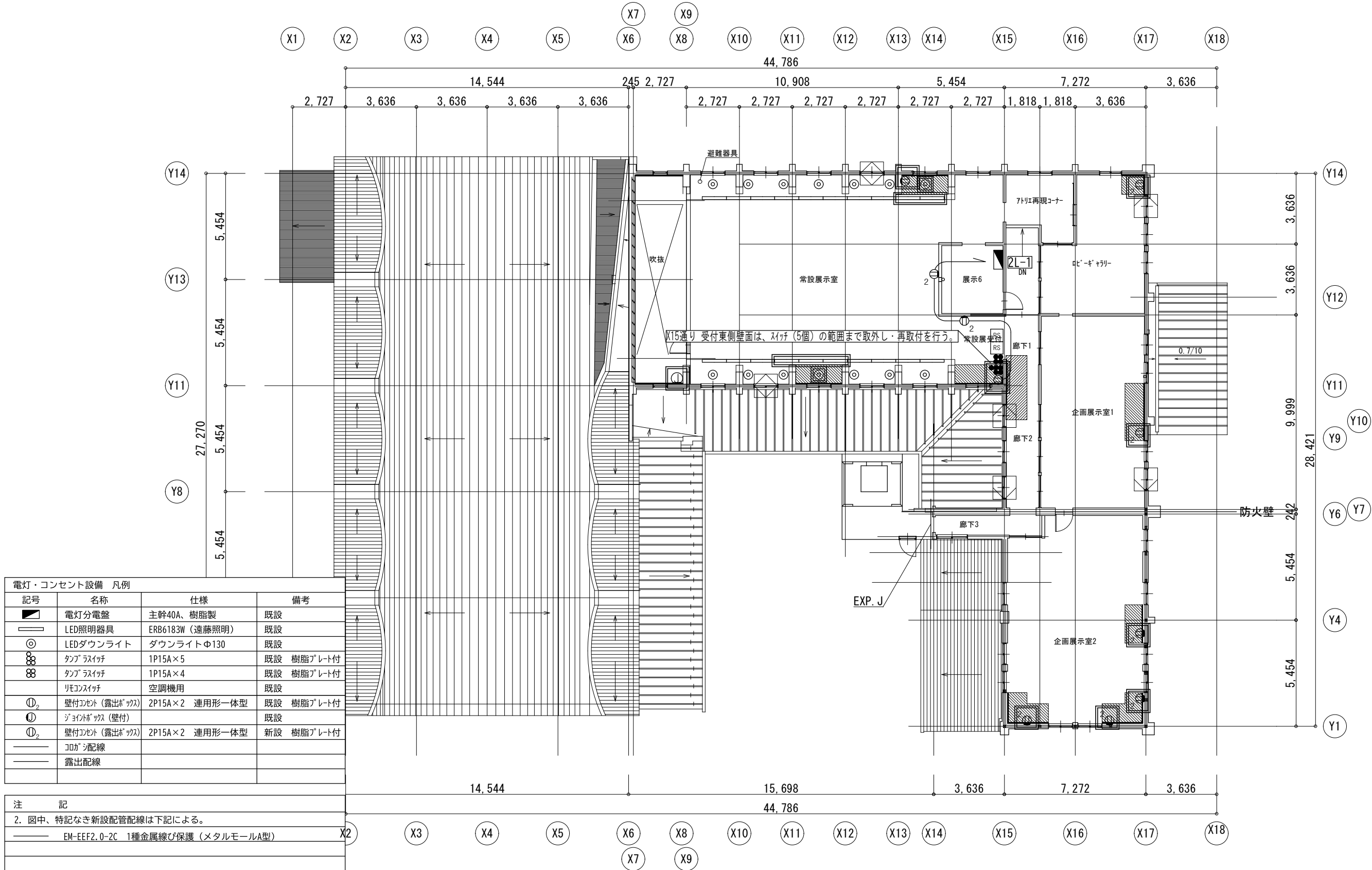


図に示す検体採取・分析調査は本工事に含む。

工 事 概 要									
1. 工事名		令7-様 杉村修養所奥及び公民館本館分室耐震補修工事							
2. 工事場所		宮城県東通町本町8番1号							
3. 建物概要									
建 物 名 称	構 造	階 数	延べ面積 (㎡)	建築面積 (㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備 考			
杉村修養所	木造	2 階	建築改修	工事	特記仕様書による。				
4. 工事項目 (○印のついたものを適用する。)									
建物別及び工事項目		工 事 種 別		屋 外		備 考			
○電気設備		改修一式							
○配電設備									
○電力設備									
○系統設備									
○変電設備									
○電力受設備									
○発電設備									
○屋内低圧送電設備									
○機内交換設備									
○情報表示設備									
○伝送・音響設備									
○伝送設備									
○テレビ共用受信設備									
○電気ケーブル設備									
○駐車場管理設備									
○防犯・入退室管理設備									
○自動車入庫管理設備									
○中央監視制御設備									
○機内配電線路						外灯設備を含む			
○機内通信線路									
○その他工事		別紙仕様書による							
5. 指定部分		※ なし		あり (工 期 : 令和 年 月 日)		(対象部分:)			
6. 概成工期		※ なし		あり (工 期 完了 日)					
Ⅱ. 特記仕様書									
1. 一般事項									
(1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通大臣官庁官庁工務部監修の「公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編、令和4年版)」、公共建築改修工事標準仕様書 (令和4年版)、国土交通大臣官庁官庁工務部監修、環境調整部の「公共建築設備工事標準図 (電気設備工事編、令和4年版)」による。									
(2) 機械設備工事及び建築工事を本工事を含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事特記仕様書を使用する。なお、機械設備工事の特記仕様書は () 図、建築工事の特記仕様書は () 図による。									
2. 特記事項									
(1) 項目は番号に○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。									
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。									
○印と※印の付いた場合は、共に適用するものとする。									
Ⅲ. 項 目									
特 記 事 項									
1 適用基準等									
※ 建設工事執行規則 (昭和39年3月宮城県規則第9号)									
※ 宮城県建設工事完結、中間検定適正化審議 (更新版)									
※ 各種工事実施要領等 (国土交通大臣官庁工務部監修 令和5年版)									
及び工事実地調査ガイドブック「電気設備工事編」 (国土交通大臣官庁官庁工務部監修 令和5年版)									
2 機 材 等									
※ 本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの、またはこれらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承認を受けるものとする。									
※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、「施設設備のシグナルスマニアル」に留意し、機材・材料等と適合する材料の採用による品質の向上を図る。									
※ 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は、日本産業規格及び日本森林規格のF☆☆☆☆規格品、壁紙材料協会推奨商品または同等品を、化学物質等製品安全データシート等にホルムアルデヒド使用が明示されたものとする。									
3 機材の品質・性能証明									
本工事事前に機器類の取扱いを提出し、監督職員の承認を受ける。									
また、「建築材料・設備材料等品質性能保証書」(一社)公共建築協会)によって所定の品質・性能を有することの証明を受けた材料・機材等を使用する場合は、詳細書の写しを監督職員に提出するものとする。									
4 保 険									
本工事事前に工事目的物及び工事材料等を、本工事完了後引渡し期日まで火災保険及びその他の保険に付し、写しを監督職員に提出する。									
5 雇 用									
公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努める。									
6 施工計画書・施工図等									
工事の施行に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。									
工事の施工に先立ち、工種別に実施要領及び施工図面を作成し、監督職員の承認を受ける。									
7 手 続 き									
工事の着手、施し及び完成において、官公署その他関係機関との必要な手続き等は監督職員と協議の上、受注者が滞りなく処理する。なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。									
8 施工条件									
別紙の施工条件事項による。									
9 工事の一時的止									
建設契約第20条第2項に基づき工事の一時的中止の通知を受けた場合は、工事の進行に備え中止期間における工事現場の管理計画書を提出すると、本計画書は、中止時における工事の出来高、撤入材料及び建設機械等の数、中止期間中の管理体制及び工事現場の維持管理に関することを記載することとする。									
10 工事実績情報の登録 (CORIS)									
積算価額が500万円以上の場合は、工事実績報告を登録する。									
設計、受注変更及び完成後にあらかじめ監督職員の承認を受けて、登録手続きを行い、工事カルテの受領後、監督職員に提出することとする。									
11 事故報告									
施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督職員に通報するとともに、「事故報告書」を別に指示する期日までに監督職員に提出する。									
12 電気保安技術者									
電気工作に係る工事においては、電気保安技術者を置くものとする。									
13 工事用電力、水、地									
本工事に必要な工事用電力、水などの費用は引当金すべて受注者の負担とする。									
14 工事使用箇所									
構内につくことが、※ できる (建築仕様、敷地外用地を使用する場合もある) ・ できない									
15 監督職員事務所									
※ 設けない ・ 設ける (号 ・ 建築工事)									
16 足場、土台・構内									
・ 別契約の関係請負者が設置したものは、無償で使用する。 ・ 本工事で設置する。 なお、枠組足場を設ける場合は、「手すり付工法等」に関するガイドライン (厚生労働省平成21年4月改訂) に沿うものとし、二階床す及び構内の機能をもつものとする。									
17 工事表示板									
設置工事における工事及びコスト表示要領 (平成14年2月6日宮城県土木本部通知「設置要領」) により設置する。									
・ 設けない ・ 設ける 1枚									
・ 設ける工事における工事及びコスト表示要領 (平成14年2月6日宮城県土木本部通知「設置要領」) により設置する。									
18 工事用通路									
・ 指定しない ○ 指定する (図示)									
19 発生材の処理等									
発生材の処理									
・ 引渡しを要するもの ()									
・ 特定管理産業廃棄物 () ・ PCB使用機器 ()									
・ 入居施設名、所在地 ()									
・ 入居施設名、所在地 ()									
○ 図示により再利活用を要するもの ()									
・ 再利活用を要するもの ()									
機 種									
受 入 施 設 名									
所 在 地 (k.m)									
備 考									
・ その他特定産業廃棄物 ()									
・ 入居施設名、所在地 ()									
・									

受電設備	1. 工事範囲	・ 受電部	・ 引下げ導線	・ 接地極埋設
	2. 受電部	・ 変圧	・ 線上導体	・ 並木（別途）など
	3. 送電導線	・ 引下げ導線	・ 構造体利用	
	4. 接地極	※ 接地極埋設	・ 構造体利用（測定時期	回数）
	5. 測定用補助接地極	・ 設置		
	6. 工事範囲	・ 機器類		
	7. 電気方式	・ 高圧 三相3線式 6kV 50Hz ・ 低圧 三相3線式 200V ・ 低圧 単相3線式 100V/200V		
	8. 引込ケーブル	・ EM-CET38” ・ EM-C38”-3C	・ EM-CET60” ・ EM-C60”-3C	
	9. 配電盤	・ 屋内形 ・ キュービル式配電盤	・ 屋外形（防鼠処理及び耐震対策を施す） ・ 高圧閉鎖配電盤	
	変電設備	1. 主遮断装置	※ 限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（PF-S）	・ 高圧交流遮断器（CB）
2. 高圧機器類		・ 定額遮断電流 kA ・ 加入式 ・ 手動	・ モーター・電磁 ・ 電機	
3. 変圧器		・ 単相変圧器 kVA ・ 三相変圧器 kVA	・ 三相変圧器 kVA	
4. 送電用コンデンサ		・ 低圧 ・ 油入式	・ 高圧 ・ モード	・ ガス式
5. リアクトル		・ 6% ・ 13%		
6. 自動力制御装置		※ マーターリレー形	・ 静止形	
7. 測定用補助接地極		・ 設置		
8. 直流電源装置		※ 非常用照明器具電源、受変電設備制御電源供用	・ 受変電設備制御専用	・ 非常用照明器具専用
9. 交流無停電電源装置		用途（容量） ・ 鉛蓄電池（・ HS ・ CS ・ MSE） ・ アルカリ蓄電池（・ AH ・ AMH） ・ リチウムイオン電池（・ ）	・ 長寿命型MSE（・ ）	
発電設備		1. 工事範囲	・ 機器類	
	2. 形式	・ 箱型形 ・ 屋外形	・ キュービル式 ・ オープン形	
	3. 発電機	電気方式 相 結 式 50Hz 電圧 V 定格出力 kVA 運転時間 時間		
	4. 原動機	種類 ・ ディーゼル ・ ガスタービン	・ 定格出力 kW以上（PS以上） ・ 冷却方式 ※ 電気式 ・ ラジエータ式	・ 空気式 ・ 水冷循環式
	5. 燃料	種類 ・ 軽油 ・ 灯油 ・ A重油	・ 燃費の小値 ・ なし	・ あり（・ 別途 ・ 本工事：）
	6. 太陽光発電装置	太陽電池モジュール公称出力 W パワコンディショナ 自立運転 有 格 種 式 定格電圧 V 定格出力 kW 有 雷 電 有 （有電容積 kWh） 無		
	7. 系統連系	・ 有 ・ 無		
	8. 工事範囲	・ 交換機	・ 配線（・ 全部 ・ 端子盤以降）	
	9. 電話交換機	形式 ・ ボタン式電話機	・ デジタルPBX ・ IP-PBX	・ VoIPサーバ
	構内交換設備	1. 電話機への配線	回線数 局線 / 回線 内線 / 回線	
2. ローションアウトレット（亀甲形）		※ 一般電話用 ※ 銅合金製	・ 橋入する ・ アルミ製	・ 取り付ける
3. 保安警用接地		※ 本工事	・ 別途工事	
4. 工事範囲及び施工方法				
5. 情報表示設備				
6. 検映・音響設備				
7. 拡声設備				
8. 誘導支援設備				
9. テレビ共同受信設備				
火災報知設備		1. 工事範囲	・ 配管	・ 配線
	2. 火災感知装置	・ 壁掛形 ・ 突煙機	・ 立形 ・ 線 回線（アドレス）	
	3. 非常警報装置	・ 複合型 ・ 別設受信機	・ 線 回線（火報 回線、自動閉鎖 回線、ガス漏れ 回線）	
	4. 警報受信機	・ 感測器型 ・ 感測器型	・ 専用形（・ 増込形 ・ 露出形）	・ 屋内消火栓箱に組み込み ・ 自衛放散機能付
	5. 警報伝達装置	・ 非常ベル（自動式サイレンを含む）	・ 非常放送装置	
	6. 警報伝達装置	・ 運動制御器 ・ 自動閉鎖装置	・ 防火戸用 ・ 防煙シャッター用	・ 防火シャッター用
	7. ガス漏れ火災警報装置	・ 受信機 回線（・ 都市ガス用 ・ 液化石油ガス用）	・ 検知器 ・ 警報機	・ 火災発生後などの検査機
	8. 検知器	・ 併設 ・ 定価電圧（・ AC100V ・ DC24V）	・ 運動 ・ 有電圧出力方式 ・ 無電圧接点方式	
	9. 消火器類	・ 消火剤 ・ 消火器収納箱	・ 仕様 ・ 種類	・ 数量 ・ 材質 ・ 数量 ・ 面

注記：機器参考図について
本図面中で、機器の品質・グレードを規定する目的で機器の寸形状や諸元を参考図として記載している。
これらのものについては、その品質・性能が図面と同等級もしくはそれ以上のものを使用するものとする。



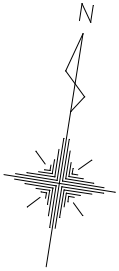
電灯・コンセント設備 凡例			
記号	名称	仕様	備考
	電灯分電盤	主幹40A、樹脂製	既設
	LED照明器具	ERB6183W（達藤照明）	既設
	LEDダウンライト	ダウンライトΦ130	既設
	タンブラスイッチ	1P15A×5	既設 樹脂プレート付
	タンブラスイッチ	1P15A×4	既設 樹脂プレート付
	リモコンスイッチ	空調機用	既設
	壁付コンセント（露出ボックス）	2P15A×2 連用形一体型	既設 樹脂プレート付
	ジョイントボックス（壁付）		既設
	壁付コンセント（露出ボックス）	2P15A×2 連用形一体型	新設 樹脂プレート付
	コブカシ配線		
	露出配線		

注 記	
2.	図中、特記なき新設配管配線は下記による。
	EM-EEF2.0-2C 1種金属線び保護（メタルモールA型）
3.	竿縁上の照明器具およびダクトレールは天井解体の範囲外のため、解体に伴う取外しを行わず、既設のままとする。

機器の取外し・壁補強後再取付を示す

電灯コンセント設備 2階平面図（改修前）

- 壁補強位置 構造用合板t12mm以上 片面
- 天井・床 解体範囲
- オイルダンパー



特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名： 令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

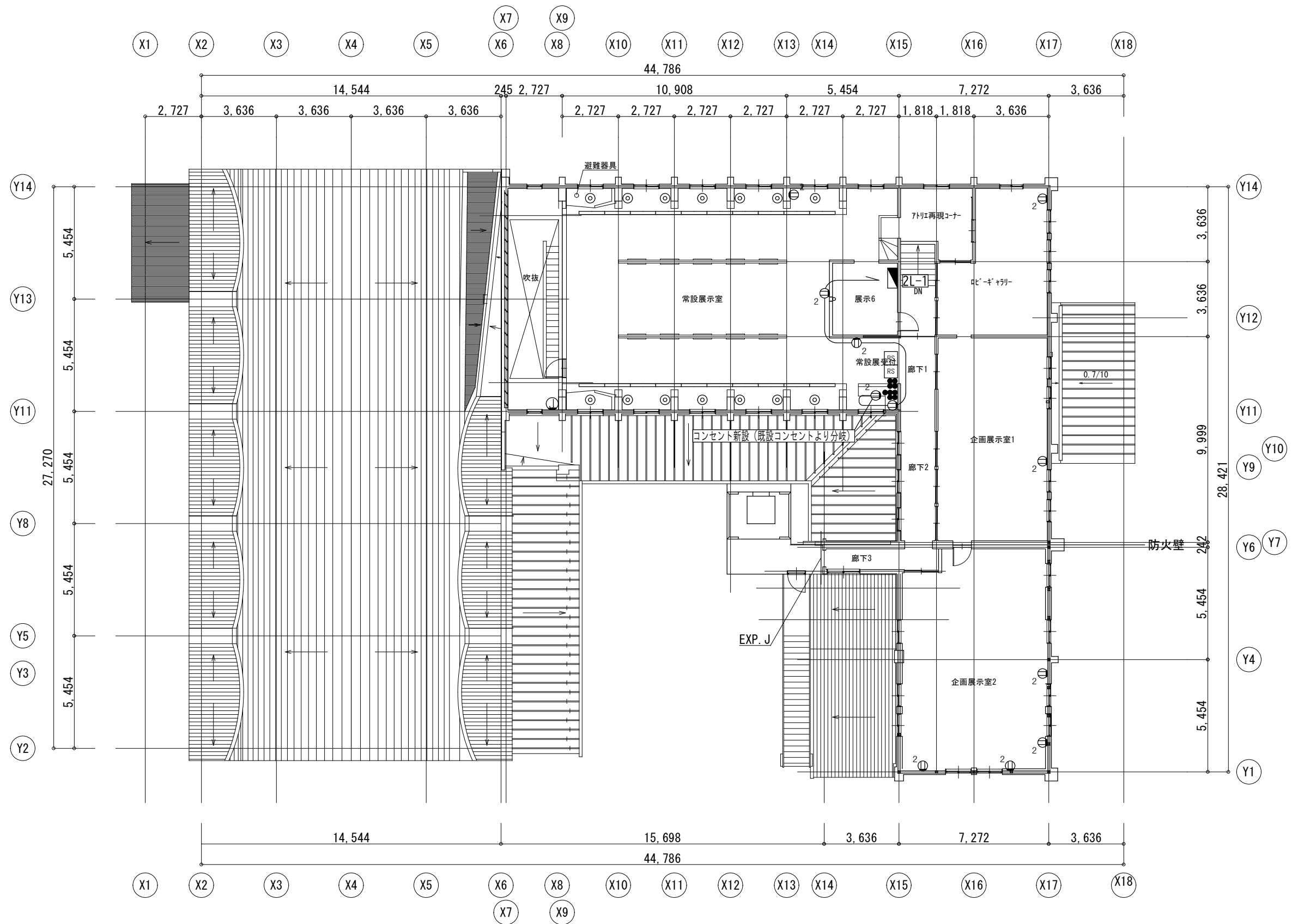
図面名： 電灯・コンセント設備
2階平面図（改修前）

縮尺： 1/200 (A3)

設計年月日：

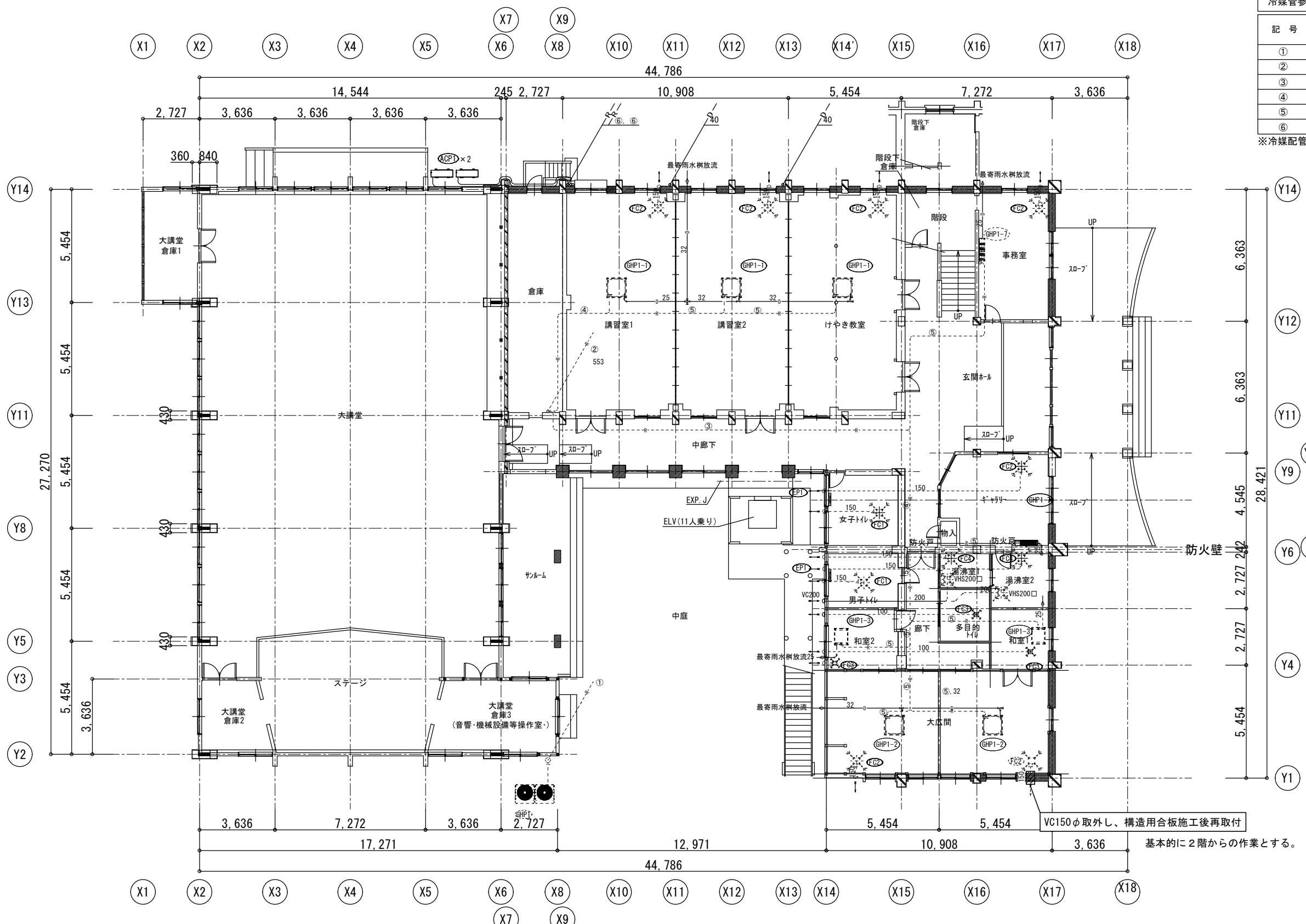
図面番号： E-02

区分：



電灯コンセント設備 2階平面図 (改修後)

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 No.254986 代表取締役 高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 令7-依・単 杉村惇美術館及び 公民館本町分室耐震補強工事	図面名：	図面番号：
					電灯・コンセント設備 2階平面図 (改修後)	E-03
					縮尺： 1/200 (A3)	設計年月日： 区分：

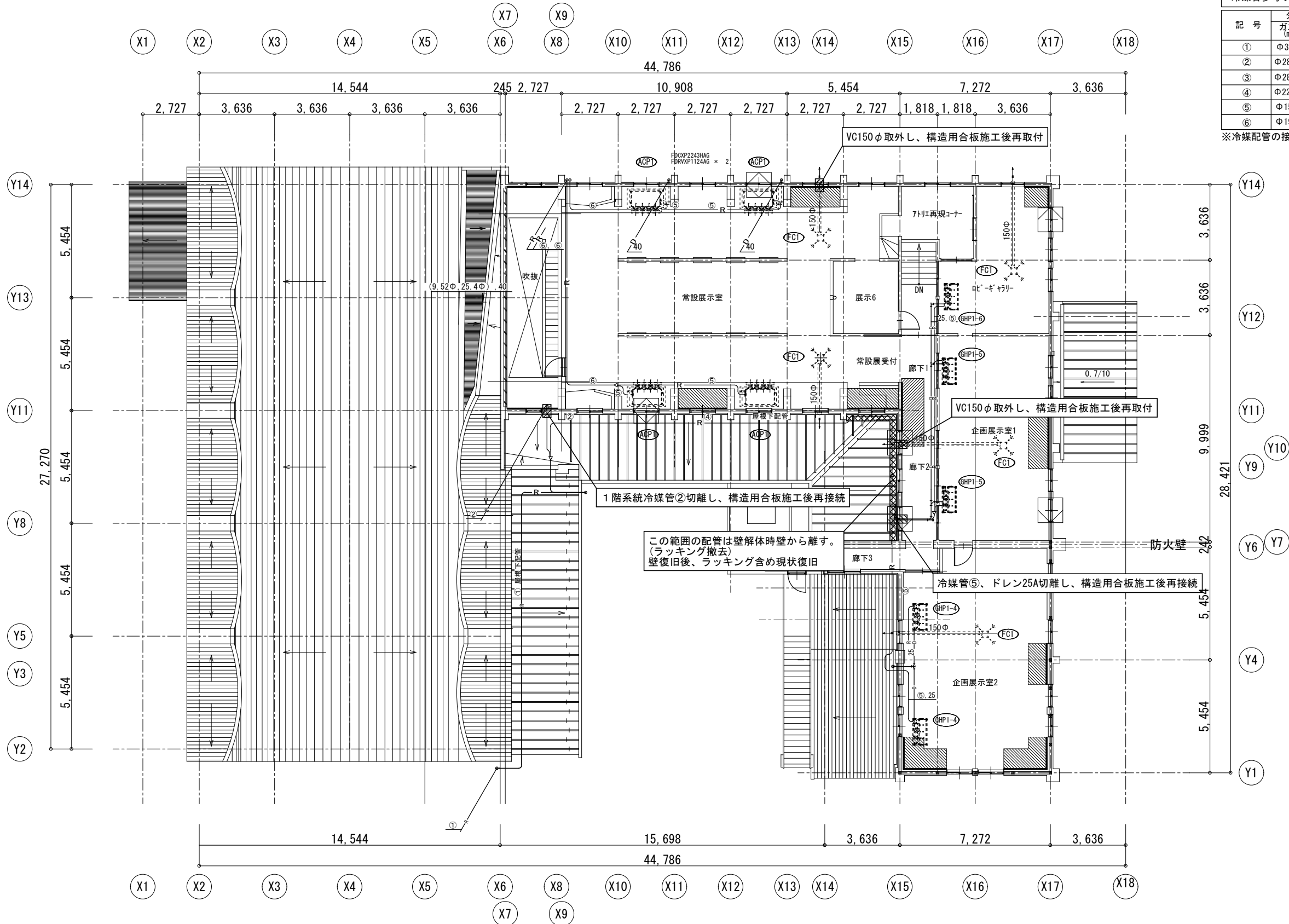


冷媒管参考サイズ			
記 号	分岐管サイズ		備 考
	ガス管 (mm)	液 管 (mm)	
①	Φ31.8	Φ15.88	内外機操作線
②	Φ28.58	Φ15.88	内外機操作線
③	Φ28.58	Φ12.7	内外機操作線
④	Φ22.22	Φ9.52	内外機操作線
⑤	Φ15.88	Φ9.52	内外機操作線
⑥	Φ19.05	Φ9.52	内外機操作線

※冷媒配管は化粧塩ビケース内に施工する

【工事範囲】
構造補強箇所に関する設備機器配管の切離し、再接続。
又、機器の取外し、再取付。

機械設備 改修 1 階平面図



冷媒管参考サイズ			
記 号	分岐管サイズ		備 考
	ガス管 (mm)	液 管 (mm)	
①	Φ31.8	Φ15.88	内外機操作線
②	Φ28.58	Φ15.88	内外機操作線
③	Φ28.58	Φ12.7	内外機操作線
④	Φ22.22	Φ9.52	内外機操作線
⑤	Φ15.88	Φ9.52	内外機操作線
⑥	Φ19.05	Φ9.52	内外機操作線

※冷媒配管の接続はファイヤーレスジョイントを使用する。

【工事範囲】
構造補強箇所に関する設備機器配管の切離し、再接続。
又、機器の取外し、再取付。
冷媒ガス回収・破壊 (R410A 約47Kg (想定)) ・冷媒ガス再充填を含む

機械設備 改修2階平面図

- 壁補強位置 構造用合板t12mm以上 片面
- 天井・床 解体範囲
- オイルダンパー

特記:

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 No.254986

代表取締役 高橋直子

検図:

設計:

担当:

工事名:
令7-依・単 杉村惇美術館及び
公民館本町分室耐震補強工事

図面名:
機 械 設 備 改 修 2 階 平 面 図
縮尺: 1/200 (A3) 設計年月日: 2025年3月

図面番号:
M-03
区分: